イナズマ11

ザ・アドベンツ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
イナズマ１１

【Ｎコード】
Ｎ６６４１Ｖ

【作者名】
ザ・アドベンツ

【あらすじ】
円堂守率いるイナズマジャパンが世界一になって１ヶ月後イナズマジャパンのメンバーは自分の中学校に戻りサッカーを楽しんでいます。そしてこれは円堂守の新たな物語である。

オリキャラ設定

オリキャラその１
名前　神無月　愛（かんなずきあい）
性別　女
特徴、瞳の色は薄い水色、髪の毛の色は濃いピンク、髪の毛は肩ぐらい、
設定、日本中で話題のスーパーアイドル
年齢は１４歳、雷門中学に転校してきた中学二年生、クラスは円堂と同じ、アイドル登録名はラブリン

オリキャラその２
名前　杉村　メロディーヌ
性別　女
アメリカ人と日本人のハーフでドイツからの留学生、
まっすぐであきらめない気持ちが強い円堂守に憧れている中学二年生。黒くて、ねこみみみたいな物がある帽子を被ったいる（たまごっちのメロディっちと同じ）世界で有名なバイオリニスト

第1話　開催　東京TVレース

雷門中でサッカーを楽しむ円堂たち、マネージャーの木野秋が休憩を入れ休んでいると響木監督が訪ねてきた
響木「お前達、面白い事話す。」
円堂「面白い事？」
響木「明後日から東京TVレースが開催する。出場者は、５人から１１人だ。」
染岡「なんかすげー事が始まりそうだぜ。」
鬼道「響木監督まさか帝国学園も出るんですか。」
響木「ああ、帝国だけでなく御影専農や野生中も出る」
豪炎寺「フットボールフロンティア地区予選で出たチームが出場するのか。」
響木「そこで雷門メンバーの出場者は、鬼道、松野、豪炎寺、半田、土門、一之瀬、影野、風丸、染岡、闇野、円堂、以上だ。」
目金「良かった選ばれなくて。」
宍戸「全員二年生か。」
円堂「よ～し、みんな全力で走るぞぉ。」
メンバー「オ～」
レース当日。
温子「守ー今日はテレビ局でレースするんでしょう。」
円堂「いけね、寝過ごした。」
木野「あ、来た来た」
円堂「おーい」
風丸「遅いぞ円堂」
鬼道「時間は間に合ったがな。」
円堂「ワリーワリーつい寝過ごしちまって」
冬花「でも、これで全員揃いましね。」
佐久間「鬼道」

鬼道「佐久間、源田
お前は，不動」
不動「言ってなかったか。俺帝国に転校してきたんだぜ。」
円堂「そうなんだ」
佐久間「俺たちだけじゃない地区予選で出たチームもいるぜ。」
夏未「なんか向こう騒がしいわね。」音無「夏未さん、見て下さい
スーパーアイドルのラブリンがいますよ。」
ラブリン「みなさん、こんにちわ～今日はここ東京テレビ局で東京
ＴＶレースを行います。チャンネルはそのまま。」
栗松「やっぱりラブリンは最高でヤンス！！」
円堂「なあ、豪炎寺ラブリンてそんなにすごいのか？」
豪炎寺「お前、知らないのか？」
円堂「知らない！」
夏未「円堂くん、テレビ何見てるの！？」
円堂「まず、サッカーの試合だろ、ホイッスルに、」
半田「もういい」
豪炎寺「くすくす」
ラブリン「では、スタート前にインタビューします。ん！？」
ラブリンは円堂を見た。
ラブリン「オレンジのヘアバンドのあなた、ちょっといいですか。」
円堂「はい」
ラブリン「このレースでの一言ですが、出場での感想はいかがです
か。」

第1話開催東京TVレース・・・・・・？

円堂「出るからには優勝目指したいと思います。でもそれが無理でも目標のゴールに向かって走るだけです。」
ラブリン「目標のゴール？」
円堂「はい、ここにいるみんなは目標のゴールに向かって走るんだ。さあみんなゴールに向かったて走るぞ～。」　　参加者「「「お～」」」」
ラブリン「すごい、今のかけ声でみなさんやる気満々これはすごいレースになります。そろそろレースが始まります。みなさん用意は良いですか？」
参加者「「「はい」」」」　　ラブリン「それではスタート
さあ始まりました東京TVレース、先頭は！？雷門中の風丸くんです、これは早い。その後ろに円堂くんが続きます。さあこのレースの行方はどうなるのでしょうか、チャンネルはそのまま。」

第2話決着、東京TVレース

ラブリン「ええ、このレースはいろいろな種目が用意しています。あ、第1種目は、ドリブル突破です。この種目はサッカーボールで技を使うか使わないかの自由です。早速風丸くんが行きます。」
風丸「風神の舞改」　円堂「やるな、風丸俺も負けないぜ。ハァァ、ドリャ」
ラブリン「風丸くん円堂くん共に突破しました。」
風丸「やるな円堂」　円堂「へへ負けないぜ風丸。」
ラブリン「次来たのは帝国学園の佐久間くんです。」
佐久間「フッ」
ラブリン「佐久間くん見事な動きでかわしました。」
佐久間「活躍してるのは雷門だけじゃないぜ。」
ラブリン「ええこちらはシュートポイントです。こちらはピラミッドの形をしたたくさんのドラム缶をすべて倒して進ん行きます。」
ガシャン　豪炎寺「真ファイアトルネード。」
ラブリン「なんと一発で全てのドラム缶を倒しました。」　染岡「やるじゃねーか豪炎寺、だが俺だって真ドラゴンクラッシュ。」　ガシャン
ラブリン「すごい豪炎寺くんに続き染岡くんも一発で全部倒しました。」　レースはいよいよ終盤に差し掛かった、　ラブリン「ええこちらゴールとなる商店街です。1番最初に来たのは雷門中の円堂くんです。」
少林「キャプテンが来た。」
夕香「頑張って」
そしてもう少しでゴールとゆう所でゴール近くの坂をトラックが走っていたそしたら
ガタッ　ゴロゴロ
ラブリン「あーと、大きなタイヤが女の子にぶつかりそうです。」

円堂「あれは、夕香ちゃん」
ラブリン「円堂くんコースを外れました。」
夕香「お兄ちゃん」
円堂「真ゴッドバンド、うぉぉぉ」
ラブリン「円堂くん必死でタイヤを止めます、でもタイヤが大きすぎで抑えきれていません、ここで帝国学園の源田くんが来ました。」
源田「円堂！？女の子を助けているのか！？任せろ。」
ラブリン「なんと源田くんが円堂くんの背中を支えて止めます。」
源田「女の子が離れた今だタイヤを離すぞ。」
円堂「ダメだ！」
源田「何！？」
円堂「後ろを見ろこのタイヤゴールに向かってる。だからこのタイヤここで倒すんだー。」
杉森「ロケットこぶし！」
円堂「杉森」
杉森「円堂、源田俺も支えるぞ！」
円堂、源田、杉森「おぉぉぉ、トリプルディフェンス！！！。」ドーン
ラブリン「た、倒しました。3人の力が1つになりタイヤを倒しました。」
円堂「よし、レースの続きだー！！」
ラブリン「ゴール！！！1位は、円堂くん2位に源田くん、3位は、杉森くんです。でも1番素晴らしいかたのは、3人の力が1つになってところです」
壁山「キャプテン、おめでとうっス」
豪炎寺「円堂、夕香が助かったよ。」
円堂「ああ、俺の仲間の妹だからな。」　ラブリン「1位の円堂くん、おめでとうございます。」
円堂「ありがとう～。」

第3話転校生はスーパーアイドル

???「ここが雷門中」
円堂「やべえ、遅刻だー、ま、間に合った!!。」
木野「おはよう、円堂くん」
円堂「おはよう、秋」木野「ねぇ、知ってる?今日、転校生が来るらしいよ。」
円堂「転校生?」
豪炎寺「ああ、俺も聞いた。」
闇野「俺もだ。」
先生「ハ〜イ、席に付け。今日は転校生を紹介するぞ、入りなさい。」
ガラッ
先生「では、自己紹介を。」
???「はい、神無月　愛です宜しくお願いします。」
男子生徒「「「おお〜、かわいい〜」」」
先生「席はそこで。」
神無月「はい。」
円堂「宜しくな、神無月。」
神無月「宜しくね。円堂くん。」
円堂「あれ?何で俺の名前知ってんだ?」
神無月「あ、そ、それは、」チラッ
豪炎寺「(なんだ?)」
神無月「先生、私、用事が出来だの帰ります。」
男子生徒「「「ええ〜」」」
神無月「これから宜しくお願いします。」
円堂「授業遣らずに帰ったよ。」
中本「ラブリン、急いで。今日は、ドラマの撮影やCDのCMのスケジュールがあるから。でもせっかくの登校日なのに。」

ラブリン「大丈夫。アイドルの仕事も頑張るから。それからありがとう、私がラブリンだって事黙ってくれて。」
中本「ええ、ラブリンだって事バレたら大騒ぎですもの。」
スタッフ「ラブリンさん、本番入ります。」
ラブリン「ハ～イ」
一方、雷門中
一之瀬「転校していきなり早退なんて、珍しいな。」
闇野「いくぜ円堂、俺の新技うぉぉぉ」
円堂「いかりてっついV2、ぐぁ」
バ～アン
闇野「よし」
目金「黒い剣で、ナグナロクと名ずけしょう。」
円堂「すげーいいシュートだ、シャドウ。それにみんなも格段アップしてるぜ。この調子でいこうぜ。」
雷門イレブン「「「おお～」」」

第４話雷門イレブンぶっつけ生放送！？

今日は雷門中二年生は、テレビ局に見学しに行く日です。
少林「キャプテン、おはようございます。」円堂「おはよう少林、宍戸。」
宍戸「今日キャプテンたちは、テレビ局に見学しに行くんですよね。」
円堂「ああ」「おはよう」
豪炎寺「オウ、円堂」
木野「おはよう、円堂くんテレビ局の見学楽しみだね。」
円堂「神無月はまだ来てないのか！？」
闇野「今日は休みらしい。」
円堂「神無月が転校して５日はたつけど、途中で早退したり欠席したりするよな。」木野「なんでだろ～？」
先生「そろそろ行きますので支度して下さい。」
円堂たちはテレビ局にやってきました。
先生「クラスごとに分かれます。でもサッカー部はサッカー部で行動して下さい。」あずま「サッカー部は部員同士か！？」
先生「では見学します。」
早速円堂たちはテレビ局の見学し、お笑い芸人やクイズ番組、時代劇の撮影風景を見て盛り上がっている。
大谷「あ、ラブリンよ！！」
ラブリン「あ、円堂くんみんなも。あ、」あずま「なんでラブリンが円堂のこと知ってんだ？」
鬼道「忘れたのか？円堂は東京ＴＶレースで会っている。」
あずま「あ、そっか」ラブリン「今日はなんでテレビ局に？」
円堂「俺たちテレビ局に見学しに来たんだ。」
ラブリン「（そっか、今日雷門中はテレビ局見学の日だったのね、すっかり忘れたわ！）」「そうだ、これから私の生放送やるけど良

かったら見てく？」
円堂「え？いいのか？」
ラブリン「もちろんよ」
男子生徒「「「うぉぉぉラブリンの生放送だ～」」」
円堂「へえ、これがアイドルのステージか！！」
ラブリン「まず生クリームを良くかき・・・・・混ぜ・・・・・ｔ－－」
バタッ
雷門生徒「ああ」
撮影監督「ラブリンちゃん、疲れが溜まっていたんだな、しかしこれから始める生放送どうするか！？」　円堂「俺たちにやらせて下さい。」撮影監督「・・・・・わかった、君たちにやらせてみるよ。」
円堂「みんな、この撮影に誘ってくれたラブリンのためにやるぞー」
雷門イレブン「「「おおー」」」

第4話　雷門イレブンぶっつけ生放送！？・・・・・？

ラブリンが倒れて雷門イレブンが変わりに生放送することに。
円堂「ええ、ラブリンショーのご覧の皆様今日はラブリンが休みなので変わりに俺たちが出演します。」
搭子「円堂！？」
温子「守！？」
円堂「ではまず稲妻町今日一面から。ゲストは豪炎寺さん染岡さんの2名です。今日一面は、イケメン俳優の鳩野建さんと女優の星野亜美が付き合ってるとのことらしけど！？」
豪炎寺「ああ、それ本当らしいぜ。」
円堂「ええ！！そうなのか！？」
染岡「それだけじゃねー、もう結婚してる噂がある。」
円堂「そうなんだ、次はミニドラマ、ザ、チアガールをお送りします。」
夏未「なんで私が！？・・・・・、頑張って私あなたを応援してるから、ファイト」
円堂「そして今日の5分間クッキング」
木野「今日の5分間クッキングでは星型ドーナツを作ります。」
鬼道「そいつは楽しみだ。」
木野「5分たってはい完成。」
鬼道「これはうまそうだ。」
放送は雷門イレブンの力で順調に進んだ。円堂「最後に雷門　夏未さん、木野　秋さん、久遠　冬花さんがラブリンのヒット曲ラブリーハートを歌います。」
雷門イレブンのおかげで生放送は大成功になった。そして次の日
久遠「円堂」
円堂「はい、久遠監督」
久遠「お前に電話だ。」

円堂「誰からだろ！？もしもし！」
ラブリン「こんにちは円堂くん私ラブリンよ。」
円堂「ええ！！ラブリン、体はもういいの？」
ラブリン「うん！もうすっかり良くなったよ。それから昨日は本当にありがとう。これからラブリンショー遣るけど良かったら見てね。」
円堂「ああ！みんな練習休憩だ。（俺、ちょっとラブリンのファンになったかもしれない。）」

第5話　特別授業友達との絆

神無月家
神無月の父「愛はまだ寝てるのかな？」
神無月の母「いけない！そろそろ起こさないと学校に遅れちゃう。」
神無月「おはよう、パパ、ママ、今日は久しぶりに最後まで学校にいられるのね♪。」
雷門中
神無月「おはよう、木野さん」
木野「おはよう」
円堂「おはよう、神無月」
神無月「円堂くんおはよう」
先生「今日の午後の授業は、グループを組む特別授業を行います。グループの仲間と相談して調べたいことを調べて下さい。」そして
午後
先生「では、クジでグループを決めます。」円堂「俺は3番か。」
木野「円堂くんは何番？」
円堂「3番だ。」
木野「私も3番よ。」円堂「一緒の班だな後3人か。」
豪炎寺「俺たちも3番だ。」
円堂「豪炎寺、シャドウ！」
闇野「どこでも一緒だな。」
木野「後1人ね。」
神無月「私も3番。」円堂「あ！神無月。」
木野「何調べる？」
豪炎寺「円堂、サッカー以外で頼む。」
円堂「やっぱりダメか！？」
木野「調べる気だったんだ。」
神無月「友達については、どうかな？」

円堂「友達について？」
神無月「うん、学校に幼なじみや転校生とかでいろんな絆が生まれてくるでしょう。だからこれを調べるのはどうかな？」
円堂「それはいいアイデアだぜ、神無月。よ～し、みんな友達についてを調べるぞぉ～。」
グループメンバー「「「おお～」」」

第5話特別授業友達との絆・・・・・？

特別授業で友達についてを調べることになった円堂グループ。円堂「ふゆっぺは友達についてどう思う？」
冬花「私とって友達は、仲良しことだと思います。」
円堂「俺たちが小学生の時も仲良かったよな。」
豪炎寺「染岡、お前は友達についてどう思う？」
染岡「俺にとって友達は信頼あることだな。」
豪炎寺「信頼か、尾刈斗中の試合を思い出すな。」
染岡「ああ、お前と信頼してできたのがドラゴントルネードだったな。」
円堂グループは順調に友達のデータを集めた。
闇野「友達のデータは順調だな。」
木野「見て、芸能人で友達なりたいの質問。ラブリンがダントツ1位よ。」
豪炎寺「他の男子もラブリンと友達になりたいらしいぜ。」
神無月「え！？」
今から神無月が雷門前中に転校する4ヶ月前。
東京都江戸川中
女子生徒A「ねえ知ってる？あの子ドラマに出るって！」
女子生徒B「だから最近学校休んでるのね。」
神無月「！？」
女子生徒A「いいわね、学校サボれて。」
神無月「・・・」
中山「別の学校に転校したほうが良さそうね。この学校なら芸能人もたくさんいるし。」
神無月「ええ」
東京都沢谷中
神無月「私、急な仕事が、？あの、」

女子生徒C「勝手に行けば、いいわよねえ、売れ子は」
神無月「・・・」
中山「今度の中学校は大丈夫かしら？」
神無月「中山さん」
中山「？」
神無月「私がラブリンだって事秘密にします。」
中山「ええ！？」
神無月「今まで私がラブリンだってゆってたからひどい事言われたでしょ。ウソをつくのはつらいけどみんなと友達になるためはこれしかないの。」
中山「・・・わかったわ、それがあなたの決心なら。」
そして今に至る。
円堂「どうした神無月？」
豪炎寺「何かの悩み事なら言ってみろ。俺たち友達だからな。」
木野「私たち友達の前でウソや隠し事はダメだから。」
神無月「うん」
プルルルル
神無月「ええ？中山さん、なぜ？」
円堂「神無月？」
神無月「ごめんなさい！突然用事ができちゃって、本当にごめんなさい！」
豪炎寺「・・・」栗松「体育は疲れるでヤンス、ん？あれは神無月さんまだ学校終わってないのに？」テレビ局
撮影監督「はいラブリンちゃんお疲れ。」ラブリン「はい、お疲れさまでした。はあ～」
中山「どうしたのラブリン？元気ないようだけどまた具合でも悪いの？」
ラブリン「そうじゃないの。私どうすればいいの？」
中山「どうしたの？・友達について？」
ラブリン「ええ」

中山「悩む事ないわよ！」
ラブリン「え！？」
中山「だってラブリンは雷門中に転校して前より明るくなったんですもの。」
ラブリン「そうよね、ありがとう中山さん。」
中山「明日こそ仕事オフにしとくから。」ラブリン「はい」
次の日
先生「次は3班発表どうぞ。」
円堂「俺たち3班は友達についてを調べました。友達はとてもすごい物だと思います。俺たちの心と心が一つになってる時こそ本当の友達になるんです。
神無月「（本当の友達）」

第6話円堂の誕生日　ラブリンの告白

神無月の夢の中
木野「神無月さん、ドラマの撮影遣るから学校サボるみたいよ。」
大谷「いいわよねえ～。」
神無月「円堂くん。」
円堂「話かけるな。」
神無月「え！！」
円堂「俺たちもう友達じゃないよ」
神無月「あ、はあ夢で良かった。」
雷門中
神無月「でも、私がラブリンだって事話しても円堂くんずっと友達でいてくれるかな。」
染岡「豪炎寺、シャドウ、ちょっと来てくれねーか。」
神無月「（染岡くん？）」
半田「雷門に転校して来たみんな知らないと思うけど再来週の日曜日円堂の誕生日なんだ。」
鬼道「そうか再来週か。」
風丸「円堂はダークエンペラーズになった俺たちの目を覚まさせてくれた、だからその恩を返したいんだ。」
豪炎寺「恩を返す誕生会か。ああ、俺も賛成だ。」
音無「でも、場所はどうするんですか？」
風丸「それが問題なんだよな。」
土門「部室は？」
鬼道「少し狭くて無理だな」
壁山「いつも行く鉄塔どうっスっか？」
影野「風が吹いてゴミ飛んでくるし、外じゃ無理だよ」
神無月「私の家ならいいよ。」
風丸「神無月！？いいのか、君の家じゃ迷惑じゃないのか？」

神無月「大丈夫、私の家カフェだから、ケーキや飾り付けはママにゆっておくから。」
夏未「神無月の家は、カフェだったの！？」
風丸「とりあえず場所は決まったな。」染岡「風丸」
風丸「なんだ染岡？」染岡「恩を返す誕生会だ、吹雪たちを誘うか。同じ雷門のユニフォームを着た仲間だ。」
風丸「ああ」
木野「神無月たくさんの人呼んでも大丈夫？」
神無月「うん、大丈夫よ。」
鬼道「だったら、帝国の仲間も誘うか。」
風丸「よし、来週行動開始だ。」
雷門イレブン「「「おお～」」」
北海道、白恋中
白恋の先生「吹雪お客さんだぞ。」
吹雪「お客さん？誰ですか？」
白恋の先生「懐かしの友達だ。」
吹雪「懐かしの友達？」「あの人かな？僕に用のある人かな？」
？？？「ああ、用があるから来たんだぜ。」
吹雪「その声って！？」
染岡「久しぶりだな。吹雪」吹雪「染岡くん、なんで白恋中に！？」
染岡「訳ありでな。」吹雪「キャプテンの誕生会？」
染岡「おう、友に雷門のユニフォームを着た仲間としてお前にも来てもらいてーんだよ。」
吹雪うん、僕も行くよキャプテンの誕生会に。」
京都、漫遊寺中
木暮「旋風陣、うっしっし」
音無「調子良さそうね。」
木暮「春菜！？キャプテンの誕生日！？よしあの人は人を信じる大切さを学ばせてくれた、その恩返しだ。」
大阪

リカ「円堂の誕生日か～、ダーリンの頼みならえくで」
一ノ瀬「サンキュー、リカ」
福岡、陽花戸中
立向居「ええ！！円堂さんの誕生日ですか！！もちろん俺も行きます。」
風丸「相変わらず円堂の事になると目の色が変わるな。」
沖縄、大海原中
綱海「円堂の誕生日俺も行くぜ。」
ライデン「俺もだ」
豪炎寺「ありがとう2人とも」
木戸川清修
西垣「ああ、俺も行くぜ。俺も円堂に借りがあるんだ。」
土門「頼むぜ、西垣。」
御影専農
杉森「もちろん俺も喜んで参加しよう。」半田「サンキュー、杉森。」
帝国学園
鬼道「円堂の誕生会、来てくれるか！？」
源田「よし、俺たち全員で行くぜ。」
不動「俺たちのキャプテンの誕生会に参加しない訳いかねーからな。」
寺門「行くぜ。」
帝国イレブン「「「おう」」」
雷門中
鬼道「これで参加者は揃った」
木野「後は円堂くんの誕生日を待つだけ。」

第6話円堂の誕生日　ラブリンの告白・・・・・・？

円堂の誕生日の前夜、神無月家
神無月「明日が円堂くんの誕生日」
Ｐｒｒｒｒ
神無月「中本さん！？はい」
中本「ラブリン、ごめんなさい明日・・」
翌日
円堂「ここで俺の誕生日をやるのか！」
夏未「ええ、そうよ。後で神無月さんに感謝しなさい。」
円堂「もちろん。」
？？？「僕も参加しよう。円堂くん」
円堂「アフロディ！？お前も参加してくれるのか！」
アフロディ「ああ、君は神の力を使ってた僕の目を覚まさせてくれた、その恩を返しに来た。」
？？？「僕たちも参加していいかな？」
円堂「ヒロト、緑川、砂木沼！あと南雲と涼野！！」
ヒロト「円堂くんじつはジェネシスからもう１人」
鬼道「お前はウルビダ！？」
ウルビダ「私の本命は、八神玲名だ。」
ヒロト「玲名も僕たち同じ気持ちで来てくれたんだよ。」
円堂「ありがとう、玲名」
八神「・・・フッ」
音無「キャプテン、カフェのテーブルに神無月さんからの手紙が！」
円堂「手紙？」
神無月からの手紙
「ごめんなさい、円堂くん私突然用事が出来たので来られないかもしれません。誕生会始め下さい。神無月愛」
不動「んで、始めるのかいキャプテン？」

円堂「：俺、神無月を待つよ。」
神無月の父、母「「え！？」」
円堂「神無月は俺の誕生会のためにこのカフェを使わせてくれたんだ、だから待つよ。」
不動「まっこれが円堂守だよな。」
？？？「それでいいぞ守。」
円堂「あっ、じっ、じいちゃん、ロココ」
ロココ「久しぶり、守。」
神無月の父「あの子、コトアール代表リトルギガントのキャプテン、ロココ　ウルパ！！」
ロココ「守、あっち。」
円堂「え？あっフィディオ！！」
神無月の母「今度はイタリアの白い流星フィディオ　アルデナよ！」
フィディオ「守、誕生会に来たよ。」
円堂「ありがとう、フィディオ」
フィディオ「みんな、来てくれ。」
円堂「え？」
ざっ
円堂「テレス、エドガー、マーク、ディラン、ロニージョ、来てくれたのか。」
神無月の父「ＦＦＩで活躍したスター選手だ。」
財前総理「やあ円堂くん」
搭子「円堂、誕生おめでとう！」
円堂「財前総理に搭子！」神無月の父「総理大臣が来るなんて円堂くんすごいんだ。」
一方神無月　愛は
フットボールフロンティアスタジアム
チアガール「ファイト、ファイト、レッツゴー」
ラブリン「待ってね、円堂くん」
その夜

撮影監督「はい、お疲れ」
ラブリン「お疲れさまでした。」
中本「ラブリン、急いで。」
神無月「ごめんね、円堂くん。」
神無月のカフェ
神無月「もう、終わっちゃった。」
ガチャ
円堂「待ってたぜ、神無月。」
神無月「え？円堂くん、みんなもなんで？」
風丸「円堂の希望だ。」
神無月「ありがとう円堂くん、私、みんなに話さなきゃならないことがあるの。」
円堂「え？」神無月「私ラブリンは、本当はラブリンなの！」西垣「ラブリンって話題のスーパーアイドルか！？」
杉森「ああ、そうだが。」
神無月「隠していてごめんなさい、私前の中学校でまともに話が出来る友達がいなかったの。だから円堂くんたちと友達になりたくて雷門中に入ったの、だから私がラブリンだって事黙ってれば友達でいてくれると思ってたのでもそれが逆に苦しくなって、でも苦しくなるなら私がラブリンだって事話たほうがいいと思ったの！」
木野「神無月さん」
豪炎寺「やはりな」
円堂「豪炎寺、お前知ってたのか！？」
豪炎寺「少しずつな」
土門「俺、全くしらなかった。」
豪炎寺「だが円堂、後はお前に任せる。」
円堂「え？俺が！？」豪炎寺「神無月は、お前の誕生日に告白して来た。だからお前が決めるんだ。」
神無月「今まで隠していて、本当にごめんなさい。」
円堂「神無月、顔上げなよ。」「俺、その事はどうでもいいと思う。

」
神無月「え？」
円堂「俺たち友達だろ、君がクラスメートだとしてもスーパーアイドルだとしても友達って事に変わりはない。」
神無月「！」
豪炎寺「ああ、その通りだ円堂。」
鬼道「お前ならそう言うと思たよ。」
壁山「キャプテンの言う通りッス」
栗松「俺たちは雷門の仲間でヤンス」
音無「水臭いですよ、神無月さん」
夏未「誰にでも秘密はあるものよ。」
木野「特に女の子はね。」
神無月「うぅぅ」
円堂「みんな、神無月の秘密は、サッカーをやってる俺たちの秘密にしようぜ。」
参加者「「「おお～」」」
神無月「いいの？」
円堂「ああ！」
中本「良かったわねラブリン」
神無月の母「本当にいいお友達ができて。」
神無月の父「円堂くんサイコー」
参加者「「「ハッピーバースデー円堂くん、円堂、円堂さん、守、キャプテン、守くん」」」
円堂「サンキューみんな」

第7話夢の共演　海賊の宝探し

雷門中
染岡「ドラゴンスレイヤーＶ３」
円堂「ゴッドキャッチＧ３」
一ノ瀬「ナイス円堂」
木野「ん！？あれは。」
音無「ラブリンのワゴン車のようですけど！？」
ラブリン「こんにちは、円堂くん」
円堂「よう神無、じゃなくてラブリン」
木野「気を付けてね、円堂くん。神無月さんがラブリンだって事は私たちの秘密だから。」
円堂「ああ、気を付けないとな。」
鬼道「それでなんの用でここに来た？」
ラブリン「次の土曜日、海賊の宝探しの撮影をやるの、そこで私のお供になる６人を集めてるの。それで私の推薦で雷門中に来たの。」
豪炎寺「だったら、俺たちの推薦は、円堂だな。」
円堂「ええ、俺が！？」響木「ほほー！円堂か。俺も推薦だな。」
円堂「響木監督、豪炎寺、ああ、俺、行くぜ。」
ラブリン「１人目決まりね。あとは東京もう１校、北海道、沖縄、九州、大阪のお供ね。」
鬼道「東京のもう１校は俺が推薦した。」ラブリン「え？」
鬼道「そこは、帝国学園だ。」
帝国学園
佐久間「あれは、鬼道それにラブリン。」
源田「海賊の宝探しの撮影か。それで１人推薦しに来たのか。」鬼道「ああ、誰か１人選んでくれ。」
不動「だったら、俺は佐久間を選ぶぜ。」
佐久間「俺が！？」

不動「ああ、鬼道の信頼が厚く円堂との信頼もあるからな。」
寺門「そうだな、俺も佐久間を推薦だ。」
佐久間「お前たち、・・・ああ」
北海道
吹雪「僕が宝探しお供に！？」
ラブリン「ええ、染岡くんの推薦で吹雪くんを選んでくれって」
吹雪「うん、僕行くよ、キャプテンと共に。」
大阪
リカ「ダーリンがウチを！？」
ラブリン「一ノ瀬くんがリカさんって」
福岡
立向居「円堂さんと宝探し！！本当ですか！？」
ラブリン「円堂くんの推薦で立向居くんを選んだの。」
立向居「俺、絶対に行きます。」
沖縄
綱海「そりゃあすげーな。海賊の宝探し！！」
ラブリン「円堂くんの推薦です。」
綱海「オッシャー、ノッテきたぜ。」
そして土曜日、港
円堂「いよいよ出発だな。」
吹雪「うん、僕も早く行きたいよ。」
鬼道「佐久間、円堂の事頼んだぞ。」
佐久間「任せろ、鬼道。」
綱海「オッシャー、ノッテきたな、立向居。」
立向居「ハイ！俺も皆さんと新たな冒険に行くのが楽しみです。」
リカ「ダーリン、ウチの事思って待っててや。」
一ノ瀬「あ、ああ～待ってるよ。」
ラブリン「そろそろ出発します、船に乗って下さい。」
円堂「んじゃ、行って来るぜ。」
佐久間「出発したな円堂。」

円堂「ああ。」
日曜日
ラブリン「それじゃみんな、冒険用の服に着替えて。」
吹雪「本格的だね！」
円堂「いよいよ冒険の始まりだ、さあ、行こうぜ、宝探しの冒険へ。
」

第8話冒険、宝を上回る物

ラブリンの頼みで宝探しの撮影にお供になった円堂たち
ラブリン「今日私たちは仲間と共に海賊が残した宝探しに来ました。」
佐久間「あの島のようだ。」
円堂「さあみんな、俺たちの冒険の始まりだ。行こうぜ！」
冒険者「「「おお～」」」
そして島に上陸
立向居「大きい島ですね。」
リカ「いかにも何かありそうや。」
ラブリン「さあ、行きましょう。」
島を歩いて3時間後
綱海「お、あそこに洞窟があるぜ！」
ラブリン「あそこが海賊の宝が眠ってる洞窟です。」
吹雪「ここから宝探しのスタートだね。」円堂「よし、行くぜ。」
佐久間「中は思った以上に暗いな。」
円堂「ん！？」
吹雪「どうしたの、キャプテン？」円堂「なんか、すごい音が」
ガァァァァ
円堂「危ない！！みんな」
洞窟の外
撮影監督「た、大変だ！！洞窟が崩れた！！」
スタッフ「入口がふさがって入れないですよ！」
撮影監督「よし、別の所から入ろう。」
スタッフ「ハイ！」
洞窟の中
円堂「みんな、大丈夫か！？」
ラブリン「ええ、私は大丈夫よ。」

吹雪「みんな、無事みたいだね。」
佐久間「だが、入口がふさがってしまった、これでは出られないぞ。」
ラブリン「私が、みんなを誘ったから。」
綱海「んなこと言っても仕方がねー、入口がダメなら出口を探せばいいんじゃねーか？」
円堂「綱海の言う通りだ最後まで希望を失ってわいけないんだ。」
ラブリン「円堂くん、綱海くん、みんな、うん」
吹雪「キャプテン、今は宝探しをやってる場合じゃない、みんなで悪い状況を乗り越えよう。」
希望を捨てず歩き続ける円堂たち
立向居「だいぶ歩きましたけど、何も変わりませんね。」
佐久間「ああ、だがこの先何か起こるか分からない気を付けろ。」
円堂「どわっ、！」
ラブリン「どうしたの？円堂くん」
円堂何かに足躓いた。ん！？」
ラブリン「きゃあああ！！」
綱海「ガ、ガイコツだ！！」
吹雪「このガイコツ、海賊の服着てるけど！？」
佐久間「どうやら昔、海賊の宝を探しに来て出られなくなり、こうなったらしいな。」吹雪「でも僕たちはこうなる訳にはいかない。」
円堂「ああ、みんなと約束したんだ。必ず帰るって、だからこそあきらめてダメだ。」
立向居「円堂さん、あそこの奥に光が見えます！」
円堂「本当か！？立向居。」
「外が見える！」
綱海「だが、どうやってこの岩を？」
吹雪「そうだ！！確かみんなアイテムにサッカーボールがあるよ、僕たちの必殺技でこの岩を壊そう。」
佐久間「ん！？なんだ！？」

円堂「どうした！？佐久間」
佐久間「しっ！何か聞こえて。」
ゴロゴロ
綱海「げっ！！岩が転がってきやがった！！」
円堂「任せろ、真ゴッドハンド」
綱海「よし、やるぞ、ツナミブースト」
リカ「ローズスプラッシュ」
円堂「爆裂パンチ」ラブリン「きゃああ！！円堂「し、しまった。」
立向居「ムゲン・ザ・ハンドＧ５」
円堂「立向居！」
立向居「円堂さん、ラブリンさんは俺に任せて綱海さんたちと出口を開いて下さい」
円堂「でも」
立向「俺は大丈夫です、早く」
円堂「わかった、頼むぞ。立向居」
ラブリン「今度はかなり大きい岩が！」
立向居「絶対にラブリンさんを守ります、魔王・ザ・ハンド」
佐久間「あ！出口がかなり広くなった。」円堂「一気に行くぜ、みんな、メガトンヘッドＧ３」
佐久間「皇帝ペンギン１号」
綱海「ザ・タイフーン」
吹雪「ウルフレジェンドＧ２」
リカ「通天閣シュート」
バーアン
円堂「今だ！！」
ハア　ハア　ハア
円堂「みんな、無事か！？」
佐久間「ああ」
撮影監督、スタッフ「オ～イみんな、」
ラブリン「あ、監督」スタッフ「良かった、みんな無事みたいで。」

ガァァァ
撮影監督「　出口もふさがっちゃった。」
冒険者「「「：プッあはははは」」」
そして日本に戻って
司会者「それでラブリンさんたちは宝を見つけられなかったのですね。」吹雪「そうだ！！確かみんなアイテムにサッカーボールがあるよ、僕たちの必殺技でこの岩を壊そう。」
佐久間「ん！？なんだ！？」
円堂「どうした！？佐久間」
佐久間「しっ！何か聞こえて。」
ゴロゴロ
綱海「げっ！！岩が転がってきやがった！！」
円堂「任せろ、真ゴッドハンド」
綱海「よし、やるぞ、ツナミブースト」
リカ「ローズスプラッシュ」
円堂「爆裂パンチ」
ラブリン「きゃああ！！」
円堂「し、しまった。」
立向居「ムゲン・ザ・ハンド」
円堂「立向居！」
立向居「円堂さん、ラブリンさんは俺に任せて綱海さんたちと出口を開いて下さい」
円堂「でも」
立向「俺は大丈夫です、早く」
円堂「わかった、頼むぞ。立向居」
ラブリン「今度はかなり大きい岩が！」
立向居「絶対にラブリンさんを守ります、魔王・ザ・ハンド」
佐久間「あ！出口がかなり広くなった。」円堂「一気に行くぜ、みんな、メガトンヘッドＧ３」
佐久間「皇帝ペンギン１号」

綱海「ザ・タイフーン」
吹雪「ウルフレジェンドG2」
リカ「通天閣シュート」
バーアン
円堂「今だ！！」
ハア　ハア　ハア
円堂「みんな、無事か！？」
佐久間「ああ」
撮影監督、スタッフ「オ～イみんな、」
ラブリン「あ、監督」スタッフ「良かった、みんな無事みたいで。」
ガァァァ
撮影監督「　出口もふさがっちゃった。」
冒険者「「「：プッあはははは」」」
そして日本に戻って
司会者「それでラブリンさんたちは宝を見つけられなかったのですね。」
ラブリン「ハイ、ても宝よりとても素敵な物見つけらました。」司会者「え？」
ラブリン「ね！」
円堂「ああ。」
佐久間「ウム。」
リカ「ええ。」
吹雪「うん。」
立向居「ハイ。」
綱海「おう。」
６人に新たな友情が芽生えた。

オリキャラ設定・・・・？（前書き）

オリキャラその３
名前　ロン・スコーピオン
特徴髪は金髪のオールバック。一筋の光も通さない暗い瞳
イナズマ王国《作者オリジナル国》の城の裏にある洞窟に住んでいた少年。裏闇族と言われている。気まぐれ好きの王様に国を追い出されて王様を憎みサッカーで復讐をするダークマップのキャプテンポジション、ＦＷ
必殺技　ダイナマイトシュート、ダークインパクト、ジャックスコーピオン
年齢　１４歳

オリキャラその４
エミリア姫
特徴髪は薄茶色。ストレートのロング。目の色は黄緑色
王様の娘でイナズマ王国の姫
年齢　１８歳
いい加減で気まぐれ好きの父親に手を焼いている。国を乗っ取ているダークマップに勝利してほしく円堂たちにイナズマ王国の未来を託す。

オリキャラその５
ルイ大王
イナズマ王国の王様王国の平和好きでとても気まぐれな王様
年齢　５０歳

オリキャラ設定・・・・？

オリキャラその１
名前　神無月　愛（かんなずきあい）
性別　女
特徴、瞳の色は薄い水色、髪の毛の色は濃いピンク、髪の毛は肩ぐらい、
設定、日本中で話題のスーパーアイドル
年齢は１４歳、雷門中学に転校してきた中学二年生、クラスは円堂と同じ、アイドル登録名はラブリン

オリキャラその２
名前　杉村　メロディーヌ
性別　女
アメリカ人と日本人のハーフでドイツからの留学生、
まっすぐであきらめない気持ちが強い円堂守に憧れている中学二年生。黒くて、ねこみみみたいな物がある帽子を被ったいる（たまごっちのメロディっちと同じ）世界で有名なバイオリニスト

第9話　真実の石版　テルリン誕生

鬼道家
鬼道「父さん、それは？」
鬼道の父「この間仕事で撮った写真だ。」
鬼道「いろんな所が映っていますね。ん！？」
鬼道の父「どうした？」
鬼道「この写真に映ってるこれは？」
鬼道の父「これは、真実の石版だ。」
鬼道「真実の石版？」
鬼道の父「昔、どこかの外国で合ったらしい。」
雷門中
円堂「真実の石版！？」
鬼道「ああ、昨日父さんが撮った写真に映ってたんだ。」
豪炎寺「俺も聞いたことある。たしかかしかの森にあると。」
円堂「なあ、俺たちも行って見ないか？」
かしかの森
円堂「この森に真実の石版があるのか。」
鬼道「ああ、この森にあるのはたしかだ。」
豪炎寺「円堂、あれは！？」鬼道「あれは！真実の石版がある岩場！」
円堂「ここが、写真に映ってた石版の岩場」
豪炎寺「だが、真実の石版はないようだが？」
円堂「鬼道！？あれは！？」
ゴォォ
鬼道「あれは、真実の石版、何だこの風景は！？」
円堂「何だったんだ！？今のは！？」
豪炎寺「わからない！？だが今の時代じゃなさそうだ。」
円堂「じゃあ、俺たちは過去の映像を見たのか！？」

鬼道「今のは一体！？」
東京の河川敷
ラブリン「ありがとう！これからも私を応援してね～。」
中本「お疲れ様、ラブリン。次はドラマの撮影よ。」
ラブリン「ハイ、頑張ります。」
ピロロロロロン
ラブリン「あ、パパからかしか？あれ、誰からかしか？受信メール！？」
その夜
ピロロロロロン
神無月「また受信メール！？もしかして、故障！？明日直して上げるね、テルリン」
次の日
神無月「あ～。ん！？また受信メール？何コレ」
円堂「なんか昨日見た風景が夢に出てきたんだ。」
豪炎寺「お前もか？」
円堂「豪炎寺も見たのか！？」
鬼道「俺もだ。」
円堂「俺たち、３人だけか！？」
神無月「あ、円堂くん」
円堂「神無月！？散歩か！？」
神無月「うん、ちょっと携帯を直しに。」
鬼道「携帯、壊れたのか？」
神無月「ううん、なんか変なメールがはいって」
円堂「変なメール？」神無月「コレよ。」
豪炎寺「これは！！真実の石版！？」
神無月「真実の石版！？」
真実の石版の事を話した。
神無月「じゃあ、私の携帯にそんな事が？」
豪炎寺「おそらくそうかも知れない。」

神無月「・・・私をその真実の石版の所に連れてって。」
鬼道「えっ！？」
神無月「私、見てみたいの、その真実の石版」
再びかしかの森
円堂「あそこだ！」「ついたぜ。」
鬼道「だが、真実の石版がないぞ？」
円堂「オ～イ、真実の石版！また来たぞー！！」
神無月「あのメールはあなたが送った物なんですか！？」
豪炎寺「おかしい？昨日は確かに合ったはず。
？？？「あれ、豪炎寺さん！？」
豪炎寺「虎丸！？なぜここに？」虎丸「変なメールに呼ばれて。」
円堂「それって、真実の石版のコレか！？」
虎丸「あっ！！ハイ、それです」
鬼道「だがなぜ、虎丸が？」
？？？「キャプテン？」
「円堂くん！」
円堂「飛鷹、ヒロト！？お前たちも真実の石版に！？」
飛鷹「ハイ、俺の携帯にこんなメールがはいって。」
ヒロト「俺のもだ。」
？？？「鬼道！！」
鬼道「佐久間、寺門！お前たちも」
？？？「円堂くん。」
円堂「アフロディ！」
鬼道「世宇子中のデメテル、ヘラ！？」
円堂「アフロディたちもメールに？」
アフロディ「ああ、僕だけでなくデメテルにヘラもだ。」
ガァァァァ
円堂「あれは、真実の石版！！」
神無月「あれが！？」フゥゥ
円堂「うわっ！！」

豪炎寺「円堂！？あっ！」
選ばれし者「あああぁ」
神無月「う～ん、ここは！？あっ！円堂くん、しっかりして、円堂くん」
円堂「あっ、神無月。はっ、ここは俺が夢で見た森！！神無月、みんなは！？」
神無月「わからない！？私が目覚めたら、円堂くんが倒れてたから。」
円堂「そうか、豪炎寺、鬼道！！」
神無月「みんな、一体どこに！？」
？？？「落ちこんでる時間はないよ、愛。」
神無月「えっ！？誰？」
？？？「さあさあ、早くこんな所抜けよう。」
円堂「携帯が！？」
神無月「テルリンが口を動かしてしゃべってる！！」
突然真実の石版に吸い込まれた円堂たち、この先どうなる！？

第１０話過去のイナズマ王国　登場ダークマップ

真実の石版に吸い込まれ過去に飛ばされた円堂たち
虎丸「豪炎寺さん、ここは一体どこなんでしょう！？」
豪炎寺「わからない、だが今は円堂たちを探すのが先だ。」
別の場所
デメテル「なあ、アフロディ、ここは本当に日本ではなさそうだ。」
アフロディ「そうだね。でもはぐれたみんなを探そう。」
一方、円堂たちは
神無月「でもなんでテルリンがしゃべれるの！？」
テルリン「私、バージョンアップしたのかも？」
神無月「それはないと思うよ。」
円堂「だがなぜ神無月の携帯が動いてしゃべれるようになったんだ！？俺の携帯はなんの変化も無いけど。」
神無月「一先ずここにいてもしかたないし、みんなを探しに行こう。」
とある城
エミリア姫「この国が乗っられるのも時間の問題かもしれません、一体どうすれば！？」
ルイ大王「ここは方法は１つ。」
エミリア姫「何か名案でも！」
ルイ大王「我々が逃げるんじゃ！」
エミリア姫「それでは、何の解決にならないのでは！」
ルイ大王「まあ、やったて勝てる訳無い。」
城の中庭
エミリア姫「真実の石版、どうか私の願いを聞いて下さい、お父さまとても頼りなく私が望むのは選ばれし勇者だけ。お願いします。」
ピロロロロロン
円堂「あっ！メールだ！」

神無月「テルリンもなってる！」
円堂「豪炎寺かもしれない」
テルリン「違うみたい。」
円堂「えっ！？じゃあ、誰から？」テルリン「選ばれし勇者様イナズマ王国を救って下さい。エミリア姫」
神無月「エミリア姫！？エミリア姫てっ、昔の人のはず。」
円堂「じゃあ、俺たちはタイムスリップしたてっことか！！」
神無月「でもこのメールの意味は一体！？」
円堂「神無月、あれを見ろ。」
神無月「あれは、お城！？」
円堂「みんな、あの城にいるかもしれない。行こうぜ、神無月、テルリン」
一方、豪炎寺たち
豪炎寺「あの城に円堂たちが来てるかもしれない。行くぞ、虎丸。」
虎丸「はい！豪炎寺さん。」
そして鬼道たち
寺門「鬼道、あそこに城が！」
佐久間「行こうぜ、鬼道」
鬼道「ああ、円堂たちが来てるかもな。」飛鷹「あの城にキャプテンが！」その頃、城では
兵士「王様ー」
ルイ大王「どうした？」
兵士「なんか、未来から来たと言ってた奇妙な2人組でして！」エミリア姫「未来から来た！？」
ルイ大王「まあ良い、通すが良い。」
そしてその2人組が来て
ルイ大王「そなたたちが未来から来たと申す者か？」
円堂、神無月「ハイ」ルイ大王「まず、レディーファーストからじゃ。名は何と申す！？」
神無月「神無月　愛と申します。」

ルイ大王「さあ、顔を上げてごらん。」
神無月「ハイ」
ルイ大王「ほお！かわいい顔だの～」
神無月「あっ、ありがとうございます～」
ルイ大王「んで、そちらの者は？」
円堂「円堂　守です。大好きな物は、サッカーです。」
エミリア姫「（サッカー？）」
ルイ大王「それで、何しに未来から？」
神無月「それは、メールで」
エミリア姫「メール？」
円堂「手紙みたいな物です。」
ルイ大王「それで、未来で何があるのかな。教えて、教えて」
エミリア姫「お父さま」
テルリン「コラー、真面目に聞きなさーい、でないとお仕置きしたゃうから。」
ルイ大王「おお、ちっこくてかわいいの～」
円堂「なんか話が進まないなぁ。」
エミリア姫「円堂さん、神無月さん、よろしければ来て下さい。」
円堂、神無月「？」
エミリア姫「ここです。」
円堂「これは、真実の石版！！」
エミリア姫「やはり、あなたが私の願いで来てくれた選ばれし者なのですね。」
神無月「円堂くんが選ばれし者！？」
エミリア姫「はい、このイナズマ王国は、悪者に乗っ取らてしまうんです。」
円堂「ええ！？」
神無月「なんてヒドイ事」
円堂「一体、誰が！？」エミリア姫「悪のグループ、ダークマップです。」

円堂「ダークマップ！？」
神無月「闇の地図てっことですね。」
エミリア姫「ハイ、ダークマップは、ある球技でこの世界を乗っ取っているんです。」神無月「ある球技？」エミリア姫「それは、サッカーです。」
円堂、神無月「サッカー！！」
エミリア姫「ダークマップは、乗っ取る国の人たちと試合で勝つとその国を自分たちの物にしてしまいます。平気で人を倒したり、ケガさせたり。この国のサッカープレイヤーたちは、逃げてしまいました。だから私は真実の石版に頼んで選ばれし勇者様を呼んだんです。」神無月「だから、佐久間くんやアフロディくんのようなプレイヤーたちが来たのね！？」
円堂「許せない。」
エミリア姫「えっ！？」
円堂「サッカーでそんな悪い事に使うなんて、俺は絶対に許せない。」
神無月「円堂くん」
円堂「エミリア姫！」エミリア姫「ハイ！！」
円堂「話は分かりました。俺たちがダークマップと戦います。」エミリア姫「本当ですか！？」
円堂「神無月、豪炎寺たちを探しに行こう。」
兵士「王様、また未来から来た者が3人も来ました。」
鬼道「なかなか良い城だ」
円堂「鬼道ー」
鬼道「円堂、神無月」神無月「佐久間くんも寺門くんも無事だったのね。」
佐久間「ああ、豪炎寺たちは？」
神無月「一緒じゃなかったの。」
テルリン「大丈夫、他のみんなも無事よ。」鬼道「この携帯、確か神無月の！？」

神無月「この世界に来て生き物になったの。」
寺門「まさかテルリンは、警察だったのか！？」
佐久間「そんな訳無いだろ、確かに似てるけど。」
？？？「円堂、円堂くん、キャプテン」
円堂「あっ、豪炎寺、虎丸、アフロディ、デメテル、ヘラ、ヒロト、飛鷹！！」
飛鷹「キャプテン、無事でしたか。」
円堂「みんな、来てくれ！」
中庭
ヒロト「要するに俺たちがこの国を救う勇者って訳か！？」
円堂「俺はダークマップのサッカーが許せない。みんな、俺に力を貸してくれ！」
豪炎寺「円堂、俺たちがここにいるのは、エミリア姫に選ばれたからだ！」
円堂「豪炎寺」
虎丸「キャプテン、豪炎寺さん、俺も戦います。」
飛鷹「キャプテン、俺の命、キャプテンに預けてあります。」
鬼道「みんな同じ意志だ。」
円堂「サンキューみんな、絶対勝つぞ、ダークマップに」
選ばれし者「「「おお～」」」」
町の人「だっ、ダークマップだ～」
ヘラ「何！？」
ヒロト「来たのか！」？？？「オラオラオラ、ルイ大王、出てこい。」
ルイ大王「わっ私になんの用だ！？」
？？？「どぼけるなー、このイナズマ王国も俺たちダークマップが支配するぜ。」
円堂「待て！」
？？？「何だキサマ！？」エミリア姫「私が呼んだ選ばれし勇者様よ！」

？？？「こいつらが勇者！？肩腹痛てーぜ。こんなヤツらがこの俺、ロン・スコーピオン様のいるダークマップと戦うのか！？」
円堂「俺はお前たちのサッカーが許せない。お前たちを倒しイナズマ王国を救ってみせる。」
ロン「ほぉ、じゃあ俺たちサッカーでキサマらの潰してやるよ。ぜってー王様をサッカーボールの的にしてやるよ。」
鬼道「（なぜあんなに王様を憎むんだ！？）」
悪のグループ、ダークマップと試合することになった円堂たち。果たして勝つ事が出来るのか！？

第11話　対決　ダークマップと憎しみの過去

イナズマスタジアム
円堂「さぁみんな、この試合はただの試合じゃない！」
鬼道「ああ、この国の未来が懸かってる事だ。」
円堂「勝つぞ！」
選ばれし者「「「オオ～」」」
未来の戦士
ＦＷ
豪炎寺
虎丸
デメテル
ＭＦ
鬼道
アフロディ
佐久間
ヒロト
ＤＦ
寺門
飛鷹
ヘラ
ＧＫ
円堂
ダークマップ
ＦＷ
レノン
ロン
ライン
ＭＦ

ワイルズ
ジェイ
デイブ
DF
ピート
カン
バクラー
ケビン
GK
ゲープ
エミリア姫「（円堂さん、みなさんお願いします。）」
ロン「あんなヤツらに俺たちが倒せる訳が無い。」
ジュリー「さぁ、始まりました。実況はこの私ジュリーでお送りいたします。
さて、我がイナズマ王国の懸けた戦い。まもなくキックオフです。」
ピィィィィィィ
ジュリー「始まりました。」
鬼道「デメテル！」
ロン「潰してやるよ。ピート、ライン」
ピート、ライン「オウ、うぉぉぉ」
デメテル「ダッシュストーム！」
ピート、ライン「ぐぁぁ！！」
ロン「なに！？」
ジュリー「何とダークマップのディフェンスを突破しました！！」
王国の人A「すごい」
王国の人B「これは、もしかしたら。勝てるぞ！」
ロン「たかが突破したくらいではしゃぎやがって。」
デメテル「豪炎寺！」
豪炎寺「オウ、爆熱ストームG3」
ゲープ「なに！！」

円堂「よし！決まった。」
ゲープ「うぁわぁ、フッな～んてな」
バシンッ
豪炎寺「なっ！！」
虎丸「爆熱ストームを余裕で！」
ゲープ「未来はこんなシュートにびびってるのか。」
円堂「くっ！」
虎丸「タイガードライブ」
バシンッ
ヒロト「流星ブレードＶ３」
バシンッ
デメテル「うぉぉぉ、リフレクトバスター」
バシンッ
鬼道、佐久間「ツインブースト」
バシンッ
寺門「百烈ショット」
バシンッ
ジュリー「未来の戦士、シュートが決まりません。」
ゲープ「お前ら、そろそろ点取れよ。」
ロン「言われなくとも取ってやるよ。」
ジュリー「ついにダークマップの攻撃が始まりました！！」
ケビン「ワイルズ！」
鬼道「ヒロト、寺門」ヒロト、寺門「おお」
ワイルズ「フッ、カマイタチ」
ヒロト「ぐぁ、なに！？」ジュリー「ダークマップの逆襲です。未来は戦士のゴールに襲いかかります！」
ワイルズ「ロン、決めろ。」
ロン「ああ、くたばりな、ダイナマイトシュート！」
円堂「絶対に入れさせ無い。真ゴッドハンド！」
シュゥゥ

ロン「なに！？」
エミリア姫、神無月「「やった～」」
円堂「いっけ～」
鬼道「真イリュージョンボール、豪炎寺！」
豪炎寺「真爆熱スクリュー！」
ゲープ「さすがに素手じゃ無理だな。デビルファング」
ガァァ
飛鷹「何だ！？今の技」
アフロディ「真ゴッドノウズ」
ゲープ「デビルファング」
鬼道「皇帝ペンギン」
佐久間、寺門「2号」
ヘラ「ディバインアロー改」
虎丸「タイガー」
豪炎寺「ストーム」
ゲープ「デビルファング」
神無月「なんて技なの」
ゲープ「ムダムダ、ロン」
ロン「今度こそ、ダークインパクト」
円堂「止めてみせる。マジン・ザ・ハンド」
ガシッ
ロン「くっまたしても」
ピィ、ピィィ
ジュリー「ここで前半終了です。」
鬼道「思ったより強いな。」
円堂「ああ、だが俺たち負ける訳にはいかない。絶対に勝ってイナズマ王国を救うんだ！」
選ばれし勇者「「「オウ」」」
ロン「くそー、」
バクラー「まさかお前が点が取れないとはな。」

ロン「まぐれだ、ぜってー潰す。」
ジュリー「後半戦が始まります、勝利を手にするのは、どちらのチームか！？」

第１１話　対決　ダークマップと憎しみの過去・・・・？

ジュリー「さぁ、後半戦が始まります。先に１点を取るのはどちらのチームなのか！？」
ピィィ
ロン「レノン」
レノン「パワーホイール！」
円堂「はぁぁ、正義の鉄拳Ｇ５」
ばぁぁん
レノン「くそー、この技も。」
円堂「いけー、虎丸」
虎丸「行きます、グラディウスアーチ！」
ゲープ「次はこの技でいくか、シャドークロー」
スゥ、バシ
虎丸「何！？」
ゲープ「ぬるいぬるい」
ヒロト「天空落とし」
ゲープ「シャドークロー」
スゥ、バシ
ヒロト「くそー。」
ゲープ「カン」
カン「デイブ」
デイブ「やれ、ロン」
飛鷹「行かせるか、真空魔Ｖ３」
ロン「ああ！」
飛鷹「豪炎寺！」豪炎寺、虎丸、ヒロト「グランドファイアＧ２」
ゲープ「ほぉ、少しはマシな技があるんだな。なら、シャドーファング」
豪炎寺「何！？」

ヒロト「何だあの必殺技は！？」
ゲープ「フッ、俺の究極の技シャドーファングだ。やれ、ワイルズ」
ワイルズ「ジェイ」
ワイルズ、ジェイ「アナコンダアロー」
円堂「いかりのてっついＶ２」
がん
ジェイ「チッ」
ヘラ「アフロディ」
アフロディ「ヘブンズタイム改」
ピート、カン「うわぁぁ」
アフロディ「行くぞ、ゴッドブレイク」
ゲープ「シャドーファング」
ジュリー「未来の戦士、シュート何度も打ちます、しかし、の技が破れない。」
ライン「ミサイルショット」
円堂「真イジゲン・ザ・ハンド」
ロン「やろー」
円堂「こんなサッカーやって楽しいのか！ロン！」
ロン「何！？」
円堂「お前たちがやってるサッカーが間違ってる、こんなサッカーしたって楽しく無いだろ！」
ロン「うるさい！！お前らなんかに、この国を追い出さた俺たちの辛さが分かるか！」
豪炎寺「この国を追い出さた！？」
鬼道「どういう事だ！？」
ロン「聞きたいみたいだな？いいだろ。俺たちはもともとイナズマ王国の住人だった！」
神無月「ダークマップが、イナズマ王国の住人！？」
テルリン「いったい、何があったの！？」
ロン「俺たちは、生まれた時から城の裏の洞窟に暮らしていた、俺

は、裏闇族と呼ばれていた。」ルイ大王「裏闇族？あっ！」
ロン「すべては、あの気まぐれ王がいけなかった。あれは忘れもしない９年前」
９年前
ロン、５歳「楽しそうだな。」
ロンの母「ロン、何見てんの？」
ロン、５歳「母さん、僕もあの子たちとサッカーやりたい。」
ロンの母「ダメよ。」
ロン、５歳「なんでだよ！？なんでダメなの！？」
ロンの母「王様の気まぐれよ。」
５ヵ月後
ロン、５歳「母さん、しっかり。」
ロンの母「ロン、元気で」
ガクッ
ロン、５歳「母さ～ん！」「母さんが死んで僕は１人ぼっち、僕はどうすれば、ん？」
ロン「母さんを失って、その時見つけたのが。」
ロン、５歳「サッカーボールだ！」バシッ
ロン「初めてボールを蹴った時はとても楽しかった、そして俺の前に現れたのは、ゲープたちだ。」
ロン、５歳「みんな、サッカーやろー」
ロン「だが」
ルイ大王、４１歳「裏闇族を追い出すのだ。」
兵士「裏闇族、お前たちを追放する。」
ロン、５歳「何で僕たちが出て行かなきゃらないの！？」
ルイ大王、４１歳「お前たちがサッカーやってるからじゃ。」
兵士「出て行けー」
ロン「俺たちがサッカーやってはいけないのかよ。だったら、俺たちがサッカーで復讐する。」
そして、現在

ロン「そして俺たち、ダークマップが誕生した訳だ！」
エミリア姫「お父さま、なぜサッカー楽しんでたダークマップを追い出したのですか！？」
ルイ大王「それは、私の気まぐれで。」
エミリア姫「その気まぐれでこんな事になったんですよ！」
テルリン「ひどい王様」
円堂「だがなぜ他の国を襲ったんだ！？」
ロン「この国に恐怖を与える為だ。」
円堂「他の国やこの国をサッカーで襲うなんて。」
ロン「うるさい、お前たちに俺たちの９年前の過去が分かるか！」
円堂「ロン」「（そうか、ロンたちはずっと苦しんでいたんだ！あの頃の楽しいサッカーを奪われて昔の自分を失ったんだ！）」
パンッ
ロン「ん？」
円堂「こい、ロン！お前の辛さ俺が受け止める」
ロン「なんだと、コイツ、俺をバカにしてるのか！」
バシッ
円堂「ドンドン打ってこい！」
ロン「このっ」
ルイ大王「何やってるんだ彼は！？相手にボールを渡して！」
神無月「円堂くん、ダークマップの辛さを分かち合っているんです。」
エミリア姫「え？そんな事が出来るのですか！？」
神無月「円堂くんなら出来るんです。」
バシッ
円堂「ハァハァさあこい、お前の辛さこんなもんじゃないはずだ！」
ロン「だまれ！うぉぉぉ！！」
鬼道「何だ！？」
ロン「くたばれ！ジャックスコーピオン！」円堂「このシュート、止める！はぁぁ、ゴッドキャッチＧ３うぉぉぉ」

しゅうううう
ロン「なっ！？」
レノン「なに！？」
ジュリー「止めた～、円堂くん、ジャックスコーピオンを止めました！！」
ルイ大王「すごいぞぉ円堂くん！ところでエミリア姫、残った時間は？」
エミリア姫「あっ！あと3分しかありません！！」
ルイ大王「仕方ない、彼らには延長戦で頑張ってもらうしか！」
神無月「延長戦は必要無いと思います。円堂くん、やるかもしれません。」
エミリア姫「やるって何を？」
円堂「よ～し、行くぞ！」
ルイ大王「え？」
エミリア姫「え？」
王国の人たち「「「ええ～！？」」」
ジュリー「何と円堂くんオーバーラップ、ドリブルで上がっていたー！！」
ロン「なっ、何だと！？」
ルイ大王「ゴールキーパーがオーバーラップって！？」
エミリア姫「これではゴールががら空きに！」神無月「これが円堂くんのサッカーです。」
エミリア姫、テルリン「え！？」
神無月「円堂くんは負けてる時、時間が無い時にやるんです。」エミリア姫「それではゴールが。」
神無月「わかっています。でも私は信じています、円堂くんたちならやってくれるって事を。」
エミリア姫「神無月さん。」
ロン「ヤロー、うぉぉぉぉぉ、行かすか！」
円堂「くぅ！」

ロン「お前らに、俺たちの過去の辛さが分かる訳が無い。」
円堂「いや、分かる。」
ロン「なに！？」
円堂「お前達の時代に親を亡くした悲しみ、王への怒りも分かる。だが、サッカーで悪い事してるお前たちに負ける訳にはいかないんだ！たぁ」ロン「ぐぁ、なんてパワーだ！？」円堂「鬼道、豪炎寺」
鬼道「イナズマブレイクＶ２」
ゲープ「シャドーファング、うっ！？ぐわわわ！！」
ピィィィィィィ
ジュリー「ゴっ！ゴール！！何と、今まで１点も捕れなかったゲープからついに１点、これは希望の１点が捕れました！」
ロン「そっ！そんな！？」
ピィ、ピィ、ピィ、ピィィ
ジュリー「ここで試合終了！！勝ってのは未来の戦士、イナズマ王国は救われました！！」
王国の人たち「「「うぉぉ、わ～」」」
ロン「行くぞ！」
ワイルズ「ロン！？」
円堂「待てよ、ロン」
ロン「なんだよ！」
円堂「本当は、お前も本当のサッカーがやりたいはずだ、思い出せ、お前たちが初めてボールを蹴った時を。」ロン「（本当のサッカー！？・・・そういえば初めてボール蹴った時はとても楽しかった、母さんを亡くした時も忘れるくらいに。だが、あの王が・」
（お前たちの辛さ俺が受け止める）
ロン「はぁ！円堂！？そうか。あいつ、俺たちの過去分かち合うために！・・・フッ、なぁ円堂！？」
円堂「ん？」
ロン「人間は、変わる事が出来るよな！？」
円堂「え！？」

ロン「やっぱり俺たちじゃ、変わる事が出来ないのか！」
円堂「変わりたい気持ちがあればいつだって変わる事が出来る！」
ロン「そうか、なぁ円堂。もう１回試合やらないか？」
円堂「え！？」
ロン「これは国を乗っ取るための試合じゃない、俺たちがあの頃に戻れための試合だ！！」
円堂「よ～し、みんな、やるぞ～。」
選手たち「「「オオ～」」」
豪炎寺「はあぁぁ！！」
ゲープ「うぉぉ！！」
バシッ
ロン「ナイス、ゲープ！」
ゲープ「へへ、俺もいくぞ！」
ジュリー「なんとゴールキーパー、ゲープオーバーラップ！！」
円堂「だった俺も」
ジュリー「また円堂くん、オーバーラップです。」
テルリン「ゴールキーパーのいないサッカーなんて。」
神無月「聞いた事無いけど。」
エミリア姫「でも、楽しそうです。」
ルイ大王「え？」
エミリア姫「見て下さいお父さま、ダークマップの顔を。あの憎しみの顔してたダークマップが、あんな楽しそうにサッカーをしています。」
ロン「いくぞ円堂！」
円堂「こい、ロン」
ロン「（円堂、俺、思い出したよ。サッカーはみんなで戦う楽しい物だって）はあ！」シュー
円堂「フッ、いいシュートだ、ロン」
ピィッピィッピィィィィィィ
ロン「ありがとう、円堂。お前たちのおかげで本当のサッカーと自

分を取り戻せる事ができた。」
円堂「ああ、だが取り戻せる事できたのは、自分の力だ！」
ルイ大王「ダークマップの諸君」
ロン「ルイ大王！？」円堂「まさか！待って下さい、王様！ロンたちはせっかく本当のサッカーと自分を取り戻せたのに。」
エミリア姫「お父さま、円堂さんの言うとおりです！」
ルイ大王「私は誰も処刑にすると言っておらん。」
エミリア姫「えっ？」ルイ大王「こうなったのは私のせいだ、私が気まぐれだからこうなったのだ。」
ロン「ルイ大王。」
ルイ大王「ダークマップの諸君、良かったらまたイナズマ王国の住人にならんか？」
ロン「本当ですか！？王様」
ルイ大王「あっ、ありがとうございます！」
その夜の城
ルイ大王「君たちの勇姿は本当に素晴らしいかった」
選ばれし勇者「「「はい、ありがとうございます！」」」スゥ
円堂「あれは！真実の石版！？」
スゥゥゥ
円堂たち「「「うはああ！」」」
ロン「円堂！」
エミリア姫「元の時代に戻ったみたいですね。」
ロン「もう少し、あいつとサッカーやりたかったな。」
エミリア姫「ええ、そうですね。」
元の時代
円堂「ここは！？」
アフロディ「どうやら元の時代に戻ったみたいだね。」
ヒロト「なんか不思議だったね。」
ピロロロロン
テルリン「あっ、エミリア姫からメールだわ！」

神無月「読んで！」
テルリン「読むよ。勇者様、イナズマ王国を救っていただき本当にありがとうございました、あなた達のご恩は忘れません。」

第１２話留学　ドイツの天才バイオリニスト

河川敷の練習場
半田「真ローリングキック」
円堂「真熱血パンチ」
ガンッ
半田「あっ！」
木野「みんな、休憩時間よ。」
半田「よし、決めた！」
円堂「どうしたんだ半田！？」
半田「俺も新技を作るぞ！」
染岡「ほぉ、やる気満々だな！」
テルリン「相変わらず熱いね。」
音無「あっ！神無月さん！こんにちは。」
壁山「仕事の帰りッスか？」
神無月「仕事と言うより、打ち合わせだったから。」
宍戸「新しい仕事が入ったんですか！？」
神無月「うん、確か日本に来る杉村メロディーヌのインタビューだったかな。」
夏未「杉村メロディーヌですって！？」
円堂「なんだ夏未、知ってるのか？」
夏未「円堂くん、やっぱり知らないのね。」
松野「杉村メロディーヌは世界で有名なバイオリニストだよ。」
円堂「へぇ、そんなにすごいんだ。それでいつ来るんだ？」
神無月「今週の水曜日だよ。」
音無「今週ですか！？」
円堂「どんなヤツなんだろう。」
そして水曜日
関東空港

カメラマンA「お～い、来たぞ！！」
カメラマンB「あの子が天才バイオリニストの杉村メロディーヌか！？」
メロディーヌ「ここが日本、こんなに人が来るなんてミーは嬉しい。」
雷門中
円堂「おはよー、神無月は休みか？」
木野「円堂くん、忘れたの？神無月さんはインタビューで休みよ。」
円堂「あっ！忘れてた」テレビ局に向かう車
運転手「もう少しでテレビ局です。」
メロディーヌ「もし、うまくいけばあの人に会えるかな？」
運転手「あの人？」
メロディーヌ「会った事無いからわからないの、でもミーにとって会いたい人なの。」
テレビ局
ラブリン「もうすぐだと思うけど？」
ブロロロォォォォ
ラブリン「あっ！あの人が杉村メロディーヌさん。あの。」
メロディーヌ「ん？」
ラブリン「初めまして、ラブリンです。」
メロディーヌ「よろしく。」
夕方　豪炎寺の家
夕香「あっ、お兄ちゃんお帰りなさい。これからラブリンの番組が始まるよ。一緒に見よう。」
豪炎寺「ああ。」ラブリン「こんにちは、今日は日本に来たバイオリニスト、杉村メロディーヌさんが来ています。よろしくお願いします。」
メロディーヌ「杉村メロディーヌです、ヨロシク。」
ラブリン「早速ですが、日本に来てどう思ってますか！？」
メロディーヌ「日本の事よくわからないけどドイツみたいにいい所

だと聞いています。」

メロディーヌへの質問もいよいよ最後になった
ラブリン「では最後に何か言いたい事はありますか？」
メロディーヌ「言いたい事？ん～、じゃあ１つだけ。」
ラブリン「どうぞ。」
メロディーヌ「ミーには憧れている男の人がいるの。」
ラブリン「憧れている男の人！？バイオリニストですか？」メロディーヌ「ううん、その人サッカーやってた、でもミーが憧れている男の人はとてもまっすぐで諦めない気持ちが強くて物事深く考え無い男の人だった。」
ラブリン「いつから憧れるようになったんですか！？」
メロディーヌ「確かあれはミーがドイツでバイオリンの予選で受かった後のことだよ。やっとミーが立ちたかった舞台に上がれるのにあまりの緊張でうまく引く事が出来なくなったのだから諦めようとしてテレビをかけたのそしたら日本の番組で、あれ！？あのサッカーの大会なんだたかな！？確か、フット・・・・何だったかな？」
ラブリン「それって、フットボールフロンティアの事？」メロディーヌ「あっ！それそれ、そのフットボールフロンティアって大会で！確かあの人、かみなりかど中の人だったかな？」
ラブリン「かみなりかど？」
メロディーヌ「対戦相手は、せんはねやまと対戦してた時」
ラブリン「せんはねやま？」
メロディーヌ「残り時間少なく１対０で負けていてかみなりかどのチームは諦めていたけど、その人がこう言ったんだ！」
ラブリン「なんて言ったんですか！？」
メロディーヌ「俺たちの本当の必殺技は最後まで諦めない気持ちなんだ！って！」
豪炎寺「（今のセリフ、確か）」
メロディーヌ「その後、諦めなかったからここまで来られたんだろ

！諦めたらそこで終わりなんだ！この言葉でミーは決心したの！」
ラブリン「決心？」
メロディーヌ「諦めないって！」
豪炎寺「（諦めない気持ち、あのセリフ、間違い無い！）」
ラブリン「その憧れている男の人、会った事無いんですよね？」メロディーヌ「ええ、会った事無いよ。」
ラブリン「特徴は覚えていますか！？」
メロディーヌ「確か、オレンジのバンダナしてた。」
ラブリン「オレンジのバンダナ？」
メロディーヌ「う～ん、バンダナと言うよりヘアーバンドだったかな、後髪型は両サイドにサメのヒレって感じな。」
ラブリン「サメのヒレ？ヘアーバンド？はっ！」
メロディーヌ「名前が分かればあんまり苦労しないのに。」
ラブリン「私、その人知ってる。」
メロディーヌ「えっ！？本当にその人知ってるの！？」
ラブリン「ええ、その男の人、円堂守と言って、雷門中サッカー部のキャプテンよ」
メロディーヌ「円堂守、雷門中？」
ラブリン「あっ！さっき言ってたかみなりかどって、雷門中の事ですね。後言ってたせんはねやまは千羽山中の事ね！」
メロディーヌ「後、大会決勝であれは～ようこ中と。」
ラブリン「世宇子中ですね。」
メロディーヌ「最初は3対0で負けていてボロボロなのに諦めず何度も立ち上がり逆転勝ちして優勝したの！やっぱり大切なのは、諦めない事だって。」
ラブリン「ありがとうございました、それではまたお会いしましょう、さようなら」
控え室
中本「ラブリン、お疲れ様。驚きだったわね、バイオリニストの憧れている人が円堂くんなんて！」

神無月「でも分かるな。」
中本「えっ？」
神無月「私も、どんな時でも笑顔になれる円堂くんに憧れるから。」
テレビ局の外
メロディーヌ「ヘイ、ラブリン」
神無月「んっ！？」
メロディーヌ「ラブリン」
神無月「し～！！今は神無月愛だから！」
メロディーヌ「じゃあ、愛って呼んでいいかな？」
神無月「いいよ」
テルリン「ちなみに私はテルリン」
メロディーヌ「ワオ。しゃべる携帯電話」
神無月「それで、何か用なの？」
メロディーヌ「あっ！そうだ、ユーは円堂守くんの家知ってる？」
神無月「知ってるけど、行きたいの？」
メロディーヌ「イエス」
住宅街
メロディーヌ「この辺に円堂守くんの家があるね。」
神無月「うん」
？？？「多分円堂はいないぜ。」
メロディーヌ「誰？」神無月「豪炎寺くん、半田くん！」
メロディーヌ「知り合い！？」
神無月「円堂くんと同じ、雷門中サッカー部の仲間よ。」
豪炎寺「よろしく。テレビ、見たぜ。」
半田「まさか円堂に憧れているとは思わなかったよ。」
神無月「豪炎寺くん、円堂くん家にいないってどう言う事？」
豪炎寺「おそらく円堂は、あそこだ。」
メロディーヌ「あそこ？」
鉄塔
半田「ここだよ。」

神無月「ここ！？よく見るけど、ここに円堂くんがいるの？」
豪炎寺「ここは円堂がサッカーの特訓をする所だ。」
メロディーヌ「円堂守くんがここに！」
半田「あれ！？円堂、まだ来てないのか？」
メロディーヌ「あの木にぶら下がってるタイヤは？」
豪炎寺「あれは、円堂がキーパーの練習をするためのタイヤだ。それを押して止めるんだ！」
メロディーヌ「こんな風に？それ！」
半田「そうそう、って危ない！それは円堂しか――――！！」
メロディーヌ「ウワァァァ！！」
バシィィン
メロディーヌ「んっ！？あっ！」
？？？「大丈夫か！？」
メロディーヌ「う、うん。」
半田「円堂！」
メロディーヌ「えっ！？ユーが円堂守くん！？」
円堂「ああ、君がメロディーヌだな！」
メロディーヌ「うん、ミーは杉村メロディーヌ。円堂守くん、会えて嬉しい。」
円堂「そうだ、せっかく来たんだ。神無月もテルリンも初めてここに来たんだろ！？」
神無月「うん？」
テルリン「それがどうかしたの？」
円堂「いいから来なって。」
鉄塔の上
メロディーヌ「ワォ―！、イッツ・ア・ビューティフル！」
神無月「キレイ、こんな所にいい場所が有ったなんて！」
円堂「俺のお気に入りの場所なんだ！さて。」
神無月「もう降りるの？」
円堂「ああ、半田の新技の特訓に付き合いするんだ。」

メロディーヌ「日本、そして円堂守くん、なんか楽しい事になりそう。フフッ」

第１２話留学　ドイツの天才バイオリニスト（後書き）

次回予告

テレビで杉村メロディーヌと円堂守が共演！

次回　第１３話生中継再び円堂とメロディーヌ

第13話　生中継再び　円堂とメロディーヌ

金曜日　雷門中放課後
半田「いくぞ円堂、これが俺の新技だ！」
円堂「こい！半田！」
半田「ローリングクリムゾン」
円堂「真イジゲン・ザ・バンド」
パリーン
半田「よし！」
壁山「すごいッス！」
円堂「すげー！やったな、半田！」
半田「おう！だがもっと強くなるぜ。」
一方　神無月家
プルルルル
神無月「はい、神無月です。」
撮影監督「やあ、愛ちゃん。」
神無月「あっ！監督、どうしたんですか？」
撮影監督「今度の日曜日、ラブリンの杉村メロディーヌに聞いてみよう、と言う番組をやるんだけどメロディーヌちゃんに頼んでくれない？」
神無月「はい、わかりました。」
撮影監督「後もう1人ゲストを誘ってくれない？」
神無月「もう1人のゲスト？」
撮影監督「誰でもいいんだけど、出来ればメロディーヌちゃんにふさわしい人で頼むよ、よろしく。」
神無月「メロディーヌさんにふさわしい人？ちょっとメロディーヌさんの所に行ってきます。」
神無月の母「愛、メロディーヌちゃんの所に行くならこれを渡してきて。」

神無月「これは？」
神無月の母「さっき焼いたクッキーよ、仲良く食べてね。」
神無月「ありがとう、ママ。」
幼稚園近く
神無月「確か、この辺のマンションに住んでるはず。んっ！？」
バイオリンの音色
神無月「この音色、確か。」パチパチパチパチ
神無月「やっぱりメロディーヌさんのバイオリンの音色ね。」
メロディーヌ「愛？明後日にミーの生放送を！？」
神無月「うん、後ゲストも出すの。」
メロディーヌ「ＯＫ、ミーの番組なら喜んで出るよ。」
神無月「ありがとう、メロディーヌさん」
メロディーヌ「メロディーヌでいいよ。」
神無月「・・・・うん、メロディーヌ」
テルリン「後はゲストは誰にするか、問題よね。」
神無月「そうね、言ったい誰をゲストにすればいいのかな？」
テルリン「いっそうの事、円堂くんにすれば。」
神無月「テルリン、さすがにそれは。」
メロディーヌ「えっ！？円堂くんを出すの！？ミーも賛成！！」
神無月「あっ！え～と！」
神無月家
テルリン「ごめんなさい、冗談のつもりだったのに。」
神無月「まぁあの時は仕方なかったけど、どうしょう。」
神無月の母「どうしたの、愛、テルリン？」
神無月「あっママ、実は。」
神無月は母に訳を話した
神無月の母「なるほどね、ゲストは円堂くんと言ってメロディーヌちゃんが喜んで言えなくなったのね。」
神無月「どうすればいいの！？」
神無月の母「直接、円堂くんに頼んでみたら。」

神無月「えっ！？」
神無月の母「円堂くん、サッカー部のキャプテンだし、きっと大丈夫よ。」
円堂家
温子「守、愛ちゃんから電話よ！」
円堂「神無月から！？もしもし？」神無月「あっ！円堂くん、悪いけど私の家に来てくれない？話したい事があるの。」
円堂「話したい事？今じゃダメなのか！？」
神無月「ダメかな？」円堂「いいけど。」
神無月「本当！ありがとう！家で待ってるから。」
神無月の家
円堂「こんばんは」
神無月の母「あらっ！円堂くん」
円堂「娘さんの愛さんいますか？」
神無月「あっ！円堂くん、来てくれたんだ！ありがとう。」
円堂「それで話したい事って？」
神無月「明後日の日曜日、生放送やるんだけど、お願い！円堂くん、ゲストになって！」
円堂「えっ！？俺がゲストに！？なんて番組だ？」
神無月「ラブリンの杉村メロディーヌに聞いてみよう、て言う番組だよ。ダメかな？」
円堂「・・・・・わかった、いいぜ、神無月！」
神無月「えっ、本当に引き受けてくれるの！？」
円堂「ああ、日曜日練習休みだからな。」
神無月「ありがとう！円堂くん、明後日迎えに行くから。後服装は明日テルリンが知らせ行くからね。」
円堂「ああ、頼むぜ。」

第13話　生中継再び　円堂とメロディーヌ……？

土曜日　サッカー部部室
1年生「「「テレビのゲストォォ！？」」」
円堂「ああ、昨日神無月に頼まれたんだ！」
風丸「何時やるんだ？」
円堂「明日だよ。」
影野「いきなりな話だね。」
トントン
木野「ハ～イ、あれ？誰もいない？」
テルリン「此処だよ～」
木野「あっ！テルリン、ごめんね！気がつかなくて。」
テルリン「円堂くん、明日の服装は自分らしい格好で来て、だって。」
円堂「俺らしい？」
豪炎寺「だったら円堂は、ユニフォームの方がいいんじゃないのか？」
冬花「そうですね。守くんはユニフォームの方が守くんらしいですね。」
円堂「よ～し、決まりだ！神無月に伝えてくれ。」
テルリン「了解！」円堂「さあ、明日頑張るぞ！」
日曜日の朝　円堂家
温子「守～、起きなさい！もうすぐ迎えが来るわよ～！」
円堂「いけね～、もう少しで神無月が迎えに来るんだ！」
温子「全く、相変わらずなんだから、メロディーヌちゃん、よく守に憧れたものよね。」
広志「はっはっは、それだけ守がすごい事した証だよ。」
温子「そうね。」
ピンポーン

温子「ハ～イ」
ラブリン「おはようございます、円堂くんのお母さん」
温子「あらっ、愛ちゃん」
ラブリン「し～！！今はラブリンですから！」
温子「あらっ！ごめんなさい。」
ラブリン「息子さんは？」
円堂「お待たせ」
ラブリン「本当、ユニフォームの方が円堂くんらしいね。」
円堂「じゃ、母ちゃん、行って来る。」
温子「いってらっしゃい。」
テレビ局
風丸「少し早めに着いたみたいだ。」
豪炎寺「やはりお前も来てたか。」
風丸「豪炎寺！後夕香ちゃん、2人も来たんだ」
夕香「うん、お兄ちゃんのお友達を見に来たの」
染岡「よぉ！」
鬼道「お前たちも同じ考えだったか。」
豪炎寺「染岡、鬼道」木野「みんなも来たんだ！」
壁山「間に合ったッス」
栗松「あっ！みなさんやっぱり来てたんでヤンスね。」
闇野　影野　宍戸　半田松野　夏未　音無　土門一之瀬　冬花　目金　少林寺が来ていた。
鬼道「結局みんな考える事は同じだった訳か。」
搭子「お～い」
夏未「搭子さん！？」搭子「円堂がテレビに出ると聞いて生で見に来たんだ！」
飛鷹「雷門のメンバーも来てたんだな。」
風丸「飛鷹！？お前もか！」
飛鷹「昨日、響木さんに聞いたんな。」
栗松「あっ！来たでヤンス！」

円堂「あっ！みんな、来てくれたんだ！」
ラブリン「円堂くん、こっちこっち」
円堂「じゃみんな、また後で」
木野「もしかして1番来たかったのは、立向居くんだったかもね。」
陽花戸中
戸田「立向居、ラブリンの番組やるけど、みんなで見ないか！？」
立向居「すみませんキャプテン！1日でも早く円堂さんに追いつきたいんです！」
戸田「そうか・・・・・・残念だなぁ、ゲストは円堂くんなのに・・・・・・」立向居「キャプテン、何してるんですか！？早くしないと円堂さんが見られなくなりますよ。」
戸田「切り替えの早い奴」

東京テレビ局
撮影監督「準備は良いかい？」
ラブリン「はい」
スタッフ「それでは本番入ります、スタート！」
ラブリン「みなさん、こんにちは。ラブリンの杉村メロディーヌに聞いてみよう！が始まりました。
今日は、杉村メロディーヌさんに来ていただきました。
メロディーヌ「ヨロシク！」
ラブリン「今回はゲストとして、円堂守さんに来ていただきました。
では、どうぞ！」
円堂「どうも、こんにちは。」
ラブリン「今日は、来ていただいてありがとうございます。では、早速始めたいと思います。円堂さん、メロディーヌさんに聞きたいことありますか？」
円堂「そうだな…、バイオリンを始めたきっかけはなんですか？」

メロディーヌ「ミーのパパはバイオリニストなの。」
ラブリン「バイオリンは、お父さんの影響なんですね！」
メロディーヌ「ＹＥＳ！でもこのバイオリンはミーが小さい頃優しそうなお姉さんにもらった物なの」
円堂「もらった？」
ラブリン「誰にですか！？」
メロディーヌ「あの頃ミーは小さかったからよく覚えてないよ。」
番組もそろそろ終盤になりメロディーヌが円堂に質問する
ラブリン「では最後にメロディーヌさんが円堂さんに聞きたいことありますか？」メロディーヌ「聞きたいこと・・・あっ！１つ聞きたいことがあるの。」
ラブリン「何ですか？」
メロディーヌ「円堂くんは、なんでそんなにまっすぐでいられるの！？」
円堂「まっすぐ？う～ん、うまく言えないけど、俺がまっすぐなのは、サッカーが好きだから！」
メロディーヌ「サッカーが好きだから！？」
円堂「ああ、人には必ず目標がある。」
メロディーヌ「目標？」
円堂「俺がサッカーで大きな舞台に行く目標があるから頑張れる、だから諦めなかったんだ。メロディーヌにもあったはずだ、バイオリンで大きな舞台に立つ目標が！」
メロディーヌ「・・・うん、あった！あった！ミーが立ちたかった舞台に立つ目標」
円堂「大切なのは、目標を持って立ち上がる事なんだ！」
ラブリン「ありがとうございました！では、今日の番組はここまで、またお会いしましょう。」
テレビ局のロビー
壁山「キャプテン、かっこよかったッス」
音無「お疲れさまでした。」

円堂「サンキュー、みんな。」
ラブリン「どうだった？円堂くんの勇気が出る言葉。」
メロディーヌ「うん、ミー、ますます円堂くんに憧れたよ。」

第１３話　生中継再び　円堂とメロディーヌ…？（後書き）

次回予告　メロディーヌが神無月とハーモニーの歌を作りだす
第１４話　奇跡の歌
ハーモニーハート
イナズマイレブン
今日の格言
円堂「大切なのは、目標を持って立ち上がる事なんだ！

第１４話　奇跡の歌ハーモニーハート

神無月家
ピロロロロン
テルリン「愛、メールだよ。」
神無月「メロディーヌからだわ！」
メール【愛へ、ミーのバイオリンと愛の歌声で歌の作ろ。クッキーもお願いね】
メロディーヌのいるマンション
メロディーヌ「音色はバッチリ作ったよ、後は愛が歌詞を作るだけだよ。」
神無月「うん、任せて。」「とは言うものの、どういう歌詞にするかな。」
鉄塔
円堂「ん！あれは・・・・・・お～い神無月ぃ！」
神無月「円堂くん」
円堂「どうしたんだ？少し元気ないみたいだけど！？」
神無月は円堂に訳を話した
円堂「メロディーヌが歌を作ろと！？」
神無月「うん、でも歌詞が思いつかなくて。」円堂「大丈夫、２人の気持ちが１つになれば奇跡がおきる」
神無月「えっ！奇跡、それだわ！ありがとう円堂くん」
雷門中
木野「奇跡がメインの歌を作るのね！」
神無月「うん、他になにを入れればいいか。」
木野「迷わないで考えていこう。」
神無月「迷わない・・・それももらったわ！」
染岡「信頼も使えねーか！？」
神無月「信頼、それも使えるわ！」

神無月は円堂たちのヒントで歌詞を作りました。
神無月「円堂くん、歌出来たんだけど。」
円堂「本当か！？やったな、神無月。」
神無月「だからみんなを誘って鉄塔に来てくれる、私もメロディーヌと先に行ってるから。」
円堂「わかった！みんなを呼んでくる」
再び鉄塔
神無月「あっ！来たよ！」
円堂「お待たせ！みんな連れてきたぜ。」
冬花「それでどんな歌何です！？」
メロディーヌ「ミーと愛が作った歌そのタイトル名は」
メロディーヌ、神無月「「ハーモニーハート」」」
神無月とメロディーヌが作った歌はとてもよく本当に奇跡が起こるハーモニーな歌だった
神無月家
神無月の父「メロディーヌちゃんと作った歌きっと大評判になるよ。」
神無月の母「そうね。」
神無月「ヤダ～パパ、ママ大評判だなんて。」
テルリン「でもいい歌だったし大評判になるよ。」
神無月「テルリンまで。」
ピンポーン
神無月「私が出る。ハ～イ」
ガチャ
神無月「あっ！メロディーヌ」
神無月の母「あらっ！メロディーヌちゃん、どうしたの？そんなに荷物を持って。」
メロディーヌ「ミー今日からここに住む事にしたの。」
神無月「本当！？」
神無月の父「歓迎するよ。空き部屋があるから。」

神無月「よろしくね、メロディーヌ」
メロディーヌ「ヨロシク、後1つお願いがあるんだけど。」
神無月「えっ？」
次の日　雷門中
豪炎寺「そうか、メロディーヌが神無月の家住む事になったのか。」
木野「バイオリンの音色と歌声がピッタリだもんね。」
神無月「うん！じつはもう1つ驚く事があるの。」
円堂「驚く事？」
ガラガラ
先生「さあ、席に付け。今日はドイツから来た留学生を紹介するぞ。」
円堂「ドイツから来た留学生？まさか！」メロディーヌ「はじめまして、杉村メロディーヌです、ヨロシクね。」
木野「驚く事ってこの事だったのね！」
神無月「うん」
メロディーヌ「あっ！守くん！」
円堂「えっ！？守くん！？」
メロディーヌ「うん、今日から守くんと呼んでいいよね？」
円堂「ああ！いいぜ、よろしくな！メロディーヌ」
メロディーヌ「ヨロシク」
放課後
風丸「炎の風見鶏」
円堂「真イジゲン・ザ・ハンド」
メロディーヌ「ワァ！ファンタスティック！」
神無月「すごい、みんな楽しそう、特に円堂くん」
メロディーヌ「なんで守くんは、あんなに楽しそうにサッカーやれるんだろ？」響木「それはあいつが宇宙一のサッカーバカだからだ。」
メロディーヌ「宇宙一のサッカーバカ！？」
神無月「円堂くんたちが1年生の時もサッカー強かったのかな？」

木野「ああ、実を言うと・・・」
神無月「ええ～！！円堂くんが雷門中に入学した時サッカー部はなかったの！？」
木野「うん、４０年前サッカー部はあったけど廃部になって円堂くんと私がサッカー部を作ったの。最初は部員は7人だけだったけど風丸くんたちや豪炎寺くんが入ってくれたからフットボールフロンティアに出場出来たのよね。」
メロディーヌ「でもサッカー部が今の人数で昔の人数が考えれないな。」
夏未「ええ、そうね」メロディーヌ「やっぱり、守くんが諦めなかったからフットボールフロンティアで優勝出来たんだね。」
木野「そうだね、すべては、円堂くんがみんなを支えて元気ずけてくれたからだね。」
メロディーヌ「すべては守くんが支えたっか・・・・やっぱり、守くんはすごいよ。」

第１４話　奇跡の歌ハーモニーハート（後書き）

次回予告　ニュージーランドの男が俺をスカウトする
第１５話　新たな舞台
ニュージーランドへ
今日の格言
円堂「２人の気持ちが１つになれば奇跡が起きる」

オリキャラ設定・・・・・？

オリキャラその６
名前　クロナ・ワークス
性別　男
年齢１４歳
ニュージーランド出身、３２チーム、ホワイトタイガーのキャプテン。外道のサッカーチームブラックドラゴンを憎んでいる。
ポジションＦＷ
背番号９
必殺技ライトニングボルテック、ライトニングボルテック改、真ライトニングボルテック。
オリキャラその７
名前　スティーブ・キャプラー
性別　男
年齢　１４歳
３２チーム、ブラックドラゴンのキャプテン。外道のサッカーチームと言われているが自分はなぜ言われているのかわかっていない。
ポジションＦＷ
背番号１０
必殺技　リュウノアギト　リュウノアギトＶ２　リュウノアギトＶ３
オリキャラその８
名前　ジャンヌ・フォウド
性別　女
年齢　１４歳
特徴髪の色は水色のロング。目の色は薄い紫
クロナ・ワークスの幼なじみでサッカーが好き。サッカーのルールも詳しくホワイトタイガーの監督を勤めていた、親を亡くしホワイトタイガーの大統師をやっている

第15　新たな舞台　ニュージーランドへ

ニュージーランド
???A「くそ～、まさか大会前にこんな事になるなんて、一体どうすれば!?」
???B「落ちついて下さい、いい選手を見つけました。」
???A「本当か!?そいつはどこに?」
???B「日本の東京、稲妻町に世界一になったゴールキーパーがいます、他の選手もいるはずです。」
???A「日本か～、遠いな～。でもいない方よりマシだ!必ず大会前に間に合わせ見せる。」
日本　稲妻町住宅街
???A「確かこの辺のはずだが、あの人に聞くか。ね～君!」
木野「はい!なんですか?」
???A「この辺に世界一になったゴールキーパーの家はどこかな?」木野「世界一になったゴールキーパー?円堂くんと事ですか!?そこでしたら、ここです。」
???A「ここが!」
ガラッ
円堂「母ちゃん、行ってくる。おう、秋。あれ!君は?」
???A「俺、ニュージーランドから来たクロナ・ワークスだ。円堂、お前を俺のチームにスカウトする。」
円堂「ええ～!?俺がニュージーランドのチームに!?」
クロナ「ああ、いいよな。」
円堂「悪いけど、俺は雷門サッカー部のキャプテンなんだ、スカウトは断るよ。行こうぜ、秋。」
木野「うん。」
クロナ「断られた、でも諦めない。」
雷門中

鬼道「円堂をスカウトする奴！？」
木野「うん、でもすぐ断ったけど。」
豪炎寺「染岡、雷門のキャプテンが円堂以外の奴は考えられるか！？」
染岡「そんな事、考えられる訳ねーだろ！」
神無月「円堂くん」
夏未「あらっ、神無月さんにメロディーヌさん！」
メロディーヌ「ハロー、愛のママが差し入れでクッキーを作ってくれたんだ。」
壁山「クッキー！おいしそッス」
テルリン「何か話ししてなかった？」
音無「じつはですね」
メロディーヌ「そんな事があったんだ。」テルリン「プロのスカウトでもないのに円堂くんをスカウトするなんて。」
豪炎寺「俺たちがここまで成長したのは、円堂がそばにいたからだ。」
一之瀬「そうだ、俺も円堂のサッカーが好きになって雷門に入ったんだ。」
円堂「ありがとうな、みんな」
クロナ「あいつ、いい仲間を持ってるぜ。」古株「誰じゃ？お前さんは。」
クロナ「わあ！！」
土門「誰だ、あいつ？」
円堂「またお前か、スカウトは断ったはずだ。」
風丸「あいつが円堂をスカウトした奴か！？」
木野「うん」
クロナ「まあ、スカウトと言っても大会が終わるまでの助っ人でいいんだ。」
円堂「助っ人？」
クロナ「そうだ。」

円堂「グランドに来い」
クロナ「えっ！？」
円堂「ＰＫで勝負だ！お前のシュートが本気なら話しを聞いてやる。」
クロナ「・・・わかった、いくぞ円堂～！ライトニングボルテック！」
土門「なんだ！？あのシュート！」
円堂「ゴッドキャッチＧ３」
しゅうううう
松野「止めた！」
宍戸「キャプテンの勝ちだ！」
クロナ「くそ～。」
円堂「このシュート、本気のようだな。」
クロナ「ああ、本気でけらない奴がどこにいる。」
円堂「話しを聞いてやるよ。」
クロナ「本当か！？ありがとう。」
円堂「ニュージーランドのお前がなぜ日本に来たんだ！？」
クロナ「じつは、今週年に１度行われるサッカー大会、カラーアニマルカップが開かれる。俺たちのチーム、ホワイトタイガーも大会に向けて練習していた！だが、１６人の内、１３人が事故で怪我してしまったんだ。」
夏未「それは大変だったわね。」
クロナ「でもあの事故はすべて俺たちを狙っていた、これは外道のサッカーチーム、ブラックドラゴンの仕業に違いない！あいつらは勝つためなら手段は選ばない奴らだ！残ったのはフォワードの俺とディフェンダーの２人だけ、頼む円堂、俺たちのチームに助っ人として参加してくれ。」
円堂「ああ、話しはわかったぜ、クロナ。俺もその大会に参加する。」
クロナ「本当に参加してくれのか！？」
円堂「ああ、そんな卑怯な事許せない」

木野「でもクロナくん、円堂くんをスカウトしても他にあてはあるの？」
クロナ「あっ！円堂をスカウトするに夢中であてはない。」響木「だったら、フットボールフロンティアインターナショナルの日本代表候補に選ばれたお前らが出るべきだ！」
目金「響木監督、一斗もふくめますか？」
響木「精神にもろい奴は無理がある。後、一之瀬、土門、お前たちもふくめる。」
一之瀬、土門「「ハイ」」
鬼道「しかし後2人足りないな。」
？？？「僕たちも参加しよう。」
円堂「あっ！！アフロディに佐久間！！」
佐久間「雷門中近くでアフロディに合ったんだ。」
アフロディ「話しはすべて聞かせてもらった。僕たちで良ければ力になるよ。」
円堂「本当か～！？アフロディ。」
アフロディ「ああ、君に取って許せない事は僕に取って許せない事だ」
半田「円堂、俺たちも行くよ。」
円堂「えっ！？」
半田「俺たち、日本代表候補になれなかったけどみんなを見守る事なら出来る。なぁみんな！！」
影野、宍戸、少林寺「「「おお～」」」
メロディーヌ「だったらミーも行くよ。」神無月「それなら私も行くわ。」
テルリン「私も。」
円堂「ありがとう、みんな。」
クロナ「本当にいい仲間を持ったな、円堂。」
円堂「よ～し、メンバーがそろった！行こうぜ、ニュージーランドへ！」

仲間達「「「おお～」」」

次の日　円堂たちはニュージーランドに出発した。新たな戦いが幕を開ける。

第１５　新たな舞台　ニュージーランドへ（後書き）

次回予告　ニュージーランドで行われるカラーアニマルカップがいよいよ幕を開ける

第１６話　開幕　カラーアニマルカップ

イナズマイレブン

今日の格言

アフロディ「君に取って許せない事は僕に取って許せない事だ」

第１６話　開幕　カラーアニマルカップ

ニュージーランドの山奥
イナズマキャラバン
メロディーヌ「イナズマキャラバンって、ユニークな乗り物だね！」
神無月「うん、私も始めて乗るよ。」
風丸「しかし、こんな山奥に村があるのか！？」
クロナ「確かこの辺、あっ！古株さんすみません、止めて下さい。
あっ！見えた！みんな～、見えたぞ～！」
鬼道「ここが３２チームの村か！？」
クロナ「いや、ここは俺たちホワイトタイガーの合宿村だ。大会１ヶ月前になるとここに来るんだ。」
壁山「早く泊まる所に行くッス。」
クロナ「悪いけど、まずみんなに、大統師に会ってもらいたいんだ。」
豪炎寺「大統師？」
クロナ「ああ、さあ行こうぜ。」
合宿村
円堂「すげぇ～、奥にでっかい建物があるぞ！」
クロナ「あそこが、俺たちの練習グランドだ。少し目の前にポジションの間がある」
円堂「ポジションの間？」
フォワードの間
ＦＷＡ「はっ！」
ＦＷＢ「シュート！」
音無「たくさんいますよ！！」
染岡「こんなにいて、なぜこいつらを選ばなかったんだ。」
クロナ「ここにいるのは、みんな小学生みたいな物なんだ。だから出場できない。」

木野「そういえば、残ったのは、クロナくんとディフェンダーの2人って言ってたね」
クロナ「ああ、そいつらならディフェンダーの間に。」ディフェンダーの間
クロナ「ほらあそこ、あの2人は双子で黒い髪が兄のカインで茶色の髪が弟のケインだ。お～い！」
カイン「クロナ！帰ってきたのか！？」
ケイン「そいつらが助っ人か！？」
鬼道「ところで、ホワイトタイガーのキャプテンは誰なんだ？まさか怪我をしてしまったのか！？」
クロナ「あ～、言ってなかったな。キャプテンは・・・・・・俺なんだ。」
円堂たち「「「ええ～！！！」」」
円堂「クロナ、お前がキャプテンだったのか！？」
一之瀬「この2人の実力は？」
クロナ「試して見るかい？」
一之瀬「じゃあ俺が相手になるよ。」
カイン「フィールドの魔術師、一之瀬一哉か！」
一之瀬「いくぞ！！」ケイン「やるぜ！アニキ！」
カイン、ケイン「「デュアルストーム！！」」
一之瀬「うわっ！！」
円堂「すげぇ！」
鬼道「コンビネーション抜群だな。」
カイン「クロナ、大統師の所に行ったか？」
クロナ「あっ、すっかり忘れてた。今から行くから2人は先に寮に戻っててくれ。」
カイン、ケイン「「わかった。」」
大統師の塔
円堂「ここに大統師がいるのか！？」
クロナ「おう」

土門「ところで、その大統師ってどんな奴なんだ！？」
クロナ「大統師は俺の幼なじみなんだ」円堂「ええ～！！」
冬花「幼なじみなんですか！？」クロナ「ああ、前はホワイトタイガーの監督をやってくれたんだ！でも両親を亡くしてから大統師になったからな。」
夏未「両親と大統師の何の関係があるの？」
クロナ「それは、彼女が前の大統師の娘だからだよ。」
円堂「そうだったのか！？」
クロナ「中に入るぞ。みんな付いてきてくれ。」
大統師の部屋
クロナ「大統師、助っ人メンバーを集めてきたぜ。」
大統師「お疲れ様でした！始めまして、雷門中のみなさん、私が大統師のジャンヌ・フォウドです。」
木野「あの人がクロナくんの幼なじみ！」ジャンヌ「円堂くん、あなたの活躍は聞いています。」
円堂「あっ！ありがとう！」ジャンヌ「みなさんも、大会は明後日ですのでゆっくり休んで下さい。」
合宿村の寮
円堂「ここがホワイトタイガーの寮か！」
カイン「よう、遅かったな。」
ケイン「後は明日に備えて休んでくれ。」
次の日　グランド
クロナ「佐久間！」
カイン「いくぞ！ケイン」
ケイン「おし、通さないぜ。」
トン
佐久間「よっと」
トッ
「甘いぜ」
クロナ「佐久間やるな！カインとケインのコンビネーションを突破

するとは！」
鬼道「春菜はどこに行ったんだ。！？」
クロナ「音無は古株さんとユニフォームを取りに行った」
木野「みんな、休憩よ！」
クロナ「カイン、ケイン、どうだ！？円堂たちの動きは！？」
ケイン「そうだな、いい動きをしてる。」
音無「みなさ～ん！ユニフォームが届きましたよ！！」
円堂「本当か！？すげぇ～、これがホワイトタイガーのユニフォームか！かっこいいぜ。」
クロナ「ああ、白いトラのマークが有るだろ！それが白虎だ」
円堂「よ～し、気合いが入った！練習再会だ！」
クロナ「えっ！？今休憩したばかりだろ！」
円堂「ユニフォームを着てやる気出てきた！」
クロナ「お前たちのキャプテン、いつもこんな風なのか？」
染岡「ああ、これだから円堂といても退屈しないぜ。」
夕方　グランド
クロナ「練習終わりだ！明日に備えて休んでくれ。」
メロディーヌ「ん？ね～クロナくん。あのタイヤは！？」
クロナ「あのタイヤはダンプカーのタイヤだ。もう使わないけど。」
メロディーヌ「・・・あっ！！あのタイヤくれないかな？」
クロナ「いいけど、何に使うんだ！？」
メロディーヌ「後簡単に切れない縄ある？」
クロナ「縄だったら、物置にあるが。」
神無月「わかった！メロディーヌがやりたい事が！」
メロディーヌ「最後に丈夫な木はどこにあるの？」
クロナ「この木なら簡単に折れないよ。でも何に使うんだ？」
メロディーヌ「テルリン、守くんを呼んできて。」
テルリン「了解！」
メロディーヌ「この縄をここの枝に縛って、・・・出来た！」
クロナ「これ、いったい何に使うんだ？」

テルリン「メロディーヌ、円堂くんを呼んできたよ！」
円堂「なんだ、メロディーヌ！？…おっ！！これは、キーパーの練習のタイヤ！」
メロディーヌ「大きなタイヤを見つけたから、こうするのはどうかなって。」
円堂「サンキュー、メロディーヌ！早速使うぜ。そらっ！」
バシィィン
クロナ「なっ！なんて危ない特訓なんだ！？ほどほどにしろよ！ケガしたら元も子もないぞ。」
円堂「大丈夫！いつもやってるから。」
クロナ「いつも～！！？やっぱあいつ、変わってるな。」
大会当日
円堂「いよいよカラーアニマルカップが始まるんだな。」
クロナ「ああ、円堂、これを受け取ってくれ。」
円堂「これは、キャプテンマーク！」
クロナ「みんなの力を引き出せるお前がキャプテンをやってくれ。」
円堂「…悪いけど、受け取れない。」
クロナ「えっ！？」
円堂「ホワイトタイガーのキャプテンはお前だろ！自分のチームは自分が引っ張らなきゃダメだ！」
クロナ「…そうだよな、キャプテンの俺がこんなんじゃダメだよな。よし！目が覚めたみんな、大会に乗り込むぞ～！」
ホワイトタイガーのメンバー「「「おお～」」」」
いよいよカラーアニマルカップが始まった！この先にどんな試合が待ち受けいるのか！？

第１６話　開幕　カラーアニマルカップ（後書き）

次回予告　ついに大会が始まった　１回戦の相手はいきなり優勝候補
第１７話　赤き闘牛　レッドバッファロー
イナズマイレブン
今日の格言
円堂「自分のチームは自分が引っ張らなきゃダメだ！」

第17話　赤き闘牛　レッドバッファロー

トーナメント表
クロナ「1回戦の相手はレッドバッファローか！」
カイン「いきなり厄介な相手だな。」
円堂「そんなに強いのか！？」
クロナ「ああ、毎年の大会で優勝候補と言われてる！」
円堂「すげー！そんな強い相手と戦えるのか！？」
ケイン「普通、喜ぶ所じゃないぞ。」
豪炎寺「あいつは、相手が強ければ強いほど盛り上がる奴だ！」
？？？「俺たちと戦えるのがそんなに嬉しいのかい？」
クロナ「レジー！」
風丸「誰だ？あいつは。」
クロナ「あいつはレジー・ハミルトン、1回戦の相手、レッドバッファローのキャプテンだ！」
円堂「お前がレッドバッファローのキャプテンか！俺、日本から来た円堂守、よろしくな。」
レジー「円堂守？」
ゾロ「聞いた事ある、日本代表、イナズマジャパンのキャプテンだって。」
レジー「ああ、まぐれで世界一になったチームのキャプテンか！」
染岡「なんだと！俺たちが優勝出来たのは、まぐれだと言うのか！」
レジー「しかし、ホワイトタイガーも落ちたな、日本を助っ人にするとは！まあ、せいぜい頑張りな、まっムリだろ～けど。アハハハハ！」
染岡「チッ！」
テルリン「やな感じ！」
クロナ「言わせておけ、さあ中に入るぞ！」
王将「さあ始まりました！ニュージーランド、カラーアニマルカッ

プが開催されます。」
木野「あの人、なぜここに!?」
クロナ「王将さんを知ってるのか?」
松野「日本のフットボールフロンティアで実況をしてるんだよ。」
王将「Ａグループの１回戦、ホワイトタイガー対レッドバッファローの試合が始まります。」

ホワイトタイガー

		背番号
ＦＷ	豪炎寺	１０
	クロナ	９
	染岡	１１
ＭＦ	松野	６
	鬼道	１４
	一之瀬	７
ＤＦ	風丸	２
	カイン	３
	ケイン	４
	土門	１３
ＧＫ	円堂	１

レッドバッファロー

ＦＷ	レジー	１１
	ペデーニョ	９
ＭＦ	ボム	１０
	ロド	８
	キーン	７

マーキー　6
DF
ゴードン　5
カーター　4
マック　3
フォード　2
GK
ゾロ　1
ピィィィィ
王将「ホワイトタイガーのキックオフで試合が始まった！」
松野「クロナ！」
クロナ「いくぞ！ライトニングボルテック！」
ゾロ「バッファローホーン！」
王将「止めた！キーパーゾロ、クロナのシュートを止めました。」
ゾロ「ボム」
鬼道「風丸、マックス！」
風丸、松野「「おお～」」
ボム「牛追い突進！」
風丸、松野「「ぐぁ！」」
ボム「レジー！」
レジー「バイソンキャノン！」
円堂「爆裂パンチ！　ぐぁぁ！」
王将「ゴール！レッドバッファロー1点先制だ！」
円堂「すげー、こんなシュート撃てるなんて！やっぱり世界はまだまだすごい奴がたくさんいるんだな！」
ロド「点取られたのに何喜んでんだ？」
レジー「点取られたからやけになったんだよ。」
円堂「クロナ！試合はまだまだこれからだ！いっくぞ！」
王将「レッドバッファローの攻撃はまだ続きます！ペデーニョが上がって行くぞぉ！」

ペデーニョ「ニードルショット！」
カイン、ケイン「「羅生門」」
王将「カインとケイン、ペデーニョのシュートを止めた！ボールは風丸に渡った！」
風丸「真風神の舞！」
マーキー「うわぁ！」
風丸「染岡！」
染岡「打ち砕け、ドラゴンスレイヤーＶ３」
ゾロ「バッファローホーン」
王将「ゾロ、ドラゴンスレイヤーを止めた！」
ゾロ「ゴードン！」
松野「クイックドロウＶ２」
ゴードン「うっ！なに！？」
松野「豪炎寺！」
豪炎寺「真爆熱スクリュー！」
ゾロ「バッファローホーン！」
木野「なんて力なの！」
ピィピィィ
王将「ここで前半終了だぁ！得点は１対０でレッドバッファローのリード、ホワイトタイガー追いつけるのか！？」
クロナ「くそ、ここまでか！」
円堂「クロナ！まだ終わった訳じゃない！諦めたらおしまいだ、何のために俺たちを助っ人にしたんだ？」
クロナ「あぁ、そうだな、これから後半が始まるのに諦めかけてたぜ！よし、後半で逆転だ！」
ホワイトタイガーのメンバー「「「おぉ～」」」
ピィィ
王将「後半が始まりました！ホワイトタイガーが逆転するのか！？レッドバッファローが逃げ切れるのか！？」
円堂「さぁみんな、諦めずに戦うぞぉ！」

クロナ「ライトニングボルテック」
ゾロ「バッファローホーン」
松野「クロスドライブ改」
カーター「ザ・コンクリート」
神無月「キーパーだげじゃなくディフェンダーも固いわ！」
ゾロ「まぐれで世界一になった奴らに俺らの技破れる訳ないだろ！」
染岡「まぐれじゃね～、仲間と友に戦ったから世界一になったんだ！クロナやジャンヌの期待に応えるぜ！」
クロナ「染岡」
王将「さぁ、ここでロスタイムに入った！このまま終わってしまうのか！？」
クロナ「染岡、決めろ！」
染岡「うぉぉぉ！いけ～」ゾロ「バッファローホーン！ぐぅ！」
パリーン
ゾロ「ぐわぁ！」
王将「ゴール！ホワイトタイガー、ついに同点！染岡の新技が決まった！」
レジー「うそだろ！」
目金「竜の爪がゴールを襲う、ドラゴンキラーと名付けましょう」
レジー「引き離してやる、バイソンキャノン！」
円堂「もう点はやらないぜ！爆裂パンチ改」
バシン
レジー「なに！？進化しただと！？」
王将「残り時間は、後わずか！先に点を取るのはどちらのチームなのか？」
染岡「いくぜ！」
ゾロ「そいつを止めろ！」
染岡「今だ！いけクロナ！」
クロナ「あぁ、みんなの頑張り無駄にしない、ライトニングボルテック改」

ゾロ「バッファローホーン！」
パリーン
ゾロ「あっ！」
王将「決まった！ホワイトタイガー、ついに逆転！」
ピィピィピィィ
王将「試合終了！ホワイトタイガー、１回戦突破しました！」
円堂「やったぞぉ！みんな！」
レジー「負けた！」
メロディーヌ「やった～」
円堂「レジー？」
レジー「負けたよ、世界一になったのは、まぐれじゃなかったみたいだ。」
円堂「その事はもういいよ、それより楽しかったぜ！また、サッカーやろうな！」
レジー「・・・あぁ、またやろう。」
メロディーヌ「守くん、また新しい友達が出来たみたいだね！」
神無月「そうだね。」
クロナ「円堂守、やっぱり面白い奴。」

第17話　赤き闘牛　レッドバッファロー（後書き）

次回予告
次回　外道と呼ばれしチーム、ブラックドラゴンが恐ろしい力を見せつけてきた！こいつらに勝てるのか！？

第18話　ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピックイナズマイレブン
今日の格言
染岡「仲間と友に戦ったから世界一になったんだ！」

第18話　ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピック

レッドバッファローに勝利し2回戦に駒を進めたホワイトタイガー
神無月「お疲れ様、円堂くん！」
メロディーヌ「すごい試合だったね！染岡くんもすごいシュートだったよ。」
染岡「当然だぜ！
豪炎寺、このままエースストライカーの座は、俺がいただくぜ！」
豪炎寺「ふっ、確かにお前は凄い。だが、俺にもプライドがあるからな。エースストライカーの座は譲れないな」
円堂「確か次はBグループの1回戦だったな。」
クロナ「あぁ、あの外道のブラックドラゴンが出る試合だ。」
???「外道で悪かったな。」
クロナ「ブラックドラゴン！！」
鬼道「あいつらがブラックドラゴン！」
???「よぉ、元気そうだな、クロナ！」
クロナ「久しぶりだな！スティーブ！」
スティーブ「今年のお前たちは不幸だったな。」
クロナ「なんだと！？」
リコ「13人が事故で出場出来なかったのが最悪だったな」
カイン「お前らがやったくせに！」
ココル「オイオイ、変なん言いがかりはよしてくれよ。
俺たちがやったっつう証拠でもあれば謝ってやるよ。」
カイン「くっ！」
クロナ「スティーブ、この借りは試合で返すからな！」
スティーブ「いいだろう、ただし、お前たちがその日本人と決勝まで来れたらの話だがな。
アッハハハハハ」
テルリン「レッドバッファローのキャプテンよりやな感じ！」

円堂「あいつがブラックドラゴンのキャプテンか！？」
クロナ「あぁ、あいつがキャプテンのスティーブ・キャプラーだ。」
佐久間「あいつの実力は？」
ケイン「スティーブの実力は確かだ。前の大会で1年ながらハットトリックを決めまくっていたからな。」
円堂「そんなに凄いなら、見てみたいぜ！」
クロナ「よし、この後あいつの試合だし1回見に行くか！」
王将「えぇ、Bグループ1回戦、ブラックドラゴン対イエローイーグルの試合を行います！」
ピィィィィ
ゴメス「オラァ」
イーグルA「な！」
ドガッ
イーグルA「グアッ」
ログ「そらよパース」
バキッ
イーグルB「ヌアッ」
木野「酷い・・・・・」
スティーブ「そら」
ギュルルルル
イーグルC「この程度のシュート、止めてやる」
ブゥオォォォ
イーグルC「な、なんて、パワーだ。
ウワァッ」
ピィィ
王将「決まった！ブラックドラゴンキャプテンスティーブ。試合開始一分で先制ゴールだぁ！」
円堂「なんてやつらだ！平気で人を倒してまで。」
クロナ「これが奴らのやり方だ。選手を倒し点を取るのがあいつのサッカーだ。」

そして試合が終わり円堂たちは寮に戻った！
円堂「クロナ、あいつらと戦うために練習やろう。」
クロナ「あぁ、やろう」
ホワイトタイガーはブラックドラゴンや次の試合のために練習に励んだ。
次の日
音無「次の相手はピンクピックになりました！」
クロナ「ピンクピックかぁ。」
ケイン「また厄介な相手がきたよ。」
鬼道「まさかそいつらも！」
カイン「そのまさかだ。そいつらも優勝候補だ。」
クロナ「ピンクピックのメンバーは全員がゲームメイカーだからな。」
風丸「全員がゲームメイカー！？」
クロナ「特にキャプテンのリキット・グンドは、フィールドの全てを支配するようなゲームメイクをする。」
佐久間「鬼道並みのゲームメイクをするのか？」
クロナ「恐らくは鬼道以上かもしれない」
壁山「そんなにすごいんッスか！？」
クロナ「鬼道が１１人いると考えた方がいいだろう」
壁山「なんか考えたら不気味ッス」
鬼道以外『確かに』
カイン「明日の試合は染岡とクロナを警戒するだろう。」
円堂「そうか！染岡は昨日点を取ったんだ。」
鬼道「だったらいい方法がある！」
クロナ「何かあるのか！？」
試合の日
王将「カラーアニマルカップ、Ａグループ２回戦第１試合
ホワイトタイガー対ピンクピックの試合が始まります。」
円堂「よし、今日も勝つぞぉ」

ケイン「あっ！ブラックドラゴン！」
クロナ「なに！？」
豪炎寺「俺たちを偵察しに来たのか？」
風丸「誰だ？スティーブと話してるのは？」
クロナ「あの人はブラックドラゴンの監督、ゲオン・ニコルソンだ。」
円堂「あれがブラックドラゴンの監督。」
王将「さぁ間も無く試合が始まります！」
バックラ「オイオイ、リキット見ろよ！」
リキット「レッドバッファロー戦で1点取ったピンクの坊主頭が控えだと！？」
サムソン「しかも、前の試合に出なかった奴を出して来たぜ！」

ホワイトタイガー
FW
豪炎寺　10
クロナ　9
シャドウ　12
MF
佐久間　16
鬼道　14
アフロディ8
DF
壁山　15
カイン　3
ケイン　4
栗松　5
GK
円堂　1

ピンクピック

FW
オマリー　11
ピドロ　10
ダンク　9
MF
リキット　8
ユング　7
ハロッズ　6
DF
バックラ　5
フランキー4
ブライト　3
エスト　2
GK
サムソン　1
ピィィィ

王将「ホワイトタイガー対ピンクピックの試合が今キックオフ！」
リキット「エスト、14番に2テンポダウンでボールを奪え！」
エスト「ハッ！」
鬼道「なに！？」
王将「鬼道ボールを奪われた！」
リキット「2、5、8、11」
バシッ、バシッ、バシッ
鬼道「連携が背番号の順番で通ってるだと！？」
オマリー「いくぜ！タービュランス！」
円堂「いかりのてっついV2！グアッ！」
王将「ゴール！オマリーのシュートでピンクピック、1点先制！」
クロナ「やられたか！だがまだ始まったばかりだ！」
王将「1点を追うホワイトタイガー！同点になるのか！？」
佐久間「いけ～、豪炎寺！」

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」
サムソン「大風車！」
王将「サムソン、豪炎寺のシュートを弾き返した！」
サムソン「イナズマジャパンのエースストライカーのシュートがコレか・・・・・余程世界のレベルが低いんだなぁ」
リキット「2テンポアップ！レフトゾーンからカウンター！」
鬼道「行かせるな！」
壁山「行かせないッス！ザ・マウンテン！」
ピドロ「グアッ！」
壁山「栗松！」
栗松「まぼろしドリブル改！」
王将「ホワイトタイガー、壁山が守り、栗松が突破し反撃となるか！？」
栗松「シャドウさん！」
闇野「ナグナロク！」
サムソン「大風車！」
闇野「くそ～！」
ピィピィィィ
王将「前半終了だ！」
鬼道「リキットのゲームメイクを破るには少し時間かかりそうだ。」
円堂「大丈夫だ！きっと突破口は有る、」
ピィィィィ
王将「後半戦が始まりました！」
リキット「ユング、上がれ！」
クロナ「カイン！」
カイン「ホーントレイン！」
ユング「うわぁ！」
円堂「ケインと一緒だけじゃなかったのか！？」
カイン「アフロディ！」
リキット「オマリー、ハロッズ！」

アフロディ「真ヘブンズタイム！」
オマリー、ハロッズ「「うわぁ！」」
リキット「くそ～突破されたか。」
アフロディ「シャドウくん」
闇野「次こそは決める！うぉぉ」
サムソン「大風車！」
バキッ
サムソン「グアッ！」
王将「ゴール！闇野の新技が決まった！」
目金「一之瀬くんのペガサスショットみたいな勢いのケルベロス、ケルベロスバスターと名ずけます。」
リキット「くそ～なめるな、オマリー、点を取れ！」
オマリー「タービュランス！」
円堂「絶対止める！いかりのてっついＶ３」
オマリー「なに！？」
リキット「くそ～、だったら俺が、ブレイジングドライブ！」
王将「これは、かなり強いシュートが出た～」
鬼道「円堂！！」
円堂「任せろ！ゴッドキャッチＧ３」
しゅぅぅ
リキット「なんだと！？」
円堂「いけ～みんな！」
佐久間「豪炎寺！」
王将「さぁ次の１点が勝敗を決めることになるぞ！」
豪炎寺「（今の俺のシュートじゃ通用しない、シャドウに渡せば。）」
染岡「打て～豪炎寺！そんな弱気になりやがって！テメーは俺たち雷門のエースストライカーなんだろ！」
豪炎寺「染岡！？」
円堂「そうだ！いけ～、豪炎寺！」

豪炎寺「円堂！・・・・・なに弱気になってたんだ俺は？みんなの声が聞こえるかぎり俺は強くなる。はぁぁぁ。」
サムソン「大風車！」
バキッ
サムソン「ああ！！」
王将「ゴール！ホワイトタイガー、ついに逆転！」
目金「名ずけてバーニングサイクロン！」
ピィピィピィィィ
王将「試合終了！ホワイトタイガーの逆転勝利だ～！」
リキット「負けたよ、おめでとう！クロナ。」
クロナ「リキット！ありがとう！」
円堂「やったな！シャドウ、豪炎寺！」
豪炎寺「あぁ、みんなのおかげだ！染岡、エースストライカーは俺でいいのか！？」
染岡「お前があんな弱気じゃエースストライカーの座をあらそうライバルがいなくなっちまうから言っただけだ！」
豪炎寺「あぁ、望むところだ。」
スティーブ「ゲオン監督、ホワイトタイガーが勝ちました」
ゲオン「別にどうでもいい、今年の優勝はブラックドラゴンと決まってるからな」
スティーブ「はい」
ゲオン「（・・・・・今の内にはしゃいでいろ我らブラックドラゴンの恐怖はここからだ！フッフッフッ！）」

第１８話　ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピック（後書き）

次回予告　次の相手はカウンター技を得意とするグリーンリザード！
俺たちはこのカウンターを塞ぎきれるのか！？

次回　第１９話　反撃の嵐！グリーンリザード

イナズマイレブン

今日の格言

豪炎寺「みんなの声が聞こえるかぎり俺は強くなる」

第１９話　反撃の嵐！グリーンリザード

ホワイトタイガー、合宿寮
木野「明日の相手はグリーンリザードに決まりました！」
ケイン「また優勝候補か！」
カイン「しかもよりによってブラックドラゴンの２番目に厄介な相手だぜ！」
円堂「でも厄介でも優勝候補でも、俺たちは勝ち続けるだけだ！」
土門「そのグリーンリザードはどんなチームなんだ？」
クロナ「グリーンリザードは、別名カウンターリザードと呼ばれている！ディフェンス技は全てシュート技でブロックしてカウンターを狙っているんだ！」
夏未「確かに厄介な相手だわ。」
クロナ「でも、円堂の言うとおり、絶対勝つぞ！」
ホワイトタイガーのメンバー『おお～』
次の日の試合
王将「お待たせした！カラーアニマルカップＡグループ３回戦第１試合
ホワイトタイガー対グリーンリザードの試合を行います。」
カロ「日本のゴールキーパー、円堂守くんですね？」
円堂「そうだ！」
カロ「僕はグリーンリザードのキャプテン、カロ・タリノです。よろしく。」
円堂「あぁ、よろしくな！お互い全力で戦おうぜ！」
カロ「えぇ（全力で戦おうですか、しかし、勝つのは僕たちグリーンリザードですけどね。）」
ホワイトタイガー
ＦＷ
豪炎寺　１０

クロナ　9
佐久間　16
MF
風丸　2
鬼道　14
シャドウ12
DF
土門　13
カイン　3
ケイン　4
栗松　5
GK
円堂　1
グリーンリザード
FW
カロ　11
リンク　10
リマ　9
MF
ジム　8
カルロス7
ガブレイユ6
ウィリアム5
DF
パウエル　4
スレッジ　3
ネルソン　2
GK
シュッミット1
シュッミット「ホワイトタイガーの奴ら前の試合でやってたポジシ

ョンを変えてきたみたいだ！」
カロ「ポジションを変えたくらいでは、どうって事ありません。では、僕たちのカウンターを喰らわせるとしましょう」
ピィィィ
王将「さぁ、ホワイトタイガー対グリーンリザードの試合が今始まりました！」
円堂「いけ～、豪炎寺！」
豪炎寺「バーニングサイクロン！」
王将「出た～、豪炎寺の大技！バーニングサイクロン！」
音無「これで1点先制です！」
シュッミット「やれやれ、ディメンションシールド！」
王将「グリーンリザードキーパーシュッミット！ディメンションシールドで豪炎寺のバーニングサイクロンを弾き飛ばしたぁ～！！」
カロ「ナイスです！シュッミット！では、行きます！」
王将「おーっとグリーンリザードの必殺タクティクスカウンターウェーブが始まったぁ～！」
円堂「カウンターウェーブ！？」
王将「ボールはカロに渡った！」
カロ「行きます！円堂くん！ジャングルバスター！」
円堂「真イジゲン・ザ・ハンド！」
パリーン
王将「入った～！グリーンリザード、先制！」
円堂「やるな！だが次は止めてみせる！」
クロナ「次は頼むぞ、円堂！」
佐久間「鬼道、あの技を使うぞ！」
鬼道「あぁ、いよいよ特訓の成果を見せるときだ！」
王将「ホワイトタイガーの反撃だぁ～！」
風丸「クロナ！」
クロナ「ライトニングボルテック改！」
パウエル「そんなシュート、俺のシュート技で弾き返してやるよ、

大車輪！」
冬花「クロナくんのシュートを弾き返した！」
カルロス「よし！」
佐久間「うぉぉ！」
パシッ
カルロス「なに！？」
佐久間「鬼道、いくぞ！」
鬼道「おぉ！」
佐久間、鬼道「「エアロスイング」」
シュッミット「ディメンションシールド！」
パリーン
シュッミット「なに！？ぐぉ！」
王将「追いついた～、佐久間と鬼道の連携技が決まって同点に追いついた！」
メロディーヌ「ワンダフォー、すごい技だったね。」
半田「佐久間たち、いつの間にあんな技を！？」
カロ「さすがイナズマジャパンの選手、コンビネーションも抜群ですね！」
ピィピィピィィィ
王将「前半終了！同点で後半に向かいます。」
カロ「では、彼等に本当のカウンターの嵐をお見せしましょう。」
王将「さぁ、後半戦が始まります！そしてグリーンリザードは選手交代がでました！ＦＷリマに代わりニール、ＭＦガブレイユに代わりポーターズ、ＤＦスレッジに代わりバザザを投入してきました！」
鬼道「ここで選手を入れ替えてきたか！」
円堂「あぁ！」
クロナ「・・・・・いよいよカウンターの台風が始まるか」
円堂「え！？」
クロナ「あの三人があのチームの三本柱だ
ますます厄介になってきたな」

ピィィィィ
王将「後半が始まりました！」
佐久間「鬼道！」佐久間、鬼道『エアロスイング』
カロ「フッ、ニール！」
カロ、ニール『ベルホーリー！』
佐久間「なに！？」
王将「エアロスイングを打ち返した！」
円堂「ゴッドキャッチG3！うぉぉ、ぐぁ！」
ガン
円堂「あっ！！」
パシッ
王将「ゴールポストに当たり円堂が受け止めた！」
カロ「運がいいですね。」
王将「闇野が攻め上がる！」
闇野「ケルベロスバスター！」
バザザ「クルクルヘッド！」
クロナ「ライトニングボルテック改！」
ポーターズ「キックジャブ！」
影野「さすがカウンターリザード、シュート技で跳ね返してくるな！」
テルリン「全く隙が無い！」
神無月「でも、それでも円堂くんたちはあきらめないよ。」
そして試合は進みホワイトタイガーはグリーンリザードのカウンターに苦戦するのだった！
カロ「そろそろ決めますか！ジャングルバスター！」
土門「俺を忘れるな！ボルケイノカットV3！」
カロ「なに！？」
土門「風丸！」
風丸「おう！俺も決めてやる！トルネードブロー！」
シュッミット「ディメンションシールド！」

パリーン
シュッミット「うぁ！」
王将「決まった！風丸の新技でホワイトタイガー勝ち越した！残り時間はあと僅か、このまま逃げ切れるのか！？」
カロ「クッ、まだです！まだ終わってません！ニール！」
カロ、ニール『ベルホーリー！」
円堂「うぉぉぉ！」
ピカー
バーアン
円堂「えっ！？」
カロ「なに！？」
ピィピィピィィィ
王将「試合終了！ホワイトタイガー、準決勝進出！」
カロ「負けた！フッ、負けましたよ。」
クロナ「あぁ、どうしたんだ円堂！」
円堂「さっきのアレは一体？」
カロ「もしかしたら円堂くんの新たな技かも知れません。」
円堂「俺の新たな技？」
カロ「そうです！今のは失敗しても、小さな力大きな力なる！次の試合も頑張って下さい。」
円堂「ありがとう！カロ。よし、次の試合も勝つぞぉ。」
クロナたち『オォ～』

第１９話　反撃の嵐！グリーンリザード（後書き）

次回予告　大会もいよいよ準決勝！次の相手は陸に上がった鮫！
第２０話　陸鮫の牙　ブルーシャーク
イナズマイレブン
今日の格言
カロ「小さな力は大きな力になる」

第２０話　陸鮫の牙　ブルーシャーク

王将「さぁ、大会もついに準決勝！明日に行われる試合は、ブラックドラゴン対パープルコンドル
２日後にホワイトタイガー対ブルーシャークの試合が行われます！
果たして決勝に行くのはどのチームなのか！」
練習グランド
鬼道「染岡！」
染岡「ドラゴンキラー！」
円堂「うぉぉぉ！」
ピカー
円堂「ぐぁ！」
風丸「また失敗か。」
円堂「大丈夫、次は完成させてみせる！」
カイン「すごい自信だ。」
ケイン「試合中に技を進化させた奴だ、絶対完成させるにちがいない。」
音無「みなさん、テレビを見て下さい！」
クロナ「どうした？」
王将「試合終了！ブラックドラゴン、決勝進出！」
クロナ「やはりブラックドラゴンが来たか。」
闇野「明日の試合の相手はブルーシャークだったな！」
クロナ「あぁ、次の相手も優勝候補だ。」
宍戸「全チームが優勝候補なんじゃないですか！？」
円堂「そのブルーシャークはどんなチームなんだ？」
クロナ「あいつらは地を極めし者だ。」
カイン「中でもＤＦでキャプテンのボルグはニュージーランド１のＤＦだからな！」
ケイン「俺たち兄弟より堅いディフェンスは厄介だ。」

鬼道「クロナ、明日の作戦はこれで行こう。」
次の日
王将「お待たせしました！カラーアニマルカップ準決勝！
ホワイトタイガー対ブルーシャークの試合を行います！」
ボルグ「久しぶりだな、クロナ」
クロナ「また会ったな、ボルグ！」
ボルグ「悪いが決勝進出は俺たちがいただくぜ！」
ホワイトタイガー
ＦＷ
豪炎寺　１０
クロナ　９
染岡　１１
ＭＦ
マックス６
一之瀬　７
鬼道　１４
アフロディ８
ＤＦ
カイン　３
壁山　１５
ケイン　４
ＧＫ
円堂　１
ブルーシャーク
ＦＷ
シートン　１１
ゴールズ　１０
ＭＦ
ガルバ　９
オーモス　８

パーシー　7
ライズリー6
DF
メイジ　　5
バックス　4
サタン　3
ローム　　2
GK
ベイブ　　1
王将「ホワイトタイガー、攻撃中心のフォーメーションに切り替えてきた！」
ボルグ「攻撃中心か、特に日本人の助っ人に要注意だぜ！」
ピィィィ
王将「今キックオフ！どんな試合をするのか！」
一之瀬「鬼道！」
鬼道、一之瀬『真ツインブースト！』
ベイブ「ソーシャークニードル！」
ズシッ
鬼道「なに！？」
ベイブ「いけ！」
パーシー「行くぜ！ダイビング！」
松野「消えた！」
パーシー「フッ、ゴールズ！」
ゴールズ「ハンマーヘッド！」
円堂「うぉぉぉ！いけ～」
ピカー
円堂「うぁ！」
王将「入った！ブルーシャーク先制！」
クロナ「また失敗か！」
染岡「だが、取られたら取り返すだけだ！」

ピィィィ
染岡「いくぜ！ドラゴンキラー！」
王将「出た～！染岡のドラゴンキラー！」
ベイブ「ソーシャークニードル！」
ズシッ
王将「ベイブまた止めた！そしてボールはゴールズへ！」
ゴールズ「これで追加点だぜ！ハンマーヘッド！」
円堂「今度こそ、うぉぉぉ！」
ピカー
バァーン
王将「ホワイトタイガー間一髪！ラインを越えた！」
ケイン「あぶね～！」
カイン「どうした、円堂？」
円堂「・・・・・（手を大きく開いたら前よりパワーが上がった！？）」
王将「ブルーシャークのスローイングで試合再開だぁ！」
カイン、ケイン「デュアルストームＶ２！」
ガルバ「うぉ！」
カイン「マックス！」
松野「よ～し！」
ボルグ「行かせん、シャークリング」
松野「うぉ～！」
ボルグ「バックス」
バックス「よし！」
アフロディ「させない！」
バックス、ボルグ『なに！？』
アフロディ「いくよ！ゴッドブレイクＧ５」
ベイブ「ソーシャークニードル！」
パーリン
王将「ゴール！アフロディのゴッドブレイクが決まった！これでホ

ワイトタイガー同点だぁ！」
鬼道「アフロディ、ゴッドブレイクをパワーアップさせいたのか！」
ピィピィィ
王将「ここで前半終了だぁ！」
ボルグ「（くっ、後半でお返ししてやる）」
王将「まもなく後半が始まります。そしてブルーシャークは選手を入れ替えて来ました！ＦＷシートンに代わってヴェルディをＤＦに投入してきました！そしてなんと！！ＤＦのボルグがＦＷに入ります！」
円堂「ボルグはＦＷも出来るのか！？」
クロナ「いや、あいつずっとＤＦのはず！」
王将「えぇ、過去のデータによると今までボルグ選手はＦＷの経験はありません、一体どんなシュートを撃つのか！？」
ピィィィ
ボルグ「行くぞ、必殺タクティクス！シャークロード！」
王将「なんとこれは！まるでサメが獲物を狙っているようだ！どんどんＤＦラインを突破していく！」
ボルグ「いくぜ！シャークバイト！」
円堂「ゴッドキャッチＧ３、ぐぁ！」
王将「なんてシュートだぁ！ボルグのシュートで勝ち越した！」
円堂「すごいシュートだ！ゴッドキャッチを破るとはな、でも次は止めてやるぜ！」
王将「試合再開し１点を追い掛けるホワイトタイガー！」
木野「ＦＷはみんなマークされてる。」
松野「こっちだ！」
鬼道「マックス！」
松野「僕も決めるよ、ホーリーランス！」
ベイブ「ソーシャークニードル！」
パリーン
ベイブ「あぁ！」

王将「松野の新技が決まった！ホワイトタイガー同点に追い付いた！」
松野「よし！」
目金「聖なる槍でまさにホーリーランス！」
王将「さぁ！すごい試合になった！お互い譲れず時間が過ぎていく！」
ボルグ「必殺タクティクス！シャークロード！」
鬼道「・・・・・はっ！そうか！壁山！」
ボルグ「もらったぜ！」
壁山「ザ・マウンテン！」
ボルグ「ぐぁ！なに！？」
ピィィ
王将「なんと！！シャークロードを破った！！」
円堂「鬼道、なんでわかったんだ？」
鬼道「ナイツオブクィーンの無敵の槍だ！解除した時がチャンスだ！」
クロナ「それを見抜くとは！」
ボルグ「くっ、まさか俺たちの必殺タクティクスが破れるとはな！」
王将「さぁ！ブルーシャーク、ガルバのスローイングで試合再開！」
ボルグ「決めてやる！決勝に行くのは俺たちだ！シャークバイト！」
円堂「止める！やっとコツがわかったぜ！はぁぁぁ！」
バァーン
ボルグ「なに！？シャークバイトを止めてだと！！？」
目金「でっかく開いた手でシュートを地面に叩きつける
その名もブレイク・ザ・ハンド！」
メロディーヌ「守くんの新しい力がついに来た！」
円堂「いけ！」
王将「豪炎寺に渡った！ホワイトタイガー、これがラストチャンスだ！」
豪炎寺「染岡！バーニングサイクロン！」

王将「なんと！！これは豪炎寺のシュートミスか！？いや、これは染岡の連携パスだぁ！」
染岡「ドラゴンキラー！」
ベイブ「ソーシャークニードル！」
パリーン
ベイブ「あぁぁ！」
王将「入った！豪炎寺、染岡の連携技が決まった！」
目金「ドラゴントルネードの逆番でバーニングキラー！」
ピィピィピィィィィ
王将「ここで試合終了のホイッスル！ホワイトタイガー、決勝進出しました！」
ボルグ「クロナ、円堂、負けたよ。お前らなら優勝出来る！頑張れよ。」
クロナ「ありがとうボルグ！絶対優勝してみせる！」
王将「さぁ明後日にホワイトタイガー対ブラックドラゴンが行われます！優勝するのはどのチームなのか！？」
試合の前夜
円堂「明日の試合に備えて寝るか、ん？あれは、クロナにジャンヌ？なにしてんだ？」
ケイン「あの２人の関係はただの幼なじみじゃないんだ！」
円堂「カイン、ケイン！」
カイン「お前も聞いたろう、ジャンヌは大統師の娘だって！」
円堂「あぁ、両親が亡くなって大統師になったて聞いたぜ。」
カイン「クロナとジャンヌの両親はとても仲良くあの２人を許嫁にしてたんだ！」
円堂「許嫁！？」
ケイン「そうなんだ、でもクロナとジャンヌは嬉しそうに喜んでた、あの２人はお互い愛し合っていたんだ。しかし今年ジャンヌが大統師になって俺たちが負けたら。」
円堂「ブラックドラゴンが優勝したらサッカーが酷くなるだけじゃ

なく2人は永遠に結ばれないって事か！だが俺はブラックドラゴンのやり方は許せない！明日絶対優勝して楽しいサッカーを守るんだ！」
ケイン「あぁ、ケガをしたみんなのために絶対負けられないぜ！」
カイン「おう、絶対優勝しようぜ。」
次の日
王将「さぁついにこの日が来た！カラーアニマルカップ決勝戦！！ホワイトタイガー対ブラックドラゴンの決戦が始まります！果たして優勝するのはどのチームなのか！？」
ゲオン「（ついにこの私が大統師になる時が来た！フッフッフッ！）」

第２０話　陸鮫の牙　ブルーシャーク（後書き）

次回予告　カラーアニマルカップもついに決戦、ブラックドラゴンの力がホワイトタイガーに襲いかかる！
第２１話　邪悪なる黒き竜　ブラックドラゴン！
イナズマイレブン
今日の格言
ケイン「ケガをしたみんなのために絶対負けられない。」

第２１話　邪悪なる黒き竜　ブラックドラゴン

ボルグ「いよいよか、円堂にとって少し大きな舞台だ。」
レジー「お前も来たのか！」
ボルグ「レジー、リキット、カロ、！お前らも来たか！」
カロ「僕達も円堂くんの事が気になってきました！」
リキット「ホワイトタイガーがブラックドラゴンに勝てるかどうかだな。」
円堂「ついに決勝戦だな、クロナ！」
クロナ「あぁ、ブラックドラゴンは今までの相手とは違う！みんな、気をつけろ！」
スティーブ「監督、指示を。」
ゲオン「・・・潰せ。」
スティーブ「はい！」

ホワイトタイガー
ＦＷ
豪炎寺　１０
クロナ　９
染岡　１１
ＭＦ
アフロディ８
鬼道　１４
佐久間　１６
ＤＦ
風丸　２
カイン　３
ケイン　４
栗松　５
ＧＫ

円堂　１
ブラックドラゴン
ＦＷ
スティーブ　１０
ＭＦ
リコ　１１
ゴメス　８
ニド　９
マット　７
ログ６
ＤＦ
ココル　５
ロラン　４
ネルソン３
シスラー　２
ＧＫ
ガズリー１
ピィィィィィ
王将「さぁ、運命の決戦が今キックオフ！この試合に勝つのはどちらなのか！？」
リコ「スティーブ！」
スティーブ「いくぜ！竜の顎は全てを砕く、リュウノアギト！」
円堂「ブレイク・ザ・ハンド！うぁ！」
王将「ゴール！ブラックドラゴン、スティーブのシュートで１点先制！」
夏未「円堂くんのブレイク・ザ・ハンドが破られた！？」
土門「なんてパワーだ！」
円堂「くそ、（んっ！？手を握りしめたらなんか力が）」
王将「さぁ、試合再開だぁ！」
スティーブ「追加点だ！」

カイン、ケイン『デュアルストームＶ３』
スティーブ「ぐぁ！なに！？」
ケイン「豪炎寺！」
豪炎寺「バーニングサイクロン！」
神無月「出たわ！バーニングサイクロン！」
テルリン「これで同点だわ！」
ガズリー「リュウノバイト！」
ガブッ
王将「止めた！」
スティーブ「んっ！？監督の指示！」
ゲオン「ＤＦの２人をやれ。」
スティーブ「・・・・・はい！」
スティーブ「お前ら、やれ。」
王将「マットが上がっていく！」
カイン「任せろ！」
マット「ニド！」
マット、ニド『じごくぐるま！』
カイン「うっ！！うわぁぁ！」
ケイン「アニキ！」
マット「スティーブ！」
ケイン「あっ！」
スティーブ「リュウノアギト！」
ケイン「ぐぁぁぁ！」
円堂「ケイン！うわぁ！」
王将「ゴール！スティーブのシュートがケインごとゴールに入った！ブラックドラゴン、追加点だぁ！」
円堂「イテテ！」
ケイン「うぅぅ！」
カイン「ケイン！うぁ！」
王将「なんと！カイン、ケイン、負傷か！？」

円堂「どうだ？」
木野「これ以上出場はムリよ。」
クロナ「くそっ、ブラックドラゴンめ。」
円堂「壁山、土門、行くぞ！」
土門「おう！」
壁山「はいッス！」
王将「ＤＦカイン、ケインに代わり壁山、土門が入ります！」
ゲオン「フッ」
鬼道「アフロディ！」
ココル「ドラゴンスイング！」
アフロディ「うぁ！」
グキッ
アフロディ「うっ！」
佐久間「鬼道！」
王将「出るか！？エアロスイング！」
ロラン「メテオシールド！」
佐久間「ぐぁ！」
ピィィ
鬼道「佐久間！」
アフロディ「大丈夫かい？うぅぅ！」
円堂「アフロディ！」
王将「ホワイトタイガー、また負傷者が出てしまった！」
アフロディ「僕は大丈夫だ！まだ戦える」
佐久間「俺も行けるぜ。鬼道！」
クロナ「ありがとう。だがムリするな。後は俺たちに任せてくれ。」
王将「ＭＦに一之瀬、松野が出場。」
ピィィ
クロナ「ブラックドラゴン、もう許さないぞ！俺たちは絶対勝つ！
真ライトニングボルテック！」
ガズリー「リュウノバイト！」

バリーン
ガズリー「なに！？ぐぁ！」
王将「ゴール！ホワイトタイガーついにガズリーから点取った！これで1点差になりました！」
スティーブ「バカな！？」
ゲオン「・・・・・そいつも潰せ、徹底的にやれ。」
スティーブ「しかし監督、それはやりすぎでは？」
ゲオン「私の命令が聞けんのか？」
スティーブ「・・・わかりました！」
王将「残り1点を追うホワイトタイガー、追いつけるのか！？」
クロナ「よし、いくぜ！」
スティーブ「やるしかないか。」
リコ「アタックアロー！」
クロナ「うわぁ！」
マット、ニド『じごくぐるま！』
クロナ「ぐぁ！」
円堂「クロナ！」
クロナ「くっ、あっ！」
スティーブ「うぉお！」
ドガッ
スティーブ「うわぁぁ！」
バタッ
ピィィ
円堂「クロナ！」
王将「あ～と！ホワイトタイガーキャプテンクロナ倒れた！」
円堂「大丈夫か、クロナ！？」
クロナ「くっ、すまない円堂。」
音無「クロナさんはもうムリです！」
クロナ「円堂、俺の代わりにコレを。」
円堂「それは、キャプテンマーク！」

クロナ「今はお前に託したい、頼む！」
円堂「わかったぜ！クロナ」
王将「さぁホワイトタイガー最後の選手交代だ、クロナに代わり闇野が入ります！」
スティーブ「これで終わりだ！リュウノアギト！」
円堂「絶対止める！はぁぁ！」
ガシャーン
スティーブ「なに！？」
神無月「やった！止めた！」
目金「ゴールと言う名の門を守る守護神！名付けてゲートガーディアン！」
クロナ「円堂、また試合中に新たな技を！」
円堂「いっけ～！」
リコ「喰らえ！」
栗松「真まぼろしドリブル！」
リコ「なに！？」
スティーブ「さっきより動きが良くなってる！」
栗松「一之瀬さん！」シスラー、ネルソン『行かせない！』
一之瀬「うぉぉ！」
スゥ
王将「一之瀬、華麗にかわした！」
一之瀬「豪炎寺！」
豪炎寺「バーニング！」
染岡「キラー！」
ガズリー「リュウノバイト！」
バリーン
ガズリー「うわぁぁ！」
円堂「やった～！」
王将「ゴール！ホワイトタイガーついに同点だぁ！」
ピィピィィィ

王将「前半終了！後半で勝ち越すのはどっちだ！？」
スティーブ「同点か！」
ゲオン「やってくれたな！役立たず共！」
スティーブ「え！？なぜですか！？」
ゲオン「大会前に完璧な勝利をしろと言ったはずだ！」
スティーブ「待って下さい！まだ同点です、必ず勝ち越してみせます。」
ゲオン「黙れ、貴様らもう使用済みだ！」
鬼瓦「使用済みになるのはお前だ！」
ゲオン「誰だ？」
鬼瓦「警察だ！お前に聞きたい事がたくさんあるんだ！ゲオン・ニコルソン、お前を逮捕する！」
円堂「鬼瓦刑事！」
鬼瓦「よぉ、円堂くん！」
冬花「なんでここに！？」
鬼瓦「この子に呼ばれてな。」
クロナ「ジャンヌ！？」
ゲオン「私に何のようだ。」
ジャンヌ「あなたの事調べたんです！ホワイトタイガーのメンバーの事故について。」
鬼瓦「それはお前がホワイトタイガーを出場させないために仕組んだ事だ。お前1人でな。」
ケイン「あいつ1人で！？」
カイン「じゃあブラックドラゴンは本当に知らなかったのか！？」
鬼瓦「それだけじゃない、お前はジャンヌの両親を殺害しジャンヌを大統師にさせブラックドラゴンを優勝させれば大統師になれるという企みだ。そうだろ！」
スティーブ「監督、どうゆう事ですか！？俺たちが外道と言われてる事も監督の仕業ですか！？」
ゲオン「・・・・・そうだよ、ホワイトタイガーの事故もジャンヌ

の両親も私がやったんだ。お前たちが優勝すれば私が大統師になりこの大会を思い通りになるのだからな！」
スティーブ「俺たちはあんたに利用されてたんですね。」
ゲオン「だが貴様らはもう使用済みだからな！」
スティーブ「ふざけるな！」
バアーン
ゲオン「うわぁ！！」
バシッ　しゅ～
クロナ「円堂！」
スティーブ「なぜそいつをかばう！そいつはホワイトタイガーのメンバーを！」
円堂「サッカーボールは人に当てる物じゃない！サッカーをやるための物だ！」
鬼瓦「連行しろ。」
警官「はっ！」

スティーブ「くっそ～！俺たちがやった事は全部悪いことだったのかよ！」
クロナ「スティーブ。」
スティーブ「何だよ、俺らを笑いに来たのかよ！」
クロナ「いや、お前たちが外道と言われてたのは俺らの勘違いだった、すまなかった。」
スティーブ「いいよ、俺らにサッカーやる資格はない、ホワイトタイガーの勝ちだ。」
円堂「本当にそれでいいのか！？スティーブ。それで納得するのか！？」
スティーブ「日本人のお前に何がわかる！俺らがやった事は許される事じゃないをだ！」
円堂「わかる！今まで俺はサッカーを汚す奴と試合をした。だが最後まで戦ったんだ！だからお前たちと最後まで戦いたい！」

スティーブ「円堂！・・・・俺、間違ってたかもしれない。円堂、本当の勝負だ！」
円堂「あぁ、望む所だ！」
スティーブ「クロナ、すまなかった。お前たちをケガさせてしまって！」
クロナ「大丈夫だ。それにあいつと戦ってみろ！円堂と戦うと見た事ない世界が見えるかもしれないぞ！」
スティーブ「見た事ない世界？」
王将「さぁ後半が始まります！優勝するのはどっちだ！」

第２１話　邪悪なる黒き竜　ブラックドラゴン（後書き）

次回予告　ゲオンから解放され、自由になったブラックドラゴンが新たな力をホワイトタイガーに見せてくる。
第２２話　決着のとき　白き虎ＶＳ黒き竜
イナズマイレブン
今日の格言
円堂「サッカーボールは人に当てる物じゃないサッカーをやるための物だ！」

第２２話　決着のとき　白き虎ＶＳ黒き竜

王将「カラーアニマルカップ決勝！いよいよ後半戦が始まります！キャプテンクロナが負傷し日本で活躍する雷門のメンバーになったホワイトタイガー、ゲオン監督が連行され自由になったブラックドラゴン、この試合し勝利し頂点に立つのはどっちなのか！？」
スティーブ「（見た事ない世界、それは一体？）」
ピィィィ
王将「さぁ後半戦始まった！」
リコ「スティーブ！」
スティーブ「リュウノアギトＶ２！」
円堂「ゲートガーディアン！」
パリーン
円堂「なっ！？」
ピィィ
王将「ブラックドラゴン、スティーブのシュートで勝ち越した！」
クロナ「スティーブのリュウノアギトが進化した！」
アフロディ「また円堂くんが相手の力を引き出したみたいだ！」
メロディーヌ「相手の力を引き出した！？でも守くんは仲間の力しか引き出さないんじゃ！？」
半田「あいつは敵味方関係無く力を引き出すんだよ。」
神無月「敵味方関係無く！？」
メロディーヌ「やっぱり守くんはすごい！」
テルリン「でも１点差で負けてるよ！」
スティーブ「俺の技が進化した！もしかして、これが見た事ない世界！？」
クロナ「あいつ、見えたみたいだ。」
円堂「すごいパワーだ！やっぱりあいつはすごいぜ！」
豪炎寺「だが、俺たちは負けない！バーニング！」

染岡「キラー！」
ガズリー「スティーブは見た事ない世界が見えた、俺たちも見てみたい。ゴッドフィンガー！」
しゅ～
王将「止めた！ガズリー、新技でバーニングキラーを止めました！」
豪炎寺、染岡『なに！？』
テルリン「円堂くん、キーパーの力も引き出したみたい！」
スティーブ「もう一発いくぜ！リュウノアギトＶ２」
円堂「もう点はやらない！ゲートガーディアンＶ２」
スティーブ「なに！？」
ケイン「円堂のゲートガーディアンも進化した！」
カイン「いいぞ、円堂！」
円堂「いけっ風丸！」
王将「ＤＦ風丸、上がっていく。」
風丸「トルネードブロー！」
ガズリー「よし、止められる！」
松野「いただき！」
ガズリー「なに！？」
松野「ホーリーランス！」
ガズリー「ゴッドフィンガー！」
バアーン
ガズリー「あぁ！」
王将「入った！風丸から松野へのシュートチェインが決まった！ホワイトタイガー、同点だぁ！」
円堂「いいぞ、風丸、マックス！」
闇野「いけっマックス、ケルベロスバスター！」
松野「ホーリーランス！」
王将「闇野から松野へのシュートチェインだぁ！これは決まったか！？」
ガズリー「ゴッドフィンガーＧ２！」

神無月「相手のキーパーの技も進化した！」
スティーブ「ナイスだ、ガズリー！」
王将「さぁ試合は後半になって激しい展開になってきた！今までのカラーアニマルカップにない試合だぁ！」
スティーブ「ハァハァ、さすが世界一になったキャプテンだ。」
ガズリー「スティーブ、いくぜ！」
円堂「なに！？」
王将「なんとキーパーガズリーオーバラップ！」
スティーブ「いくぜ円堂！」
スティーブ、ガズリー『ツインヘッドドラゴン！』
王将「これは！！2つの顔のドラゴンがゴールを襲う！」
円堂「ゲートガーディアンV2！」
パリーン
円堂「あぁ！」
鬼道「うぉぉ！」
ガアーン
王将「鬼道がゴールを守った！ブラックドラゴン、ゴールならず！」
円堂「助かったぜ、鬼道！」
鬼道「あぁ、だが喜ぶのはまだ早い。」
王将「ブラックドラゴンの攻撃はまだ続く！」
佐久間「これがブラックドラゴンの本当の力なのか！？」
クロナ「俺もスティーブたちがここまでやるとは思ってもいなかった。」
王将「ボールはスティーブへ！円堂と1対1になった！」
スティーブ「（クロナ、円堂、お前たちが言ってた見た事ない世界の意味がわかったぜ、それは）サッカーが楽しい世界だ！リュウノアギトV3！」
メロディーヌ「また進化した！」
円堂「スティーブ、お前はすごいぜ！だが、俺も強くなる！ゲートガーディアンV3！」

しゅ〜
スティーブ「あっ！」
木野、音無『やった〜』
ジャンヌ「円堂さん、やはりあなたを選んで正解でした！」
スティーブ「円堂、お前は本当にすごい奴だ！」
王将「ここでロスタイムに入った！先に点を取るのはどのチームなのか！？」
栗松「いくでヤンス！」
ニド、ゴメス、リコ『行かせない！』
円堂「栗松！」
栗松「キャプテン！」
ブラックドラゴン『なに！？』
王将「あ〜と！円堂が上がって来た！残り時間がわずかで円堂も攻撃参加だぁ！」
円堂「一之瀬！」
一之瀬、円堂、土門『ザ・フェニックスV3ィィィィ！！』
ガズリー「俺たちは負けない！絶対勝つんだ！ゴッドフィンガァァァァG3！！うぉぉぉ！」
バアーン
ガズリー「なぁっ！！」
ピィィィ
王将「入った！一之瀬、円堂、土門の連携技でホワイトタイガーついに勝ち越し！！」
ピィピィピィィィ
王将「試合終了！カラーアニマルカップを制したのはホワイトタイガーだぁぁぁ！」
ココナ「負けた！」
スティーブ「あぁ、だが全然悔しくない、むしろ清々しい気分だ！」
クロナ「ありがとう、円堂！」
円堂「あぁ！」

飛行場
クロナ「世話になったな円堂。」
円堂「あぁ、またな！」
レジー「俺達に挨拶無しってのはひどくねぇか？」
円堂「レジー、リキット、カロ、ボルグ、スティーブ！」
カロ「僕たちも円堂くんに別れ言いたくてね！」
リキット「来年お前と戦えないかも知れないけど、また戦うのを楽しみにしてる！」
スティーブ「これは俺達と戦った印だ」　円堂「サッカーボール？」
風丸「良く見ろ全員のメッセージだ！！」
円堂「本当だ」
新しい俺達の技を見せてやる　スティーブ
暴れ牛の底力を見せてやるぜ　レジー
真のサメの恐怖を味あわせてやる　ボルグ
お前らの作戦の裏を何回でもかいてやる　リキット
君達のシュートを全て弾き返してあげましょう　カロ

またサッカーやろうぜ！！円堂！！！！！　メンバーより
円堂「ありがとうみんな！」
スティーブ「円堂、俺達は新たな一歩を踏み出す、そして本当の栄光を手に入れる。」
円堂「頑張れよ！」
ゴォーッ
クロナ「行ったな。」
スティーブ「あぁ、クロナ、来年は本当の勝負をしようぜ」
クロナ「そうと決まれば早速特訓だ！」
レジー「円堂の特訓癖が移ったか？」
クロナ「ククッ、かもな」
ニュージーランドでの戦いは終わった
だが、円堂はこれから起こる出来事をまだ・・・・・知らない

第２２話　決着のとき　白き虎ＶＳ黒き竜（後書き）

次回予告　ニュージーランドから帰ってきた俺達、あれ？このメンバーは！！
第２３話　未来の戦士　再集結
イナズマイレブン
今日の格言
スティーブ「俺達は新たな一歩を踏み出す！そして本当の栄光を手に入れる。」

オリキャラ設定・・・・・？

ロン・スコーピオンパート２
かつて円堂と死闘を繰り広げた元ダークマップのキャプテン！今は生まれ変わったチーム、キングワールズのキャプテン！円堂と共に未来を救いに行く！
ポジション　ＦＷ　ＭＦ
必殺技　キングダムブレード、キングダムブレードＶ２、キングダムブレードＶ３、ナックルバースト、チェックメイト
ロディ・ポールド
特徴髪型と色は赤いショートヘアー
イナズマ王国の元王子　サッカーチームに所属していたが自己中心のメンバーに嫌気が差し、チームを解散させる
父親であるルイ大王の気まぐれにも嫌気が差し、家出して、港で趣味である釣りをしながら生活している
年齢　１４歳
必殺技　グリフォンスピアー、グリフォンスピアー改、真グリフォンスピアー、パーフェクトスマッシュ
ザンデ・ミスリル
未来のイナズマ王国の支配者、ヒビキ提督に使われるジェネラルのキャプテン、バッダプ率いるオーガを圧倒的な力で上回る
ポジション　ＦＷ
必殺技　閻魔の裁き

第２３話　未来の戦士　再集結

ニュージーランドから戻って一週間後
風丸「トルネードブロー！」
円堂「ゲートガーディアンＶ３！」
しゅ～
久遠「響木さん、円堂、私たちが見ない間にまた力を身に付けたようですね。」
響木「そうだな。だが円堂だけじゃない、あいつらも進化している。」
壁山「キャプテン、ゴールを守るとき輝いてるッス。」
栗松「本当、輝いて・・・・・って！光ってるでヤンス！！」
円堂「なんだ！？」
？？？「付いた！」
円堂「誰だ！？」
？？？「はじめまして、ひいじいちゃん。」
円堂「ひっ！ひいじいちゃん！？」
メロディーヌ「てことは、守くんのひ孫って事！？」
音無「まさか、そんな事って！」
？？？「俺、円堂カノン！」
神無月「名字は一緒のようだけど。ひ孫って事は、未来から来たって事？」
カノン「そう、俺、未来から来たんだ！その証拠はコレ！」
木野「なにそれ？」
一之瀬「なんかの古いノートのようだけど。」
円堂「それは！じいちゃんの秘伝書！」
神無月「なんであなたがコレを！？」
カノン「俺もサッカーやってるからだ！」
豪炎寺「その未来から来たお前がなぜここに来たんだ！」

カノン「あっ！そうだった、じつはひいじいちゃんたちに未来に来てほしいんだ！」
夏未「円堂くんたち？場所はどこなの？」
カノン「未来のイナズマ王国。」
円堂、神無月『イナズマ王国！！』
木野「それって、真実の石版で行ったって。」
カノン「悪人はイナズマ王国を攻めてサッカーを戦闘の武器にしてるんだ！過去のイナズマ王国を救った戦士が未来でも有名だから一緒に救ってほしいんだ！」
円堂「・・・・・わかった！」
カノン「本当！？ひいじいちゃん！」
円堂「あぁ、サッカーは戦闘の武器じゃないって事教えてやるぜ！」
鬼道「未来の戦士と言うと佐久間に虎丸、アフロディたちだな。」
木野「円堂くん、私たちも行くわ！」
円堂「えっ！？」
冬花「マネージャーのサポートも必要になるから。」
神無月「私も行く！私も過去に行った事あるから。」
メロディーヌ「愛や守くんが行くならミーも！」
円堂「ありがとう、みんな！」
豪炎寺「早速イナズマ王国を救ったメンバーを集めるか。」
かしかの森
飛鷹「過去のイナズマ王国を救ったメンバーが再び集結するとはな。」
ヒロト「円堂くんのひ孫が来るとは、すごい事が起こるんだね。」
カノン「みんな集まったね。では、未来へ出発！」
キラーン
一方未来のイナズマ王国
ヒビキ提督「１人のガキが戦士を集めてるそうだな！」
部下Ａ「どういたしましょう？」
ヒビキ提督「今はほっておけ、好きにさせろ。」

部下A「はっ！」
そして円堂たち
円堂「付いた！のか！？」
テルリン「未来にちゃ、なんかヘンだわ！」
カノン「ごめん、間違えて過去に来ちゃった！」
ヘラ「なんだと！じゃあタイムスリップは？」カノン「失敗しちゃった！」
寺門「失敗したならもう1回だ！」
カノン「それはムリだ！」
神無月「なんで？」
カノン「バッテリーが切れたんだ！」
円堂「それじゃあ、俺たちは帰れないって事か！？」
カノン「大丈夫、自然に充電出来るから。」
木野「良かった。」
カノン「でも、充電出来るまで3日はかかる」
戦士『3日～！！』
デメテル「そもそもここはどの時代だ？」
カノン「ひいじいちゃんたちがダークマップに勝利して4ヶ月後の時代だよ。」
円堂「そうだ！ロンだ！」
夏未「ロンって、ダークマップのキャプテンだった。」
円堂「あぁ、ロンを仲間にすれば！」
神無月「なんか心強そう！」
円堂「どうせ3日はかかるし、何もしないほうよりマシだよ。」
鬼道「そうだな。だったら言ってみるか、イナズマ王国の城へ」
イナズマ王国の城
兵士「あっ、エミリア姫様！」
エミリア姫「どうしました？」
兵士「懐かしの人が来ました！」
エミリア姫「懐かしの人？誰かしら？・・・・・あっ！」

円堂「こんにちは、エミリア姫。」
木野「あの人がエミリア姫！」
エミリア姫「円堂さん、皆さん！なぜここに！？」
円堂たちはエミリア姫に訳を話した
エミリア姫「じゃあ、カノンさんは円堂さんのひ孫で未来に行くつもりが間違えてこの時代に来た訳ですね。」
円堂「はい、だからロンを仲間にするためにここに来ました！」
エミリア姫「そうですか、キングワールズのメンバーはお城の裏にいます。」
鬼道「キングワールズ？」
エミリア姫「ロンさんたちがやり直したいとみんなで考えた新たなチーム名です。」
城の裏
神無月「お城の裏にマンションが建ってる！」
エミリア姫「お父さまがロンさんたちに酷い事したお詫びにマンションを建てたんです。奥に練習グランドもあります。」
虎丸「練習グランドまであるんですか！」
練習グランド
ロン「そりゃ！」
ゲープ「あぁっ！」
レノン「ナイスシュート！」
ロン「おうっ！・・・・・」
ゲープ「やはり忘れられないんだな、円堂の事が。」
ロン「あぁ。」
カン「でも俺たちとあいつの時代は違うからな。」ロン「確かに住む時代が違う、だが、エミリア姫が言ってたんだ。」
3ヶ月前　中庭
ロン「・・・・・」
エミリア姫「円堂さんの事が忘れられないのですね。」
ロン「エミリア姫！」

エミリア姫「あの時はこの真実の石版で呼びましたね。」
ロン「俺、サッカーやってるとあいつを思い出します。本当のサッカーを思い出させくれたのは、円堂でした。だが、俺の本当のサッカーは何なのか忘れてしまった。もうあいつには会えないのかな。」
エミリア姫「それはわかりません、時代は違うかもしれません。でも、気持ちがこもっていれば願いは叶う物です。」
そして現在
カン「エミリア姫らしい説得だな。」
円堂「ロ～ン！」
ロン「ん！？気のせいか！？今円堂の声が。」
円堂「ロ～ン！お～い！」
ロン「えっ、円堂！お前なのか！」
円堂「あぁ、俺だよ。」
ピート「未来の戦士のメンバーもいるぞ！」
デイブ「女子もたくさんいる、マネージャーかな。」
円堂「ロンに頼みがあってここ来たんだ。」
ロン「俺に頼み？」
円堂はロンに頼みと訳を話した
ロン「未来を救うために俺を仲間にするためにここに来たのか！」
円堂「あの時のお前のシュート、すごかったからな、きっと力なると思ったんだ。」
ロン「・・・・・わかった！俺も行くぜ！」
円堂「本当か！？」
ロン「ただし、条件がある！」
神無月「条件？」
ロン「俺たちキングワールズと勝負だ！」戦士たち『！！！』
鬼道「お前たちと試合を！」
ロン「あぁ、俺たちもうダークマップじゃない、だからお前たちに生まれ変わったお前たちを見せてやるぜ！」
円堂「わかった！その勝負受けて立つ！」

ロン「そうこなくちゃ。」
円堂「俺たちが勝ったら仲間になるんだな！」
ロン「あぁ、なるぜ！場所は俺たちとお前たちと戦ったイナズマスタジアムだ！」
音無「なんかすごい事になりそうですね！」
ロン「そうと決まれば、早速イナズマスタジアムに行くぜ！」
イナズマスタジアム
冬花「ここがイナズマスタジアム、観客もたくさんいますね。」
メロディーヌ「愛はここに入ったんだよね。」
神無月「うん。」
ジュリー「さぁイナズマ王国の皆さん！この試合はなんと！元ダークマップであるキングワールズ、対戦相手わが国を救った円堂くん率いる未来の戦士です！」
ルイ大王「まさか円堂くんたちに再び会えるとは。」
エミリア姫「お父さま。」
神無月「ルイ大王様、お久しぶりです。」
木野「あの人がルイ大王！」
音無「キャプテンとお兄ちゃんの話でとても気まぐれな王様って人ですね。」
エミリア姫「最近お父さまは気まぐれじゃなくなったんです。」
ルイ大王「私の気まぐれのせいでこうなったのだからな。」
ジュリー「さぁまもなく試合がはじまります！」円堂とロンの試合が再び始まった。円堂たちはこの試合に勝ってロンを仲間入り出来るのか！

第２３話　未来の戦士　再集結（後書き）

次回予告　ロンと再び激突　キングワールズの力とは
第２４話　再激突　円堂ＶＳロン
イナズマイレブン
今日の格言
エミリア姫「気持ちがこもっていれば願いは叶う物」

第２４話　再激突　円堂ＶＳロン

円堂のひ孫、カノンに未来を救う事になった円堂たち。しかし間違えて過去に来てしまたっが、ロンを仲間にするために試合をする事になった

豪炎寺「円堂、ロンと試合をするの久しぶりだな。」

円堂「あぁ、あいつらがどんなサッカーするのか楽しみだぜ！」

未来の戦士

ＦＷ

豪炎寺

虎丸

デメテル

ＭＦ

ヒロト

アフロディ

鬼道

佐久間

ＤＦ

ヘラ

飛鷹

寺門

ＧＫ

円堂

キングワールズ

ＦＷ

レノン　１１

ロン　　１０

ライン　９

ＭＦ

ワイルズ8
ジェイ　7
デイブ　6
DF
ピート　5
カン　4
バクラー3
ケイン　2
GK
ゲープ　1
ジュリー「キャプテン円堂とロンの戦いが再びやってきた！どのような試合が繰り広げられるのでしょうか！」
ピィィィ
ジュリー「試合が始まりました！」
ヒロト「虎丸くん！」
ワイルズ「いただき！」
バシッ
ヒロト、虎丸『あっ！』
ワイルズ「ロン、いけ！」
ロン「いくぞ円堂、これが生まれ変わった俺の必殺技だ！
キングダムブレード！」
円堂「マジン・ザ・ハンド！ぐぁ！」
ピィィィ
ジュリー「ゴール！ロンくんの必殺技、キングダムブレードが決まりました！」
ロン「よっしゃ、決まった～！」
円堂「これが、ロンの新しい力なのか！？」
ジュリー「1点取られた未来の戦士、反撃なるか。」
円堂「なんだ！」
ジュリー「これは！キングワールズ正面をあけました！」

ゲープ「こい、イナズマブレイク！」
鬼道「そういう事か、円堂、豪炎寺いくぞ！」
ジュリー「この体勢は！ゲープくんから1点取ったイナズマブレイクの体勢です！」
鬼道「イナズマブレイクＶ２」
ゲープ「聖なる神殿！」
ガン
鬼道、円堂、豪炎寺『なに！！』
ジュリー「イナズマブレイクを止めました！」
神無月「イナズマブレイクを止めるなんて！」
木野「始めからイナズマブレイクを止める自信があったのね！」
ロン「どうだ、円堂。俺たちはあの時から強くなった。だから全力でお前たちに勝つ！」
円堂「あぁ、望む所だ！」
ジュリー「未来の戦士対キングワールズの試合は思わぬ展開になりました！」
ライン「俺もいるぞ！ジャンピングキック！」
円堂「ブレイク・ザ・ハンド！」
バァーン
ロン「円堂の新技か。やるな。」
冬花「神無月さん、ロンくんたちあんな風だったんですか？」
神無月「ううん、ダークマップの時は憎しみを抱えてサッカーをやってたの。円堂くんとサッカーをやってからあんなに楽しんでるの。」
豪炎寺「バーニングサイクロン！」
ゲープ「聖なる神殿！」
ガン
ジュリー「豪炎寺くんも新技を出した！しかし聖なる神殿破れず！」
ピィピィィィ
ジュリー「ここで前半終了です。」

鬼道「ダークマップの時より強くなってるな。」
アフロディ「しかしこの試合に勝たないとロンは仲間にできないよ。」
円堂「大丈夫、次は止めてみせる！」
テルリン「後半で勝てるかな！？」
木野「大丈夫よ、円堂くんはこのくらいで終わらないから。」
ピィィィ
ジュリー「後半戦スタートです！」
ピート「レノン！」
レノン「任せろ！」
飛鷹「行かすか！真空魔Ｖ３！アフロディ！」
アフロディ「真へブンズタイム。」
デイブ、バクラー『うぁ！』
虎丸「アフロディさん！」
アフロディ「虎丸くん！」
虎丸「グラディウスアーチ！」
ゲープ「聖なる神殿！」
ガン
ゲープ「さぁ追加点だ！」
ロン「いるぞ！キングダムブレード！」
円堂「成長したなロン、でも、未来を救うために俺たちも負けられないぜ！
マジン・ザ・ハンド改！」
しゅ〜
ロン「なに！進化した！」
円堂「鬼道、豪炎寺！」
ジュリー「またイナズマブレイクを撃つのか！？」
ゲープ「任せろ！」
鬼道「イナズマブレイクＶ３！」
ゲープ「聖なる神殿！」

ピキッピキピキ
ロン「なっ！！女神の加護を受けし神殿がっ！！！」
パリィィィィン！
ゲープ「うわぁっ！！」
ジュリー「ゴール！聖なる神殿敗れる！未来の戦士、同点です！」
ゲープ「まさか聖なる神殿を破るとは！」
ロン「円堂が進化するとチームメイトも進化するのか、俺もあいつといっしょにサッカーするとどうなるんだろうな。」
メロディーヌ「イナズマブレイクも進化した！すごいよ。」
豪炎寺、虎丸、ヒロト『グランドファイアＧ３！』
ゲープ「前よりパワーアップしてる！だったら、はぁぁ！」
バシッ
ゲープ「ぐぁ！」
ロン「うぉぉ！」
ガン
ピィィ
ジュリー「ロンくん、ゴールを守りました！」
ゲープ「ロン、助かったぜ。」
ロン「あの技を使うつもりだったのか？」
ゲープ「だが失敗だ。」
ロン「失敗してもいい、自信を持て！」
ゲープ「あぁ！」
鬼道「ゲープ、今何かしようとしてた、しかし失敗だったがな。」
ジュリー「キングワールズのスローイングで試合再開です！」
ロン「レノン、ライン、あの技でいくぞ！」
ライン、レノン『おぉ！』
ロン、レノン、ライン『チェックメイト！』
神無月「なに、あの技！？」
テルリン「なんかすごい！」
円堂「すごい技だ！でも、止めてみせる！

ゴッドキャッチG4！」
しゅ～
ロン、レノン、ライン『なに～！』
ジュリー「なんと円堂くん、チェックメイトを止めました！」
ロン「バカな！俺たち最強の必殺技だったのに！」
エミリア姫「すっ、すごい！チェックメイトを止めるなんて！」
ジュリー「残り時間は2分を切った！」
円堂「さぁみんな、最後の攻撃だ！」
ジュリー「円堂くんオーバーラップ、この攻撃が決勝点のチャンスとなるのか！？」
円堂「いくぞ、豪炎寺、虎丸！」
円堂、豪炎寺、虎丸『ジェットストリーム！』
ロン「なんだ！この技は！？」
ゲープ「はぁぁ！止める、うぉぉ！うっ、うわぁっ！」
ピィィ
ジュリー「ゴール！入りました、未来の戦士、勝ち越し！」
ピィピィピィィィ
ジュリー「試合終了！未来の戦士が勝ちました！」
カノン「すごい試合だったな。」
円堂「ロン、楽しかったぜ。」
ロン「俺もだ。」
円堂「俺たちの仲間になってくれるか！？」
ゲープ「行けよ、ロン。はじめから仲間なるつもりだったんだろ。」
円堂「そうなのか！？」
ロン「まっ、そんなとこだな。これからよろしく、円堂。」
円堂「よろしくな、ロン」
ピート「ところで、未来を襲った奴らはどんな奴らだ？」
カノン「噂によると、オーガをも超える最凶のチームだ」
ルイ大王「最凶のチーム！」
ロン「今の人数じゃ、たりないかもな。」

エミリア姫「カノンさん、これは正式試合ではないんですよね？」
カノン「はい。」
エミリア姫「でしたら、２チームの人数で行くのはどうですか！？」
寺門「それは名案ですね。」
音無「今の人数は１３人だから、後９人ですね。」
エミリア姫「８人です。」
音無「えっ！？」
エミリア姫「１人はすでに決めています。」
夏未「でも後８人はどうするんですか？」
鬼道「この時代にすごいプレイヤーがいるんですか？」
エミリア姫「いいえ、後の８人は円堂さんたちの時代からです。」
円堂「えぇ！」
佐久間「でもどうやって？カノンのマシンはバッテリー切れですし。」
エミリア姫「私に任せて下さい。」

第２４話　再激突　円堂ＶＳロン（後書き）

次回予告　エミリア姫のアイデアとは！？
なっ！！おまえらは！
次回
第２５話　集いし新たなる戦士！！
イナズマイレブン
今日の格言
ロン「失敗してもいい、自信を持て！」

第２５話　集いし新たなる戦士

中庭
円堂「そうか、真実の石版でいっしょに戦ってくれる人を呼ぶのか。」
メロディーヌ「愛と守くんもこれに吸い込まれてここに来たんだね。」
エミリア姫「では、円堂さんとサッカーやってくれる方を呼びます。真実の石版、どうか私のお願いを聞いて下さい。」
現在　河川敷のグランド
風丸「円堂たち、今頃未来で頑張ってるだろうな。」
染岡「あぁ、そうだな！だが、俺たちに力があれば円堂と共に戦えただろうな。」
風丸「染岡、もう力にこだわるはやめようぜ。」
染岡「えっ！？」
風丸「力を求めすぎたせいで、ダークエンペラーズなってしまったんだ。」
染岡「そうだったな、もう助けれっぱなしごめんだぜ。」
ピロロロロン
風丸「んっ？メールだ。」
染岡「俺のも鳴ってる！なんだこれは？」
風丸「矢印が出てる、コレをたどって行けって事か。」
５分後
風丸「この先かしかの森だぞ。」
染岡「てことは、円堂が言ってた真実の石版がある森か！？」
壁山「風丸さん、染岡さん！どうしたんッスか？」
風丸「壁山！お前も考え！？」
壁山「はいッス、変なメールが届いて矢印どうりに進んだらここに」
吹雪「君たちも来たの？」

染岡「吹雪！？なんでお前が！」
吹雪「携帯に変なメールが入って、白恋中の裏に変な光があったんだ、それに触れたて気がついたらここに。」
不動「俺たちもだ！」
源田「変わったメールだな。」
染岡「不動、源田！」
南雲「なんだ？お前らもか？」
涼野「この森にこんな所があったんだな。」
風丸「南雲に涼野！お前たちにもメールが！？」
コォォォォ
涼野「なんだあれは！？」
風丸「まさかあれが、真実の石版！？」
スゥゥゥ
染岡「な、なんだ！？吸い込まれるぞ！」
風丸たち『うわぁぁぁ！！』
染岡「なんだここは！？」
壁山「まさか、ここがキャプテンが言ってたイナズマ王国ッスか！？」
源田「佐久間たちも言ってたな。」
ピロロロロン
吹雪「またメールだ！」
不動「矢印があの城にさしてるぜ。」
風丸「行ってみるか。」
兵士「何者だ！」
涼野「道に迷った者です。気がついたらここに。」
兵士「・・・・・・わかった、通るがよい。」
南雲「ほぉ、いい城だな。」
染岡「だが、城に入って何があるんだ。」
円堂「染岡！」
染岡「えっ！？円堂！」

鬼道「源田、不動も選ばれたのか。」
ヒロト「涼野に南雲も来たんだね。」
豪炎寺「風丸、壁山、よく来たな。」
アフロディ「吹雪くん、また会ったね。」
風丸「選ばれたってどうゆう事だ？」
エミリア姫「私が話ます。」
吹雪「あなたは？」
神無月「このイナズマ王国の姫、エミリア姫よ。」
風丸たち『姫～！？』
染岡「それはそうと円堂、お前ら未来に行ったんじゃ？」
カノン「タイムスリップ失敗したんだ。」
エミリア姫「後は私が話ます」エミリア姫は新たな戦士に話した
吹雪「僕たちがキャプテンたちと未来を救いに行く仲間にするため呼んだんですね。」
エミリア姫「はい、そうです。」
鬼道「これで21人揃いました、後1人は誰ですか？」
エミリア姫「港にいます。」
戦士『港！？』
イナズマ港
エミリア姫「あそこにいます。」
円堂「あの釣りをしてる奴ですか？」
エミリア姫「はい、あの子はロディ、私の弟です。」
円堂たち『弟！！？』
木野「って事は。」
円堂たち「王子様！」
夏未「でも王子様なのに、なんでここで釣りをしてるんですか？」
エミリア姫「それは5ヶ月前のことです。」

――――――5ヶ月前
ロディ「何やってんだ！こっちに回せ。」

仲間A「それ、シュート！」
ロディ「みんな、戻れ！」
試合終了後
ロディ「なぜみんな勝手に動くんだ！バラバラにサッカーやるから負けたじゃないか！」
仲間A「そうカッカすんなよ、俺達は自分が好きにできれば良いんだよ」
仲間B「勝ちたきゃ自分でチーム作れよ」
ロディ「もういい！！お前らのような自己中な奴らとサッカーできるか！解散だ！」
現在
エミリア姫「それ以来ロディは他人を信じれなくなりました。」
円堂「そうだったんだ。」
エミリア姫「そしてその後です。」
ーーーーー5ヶ月前
ルイ大王「そうだ！イナズマノ森の木を切り倒して、広場を作ろう！」
ロディ「しかし父上！そんな事をすれば空気が汚染(おせん)され体調を崩す者が増えてしまいます！」
ルイ大王「五月蠅いぞ（うるさい）ロディ！！ワシが決めた事に口出しするな！」
ロディ「チッ！」
バサッ
ルイ大王「うぷっ
ロディ！！」
ロディ「アンタの気まぐれにはもう、うんざりだ！！
俺はこの国を出させてもらう！
あばよ！」
エミリア姫「ちょっと！ロディ！！」
現在

冬花「でもなんで港に住み始めたんですか？」
エミリア姫「ここは、ロディの釣りスポットだからです。５ヶ月立ってもロディは帰って来ませんでした。」
虎丸「相当ルイ大王の気まぐれと自己中なメンバーにうんざりしてたんですね。」
エミリア姫「だから、ロンさんの心を変えた円堂さんならロディの心変えられると思ってんです。」
鬼道「なるほど、それで最後の１人はロディに決めていたんですね。」
ロン「それは俺も納得いくな。」
円堂「ロディもサッカー好きなんですね。」
エミリア姫「はい。」
円堂「任せて下さい！お～い！」
ロディ「誰だ、アンタ。」
円堂「俺、円堂　守、キミロディだよな！」
ロディ「そうだよ、んで何の用だ？」
円堂「いっしょにサッカーやらないか！？」
ロディ「やだ！俺はもう他人とサッカーはやらない。お前らの用な自己中な奴らとやれるか。」
エミリア姫「それは違うわ、ロディ。」
ロディ「姉さん！」
エミリア姫「彼ら未来から来たチームワーク抜群の方たちよ。」
ロディ「そういや聞いたな、４ヶ月前ダークマップを倒しイナズマ王国を救った未来人がな。それがお前らってわけか。」
エミリア姫「この方たちは未来を救いに行くために戦うの、そこでロディ、あなたの力が必要なの。」
ロディ「はぁ？俺の力が必要だと！
バカも休み休み言え！俺は二度と他人とサッカーはやらん！！」
不動「ケッ！とか言いながら本当は自分に自信がネーンジャねーのかぁ？」

ロディ「ンだとゴラァ！
良いぜ！やってやろうじゃねぇか！
その代わり勝負だ！」
不動「円堂、後はお前に任せるぜ。」
ロディ「なんだ？お前がやるんじゃねーのか？
まぁいい、勝負方法はＰＫ一本勝負だ、お互いに必殺技は有りとする」
エミリア姫「大丈夫でしょうか？円堂さん。」
不動「まっ、大丈夫だろ。あいつだったら心配いらねーからな。」
ロディ「いくぞ！グリフォンスピアー！」
源田「なんだあのシュートは！？」
吹雪「すごいパワーだ！」
円堂「ゲートガーディアンＶ３！うぉぉぉ！」
しゅ～
ロディ「なに！」
壁山「キャプテンの勝ちッス！」
佐久間「勝負ありだな。」
ロディ「くそ～！」
エミリア姫「ロディ、約束よ。」
ロディ「わかった、だがそれでも俺は仲間を信じない。」
寺門「頑固な奴だ。」
染岡「そうだ！円堂、試合で信頼させるのはどうだ？」
円堂「そうか、信頼は共に戦う事だ！」
ロン「最初の戦士対後から仲間になった戦士との試合だな！俺も賛成だ！」
エミリア姫「わかりました、では明日イナズマスタジアムで行います。」
メロディーヌ「ワォ！戦士同時の激突、楽しみだね。」

第２５話　集いし新たなる戦士（後書き）

次回予告　戦士同時の試合が激突する。ロディは信頼を取り戻せる事ができるのか！？

第２６話　みんなの熱き想い、揺れるロディの心！

イナズマイレブン、今日の格言！

円堂「信頼は共に戦う事だ！」

以上！

第２６話　みんなの熱き思い、揺れるロディの心！

イナズマスタジアム
ジェリー「さぁ！今日も試合が激突します！円堂　守率いるＡチーム対源田　幸次郎率いるＢチームあぁ～！なんとＢチームには５ヶ月前にこの国を出て行ったロディ王子がいます！」

戦士　Ａチーム
ＦＷ
豪炎寺
虎丸
デメテル
ＭＦ
アフロディ
鬼道
佐久間
ヒロト
ＤＦ
ヘラ
飛鷹
寺門
ＧＫ
円堂

戦士　Ｂチーム
ＦＷ
ロディ
染岡
カノン
ＭＦ
南雲

涼野
不動
ロン
DF
風丸
壁山
吹雪
GK
源田

染岡「よっしゃ～！円堂、本気でいくぜ！」
円堂「全力で戦おうぜ。」
ロディ「ふん、アイツらと戦って何になる。」
ピィィィィ
ジェリー「試合が始まりました！」
南雲「行かせねー！」
佐久間「鬼道！」
バシッ
南雲「あっ！」
鬼道「虎丸」
虎丸「はい、タイガードライブ！」
源田「パワーシールドV2！」
ガン
ジェリー「なんと！源田くん、虎丸のシュートを止めました！そしてボールは風丸くんに。」
風丸「不動！」
ヘラ「もらった！」
不動「・・・フッ。」
バシッ
不動「染岡、やれ！」

染岡「いくぜ！ドラゴンキラーＶ２！」
円堂「ブレイク・ザ・ハンド！ぐぁ！」
ピピィ
ジェリー「ゴール！染岡くんのシュートが円堂くんのブレイク・ザ・ハンドを破りました！」
円堂「ナイスシュートだ！染岡！」
鬼道「ドラゴンキラーをパワーアップさせていたのか！」
染岡「見たか、円堂！」円堂「本当にすごいぜ、染岡！だが次は止めてみせるぜ。」
ロディ「（なんで相手をほめる必要があるんだ？）」
ジェリー「試合再開です！」
鬼道「上がれ豪炎寺！」
豪炎寺「オウッ！」
吹雪「させない、真スノーエンジェル！」
ジェリー「吹雪くん、鬼道くんからボールを奪いました。」
鬼道「やるな、吹雪！」
吹雪「まーね、染岡くん！」
染岡「もう一発決めるぜ！ドラゴンキラーＶ２！」
円堂「全力で止める！ブレイク・ザ・ハンド改！」
バァーン
染岡「なに！？」
ジェリー「円堂くん、今度は止めました！」
円堂「ヘラ！」
ヘラ「いくぜ！」
涼野「させない。」
飛鷹「こっちだ！」
バシッ
飛鷹「ヒロト！」
ヒロト「天空落とし！」
源田「ドリルスマッシャーＶ２」

バキ　バキ　バァーン
源田「うわぁ！」
ジェリー「ヒロトが決めた！Ａチーム同点！」
メロディーヌ「ワンダフォー、すごい試合だね。」
エミリア姫「えぇ、でもロディがこの試合で心が変わってくれるといいのですけど。」
神無月「大丈夫です、絶対。」
ジェリー「染岡くんが上がります。」
鬼道「ヘラ、飛鷹！」
染岡「くっ。」
ロン「染岡、こっちだ！」
染岡「ロン！」
円堂「勝負だ、ロン！」
ロン「（迷う事は無かった、サッカーは楽しいからみんなと走り続けるんだ！）キングダムブレードＶ２！」
円堂「正義の鉄拳Ｇ５！うぉぉ、ぐぁ！」
ピィィ
ジェリー「ゴール！ロンくんのパワーアップしたキングダムブレードが決まった！Ｂチーム勝ち越した。」
木野「まさか進化するなんて。」
ロン「どうだ！」
円堂「さすがだぜ、ロン。」
ロディ「・・・・・」
ヒロト「天空落とし！」
壁山「ザ・マウンテンＶ２」
バコーン
源田「フルパワーシールドＶ２」
ジェリー「弾きました！」
豪炎寺「真爆熱スクリュー！」
源田「しっ、しまった！あぁ～！」

ピィィ
ジェリー「同点！豪炎寺くんのシュートで同点です！」
ピィピィィィ
ジェリー「前半終了です、戦士同時はどのような形で決着が付くのか！？」
ロディ「やはりわからん、他人とサッカーをやる理由は。」
エミリア姫「やはりそう簡単に心開いてくれませんか。」
染岡「だったらこの後半で見つけろ！自己中な奴らとやるサッカーと円堂とのサッカーの違いを。」
ロディ「違い？そんなもんあるわけない。」
ピィィィィ
ジェリー「後半始まりました！ボールは吹雪くんがキープしています！」
吹雪「染岡くん！」
染岡「オウ！」
飛鷹「させるか！真空魔Ｖ３！」
ジェリー「飛鷹くん、ボールを奪いました！」
飛鷹「佐久間！」
カノン「もらった！」
ジェリー「カノンくん、ボールをカット！」
カノン「いくぜ、ひいじいちゃん！ゴッドキャノン！」
円堂「いかりのてっついＶ３！ぐぁ！」
ピィィ
ジェリー「円堂くんのひ孫、カノンくんが決めました！Ｂチーム勝ち越しです！」
佐久間、鬼道『エアロスイング！』
源田「ドリルスマッシャーＶ３！」
バシュン
鬼道「やるな、源田。」
源田「負けないぜ。」

ロディ「なぜあんなに楽しそうなんだ。」
ジェリー「デメテルくん、上がっていく！」
デメテル「アフロディ！」
アフロディ「ゴッドブレイクＧ５！」
源田「ドリルスマッシャーＶ３！」
バコーン
源田「あっ！？」
ジェリー「ゴール！これで３対３の同点です！」
冬花「すごい試合になりましたね！」
神無月「うん、みんなとても楽しそう。」
夏未「でも、１人除いて。」
メロディーヌ「ロディくんね。」
ジェリー「試合は同点のまますごい展開になりました！」
ヘラ「真ディバインアロー！」
源田「フルパワーシールドＶ２！」
パリーン
ピィィ
ジェリー「真ディバインアローが決まった！Ａチーム勝ち越し、残り時間は後わずか。このまま逃げ切れるのか！？」
ロディ「やはりこいつらとやっても・・」
円堂「そんな事ないぜ、ロディ、人が全て自己中心な訳ないんだ。」
ロディ「それは俺が判断する事だ。」
不動「いくぜ！てめぇら！」
染岡「言われなくてもやってやるぜ！」
飛鷹「行かせないぜ」
染岡「くっ！
ならば、ロディ！！」
ロディ「なっ！！」
パシィ
ロディ「（なんだ！？このこのボールから聞こえる奴らの声は？）」

染岡（決めろ！ロディ！）
風丸（お前の力を見せてやれ）
壁山（ロディさんならきっとできるッス）
ロン（お前の誇りを胸に）
円堂（ロディ、サッカーやろうぜ！）
ロディ「フッ、ハハハほんと、しつこい奴らだな（でも、悪くないな、こいつらとやるサッカーは）いくぜ円堂！グリフォンスピアー改！！」
円堂「ゲートガーディアンＶ３！うぉぉぉ！」
パリーン
円堂「ぐぁ！」
ピィィィ
ジェリー「ゴ、ゴール！ロディ王子が決めた！Ｂチーム同点です！」
ピィピィピィィィ
ジェリー「試合終了！戦士同時の戦いは引き分けに終わりました！」
不動「腕を上げたね、鬼道くん。」
鬼道「お前もな。」
ロン「楽しかったぜ、円堂！」
円堂「俺もだ！ロディ。」
ロディ「確かにお前たちのサッカーは違う、ＯＫ俺も力貸すぜ！」
ルイ大王「ロディが笑った！？」
エミリア姫「円堂さんたちが変えてくれたのですね！」
ロディ「ん？円堂？なぁ、お前の近くに大介って名前の奴いるか？」
円堂「じいちゃんの事だっ！！」
ロディ「じいちゃん！？どうりでサッカーの事になると熱くなる訳だ。」
エミリア姫「聞いた事あります！その人、未来から来たって。」
円堂「じいちゃんもタイムスリップでこの国に！？」
ロディ「確か５年前の事だ、その人からこの国のサッカーをやる人のためにある物をくれたんだ。」

木野「ある物？」
ロディ「円堂大介
特別秘伝書」
円堂「えぇ～！？」
夏未「あれが最後のノートじゃなかったのね」

イナズマ王国にある円堂大介　特別秘伝書、いったいどんな必殺技が書かれているのか！？
待て！！次回！！

第２６話　みんなの熱き思い、揺れるロディの心！（後書き）

次回予告　城の中にじいちゃんの秘伝書が、そして未来でおこった事とは？
第２７話　戦士の新たなる力、いざ未来へ！

イナズマイレブン、今日の格言
ロン「サッカーは楽しいからみんなと走り続けるんだ！」
以上

第27話　戦士たちの新たなる力、いざ未来へ

未来のイナズマ王国
ヒビキ提督「最凶集団、ジェネラルはどうだ！」
部下A「順調です。」
ヒビキ提督「過去に行ったガキたちも後少しでこの未来にやって来る、早めに完全に仕上げるのだ！」
バダップ「提督！」
ヒビキ提督「バダップ、何のようだ？」
バダップ「納得いきません！何故最強の我々オーガでなくジェネラルを！？」
ヒビキ提督「それは、もともとジェネラルを最凶集団に育てたからだ！」
バダップ「だからって！」
？？？「お前の時代は終わったんだよ、バダップ。」
バダップ「ザンデ！」
ザンデ「もともと俺たちジェネラルは、オーガより上だからな。くやしいだろ？」
バダップ「くっ！」
ザンデ「だったら、俺たちと試合をするか？」
バダップ「なんだと！？」
ザンデ「いいですよね？ヒビキ提督。」
ヒビキ提督「いいだろう、オーガが勝てばトップにしてやる。だが負ければ追放だ。」
バダップ「わかりました、覚悟しろ！ザンデ！」
ザンデ「フッ。」
過去のイナズマ王国
城の中
ロディ「ここにしまったんだ。」

音無「本がいっぱいですね！」
円堂「俺たち城の中に入ったけど。」
神無月「こんな場所があったなんて知らなかった。」
テルリン「でもなんで秘伝書使わなかったの？」
ロディ「読めなかったんだ。」
神無月「そんなに難しく書かれていたの？」
風丸「イヤ、それは…」
ロディ「確かこの辺に……あっ！あった、この本を。」
ポチッ
ズゥゥゥ
染岡「本棚が動いた！！」
壁山「映画みたいッス！！」
ロディ「あった！これだ。」
円堂「これがじいちゃんの特別秘伝書。なんだこれページ数が少ないな。」
ロディ「大介さんの話によると必殺技は3つしかないって。」
円堂「3つ？」
ピラッ
神無月「いったいなんて……なに、これ？」
メロディーヌ「字がメチャクチャで読みにくい。」
テルリン「まさか読めなかったから使わなかった理由って。」
ロディ「字がきたなくて読めなかったんだ。捨てようにも捨てられなくて。」
ロン「確かにこれじゃな。」
円堂「大丈夫！俺読める！」
エミリア姫「読めるんですか！？」
キングワールズの練習グランド
円堂「乗ってる技はキーパー技1つにシュート技2つ！」
ルイ大王「なんて書いてあるのだ？」
円堂「キーパー技は王様のオーラで止める

キング・ザ・ハンド！」
鬼道「キング・ザ・ハンド！？」
風丸「やり方は？」
円堂「まず、腕をバッテンにして、ドーンと構える。さらにそのままギューッと力を込めてバーンと腕を突き出す。
これがキング・ザ・ハンドなり」
ロン「なんだそりゃ」
南雲「訳わかんねー。」
涼野「シュート技は？」
円堂「１つ目はナックルバースト。」
エミリア姫「ナックルバースト？」
円堂「やり方は全身のパワーを左足にギュルルルルと溜めて、左にクルクルと回り強くライダーキック。」
吹雪「ライダーキック！？」
円堂「最後のシュート技はパーフェクトスマッシュ！この技は右足を大きくガバーと上げる、ドーンと地面にたたきつけるように振り落とす、そのときのに体中のパワーを右足に注ぐ、そしてばくてんして着地した後前方に低くビューンと跳び、ボールをドカーンと蹴る。これがパーフェクトスマッシュ！」
ヒロト「誰がやるんだい？」
円堂「ん～、そうだ！源田、キング・ザ・ハンドを身につけてみないか？」
源田「俺が！？」
ロン「その秘伝書、お前のじいさんのだろ。円堂、お前は身につけないのか？」円堂「俺、じいちゃんの秘伝書に頼らず自分の力で技を身につける。」
源田「……わかった、キング・ザ・ハンドをもらったぜ。」
ロン「円堂、ナックルバーストを俺にくれないか？」
円堂「ロン？」
ロン「俺も戦士ならこの技を習得したい！」

円堂「おぅ、頼むぜ！」
エミリア姫「最後のはパーフェクトスマッシュですね。」
ロディ「だったらその技俺が習得する。」
円堂「わかった、パーフェクトスマッシュはロディにやるよ。」
カノン「だったら今から練習しよう！タイムスリップの機会の充電完了まで明日だし。」
円堂「わかった！」
ゲープ「そうだ！円堂、秘伝書の技習得しないなら俺のキーパー技をやるよ。」
円堂「ゲープのキーパー技？」
ゲープ「名ずけて、
ハーミット・ザ・ハンド！」
円堂「ハーミット・ザ・ハンド！？」
鬼道「仙人の意味か。もしかしてキングワールズと試合をしてた時なにかやろうとしてたな。それがハーミット・ザ・ハンドか？」
円堂「でもなんで俺に？」
ゲープ「俺も戦ってるからだよ。」
円堂「えっ！？」
ゲープ「一緒に行けない分、心では一緒に戦ってる。」
円堂「・・・よし！ゲープ、ハーミット・ザ・ハンドのやり方を教えてくれ。」
ゲープ「まずは両手を開いて精神を集中させ気をためるんだ。その後気をためた両手でボールをキャッチする。円堂ならできるぜ！」
音無「でもゲープさんは何故出来なかったんですか？」
ゲープ「何かが足りなかったんだ。」
ヒロト「足りないって？」
ゲープ「わからない、でも俺には何かが足りないんだ。」
円堂「大丈夫！ゲープもあきらめなければ出来るぜ！」
ゲープ「ありがとう、円堂。」
円堂「みんな、練習始めようぜ！」

一方　未来のイナズマ王国
バダップ「ぐぁ！」
オーガ　０
対
ジェネラル　２５
バダップ「くそ～、デススピアー！」
ザンデ「オラッ！」
バシッ
バダップ「あっ！」
ザンデ「弱い弱い、闇魔の裁き！」
バダップ「うっ、うわわわ！！」ザゴメル、ブボー、ゲボー『ハイボルテージ！ぐぁぁ！』
バタッ
ザンデ「確かお前ら自分の事を鬼と言ったな、だたら俺たちは覇王だ。」
バダップ「くっ、くそ～！」
ガクッ
ヒビキ提督「素晴らしい！ジェネラルがこれほど素晴らしいかったとは、オーガを追放しろ！」
部下Ａ、Ｂ『はっ！』
ザンデ「無様だな、バダップ！フッフッフッハッハッハッハッハッ！」
過去のイナズマ王国
壁山「イナズマ落としＶ２！」
円堂「ハーミット・ザ・ハンド！ぐぁ！」
神無月「また失敗！」
メロディーヌ「守くんだけじゃなく、あっちも。」
源田「キング・ザ・ハンド！うわ！」
ロン「ナックルバースト！」
ゴォー　シュ～

ロディ「パーフェクトスマッシュ！」
シュ～
エミリア姫「みんな失敗ですね。」
ロディ「なかなか成功しないな。」
ロン「な～に、何度もやればいつかは出来る。」
円堂たちは新技を完成するため練習に励んでいたが、まだ完成せず
　そして次の日
カノン「充電完了だ！ひいじいちゃん、行こう！」
テルリン「大丈夫かしら？新技も完成してないのに。」
木野「大丈夫よ、みんな試合中に進化するもの。」
円堂「さぁみんな、未来に出発だ！」
戦士たち『おぉ～』

第２７話　戦士たちの新たなる力、いざ未来へ（後書き）

次回予告　ついに未来に来た俺たち、そこにいたのはなんとボロボロになったバダップたち！？
第２８話　来たぜ未来　相手はピエロ！？
イナズマイレブン
今日の格言
ゲープ「一緒に行けない分、心では一緒に戦っている。」
以上

第２８話　来たぜ未来　相手はピエロ！？

過去のイナズマ王国
円堂「早速行くぜ！」
エミリア姫「お待ち下さい。あなたたちのユニフォームを用意しました。」
木野「ユニフォームを？」
エミリア姫「コレです。そしてチーム名は、過去、現在、未来の方々で時の勇者！」
虎丸「時の勇者、かっこいいですね！」
エミリア姫「円堂さん、私も連れてって下さい。」
円堂「・・・わかりました、エミリア姫も一緒に行きましょう！」
メロディーヌ「いいの？守くん。」
ロディ「姉さんを連れてっても。」
円堂「大丈夫！力をあわせれば大切な人も守れるんだ！」
ロディ「わかった、姉さんはみんなで守ろう。」
カノン「ひいじいちゃん、行こう！」円堂「さぁみんな、未来へ出発だ！」
キラーン
パーン
円堂「ついたのか？」
テルリン「ここ本当に未来？」
カノン「間違いない、ここは未来のイナズマ王国だ！」
ヒロト「やっとついたんだね。」
冬花「誰か倒れてます。」
カノン「あれは、オーガ！」
佐久間「あいつらが！？」
神無月「でも、なんでこんな所に？」
夏未「しかもボロボロで。」

バダップ「・・・・・追放されたんだ。」
ロディ「追放！？」
バダップ「ジェネラルに・・・・・コテンパンにされてな。」
カノン「ジェネラルが！？もう完成していたのか！」
神無月「ジェネラルって？」
カノン「ヒビキ提督のチームの中でトップにするため作られた奴らだ。」
メロディーヌ「トップにするためって、それってひいきなんじゃ！？」
飛鷹「それより今ヒビキって！」
バダップ「そうだ、ヒビキ提督は円堂守の時代にいる響木正剛の子孫だ。」
豪炎寺「まさかそんなことが！？」
テルリン「なに、あれ。」
神無月「あれって、サーカスじゃない？」
テルリン「面白そうだから行ってみよう。」
円堂「おい、待てよテルリン。」
鬼道「（だがなぜ支配されているイナズマ王国にサーカスが？）」
円堂「テルリン。」
ドーン
円堂「うわ！！」
？？？「ようこそ、我がサーカスへ。私がヒビキ提督に使われるサーカス軍団のキャプテンピエトロだ。」
ロン「ヒビキ提督に使われる！？」
ピエトロ「このサーカススタジアムで貴様らを倒す。」
円堂「俺たちは絶対に負けない、絶対に勝つんだ。」
サーカススタジアム
エミリア姫「先発メンバーは最初のメンバーでいきます、ロディに風丸さんたちは今でも体を温めといって下さい。」
風丸たち『はい！』

時の勇者

FW

虎丸　11

豪炎寺　10

デメテル　21

MF

ヒロト　18

鬼道　14

アフロディ　19

佐久間　16

DF

寺門　5

飛鷹　7

ヘラ　13

GK

円堂　1

サーカス軍団

FW

ポリン　11

キュー　9

ムッチ　10

モン　7

MF

エレ　6

リング　4

DF

ブラン　2

リン　8

ラッグ　3

アクロ　5

GK
ピエトロ　1
ピィィィ
豪炎寺「虎丸！」
エレ「バカめ！バキュームボックス！」
豪炎寺「なに！？」
寺門「任せろ！」
エレ「たまのりピエロ！」
鬼道「なんて動きだ！」
エレ「ムッチ！」
ムッチ「ルーレットダーツ！
出る目はなぁにかなぁ～ジャガジャン《螺旋》いっくよ～
ルーレットダーツ」
円堂「ゴッドキャッチG4！ぐぁ！」
ピィィ
メロディーヌ「守くんのゴッドキャッチが破られた。」
木野「なんてパワーなの。」
虎丸「ならば、豪炎寺さん！タイガー」
豪炎寺「おう、ストームV3！！」
ピエトロ「アハハハハ、マジックハット」
スポッ
神無月「タイガーストームが。」
音無「止められた。」
ピエトロ「攻撃再開だ！」
デメテル「させるか！」
ラッグ「スーパーアルマジロ！」
デメテル「うわっ！」
ラッグ「へっ。」
ヒロト「今だ！」
バシッ

ラッグ「なに！？」
ヒロト「天空落とし！」
ピエトロ「マジックハット！」
スポッ
ピエトロ「モン。」
モン「綱渡り！」
鬼道「あっ、なに！？」
モン「パンドラボックス！」
円堂「ブレイク・ザ・ハンド改！ぐぁ！」
豪炎寺「フッ！」
バシッ
ピィィ
円堂「助かったぜ、豪炎寺。」
豪炎寺「あぁ、だがまだ安心出来ないぜ。」
エミリア姫「なんとか追加点は免れましたね。」
夏未「はい、でもそれでも円堂くんたちはおされたままです。」
キュー「はあっ！」
円堂「フッ！」
リング「どりゃ！」
円堂「ハッ！」
ピエトロ「しぶといな、あのゴールキーパー。」
ヒロト「虎丸くん！」
ブラン「行かせないよ、トランポリンシューティング！」
虎丸「うわっ！」
ズキッ
虎丸「うっ！？」
ピィピィィ
ピエトロ「前半終了したか。まあいい、後半もこっちの物だがな。」
円堂「くっそ～」
虎丸「うぁ！」

豪炎寺「虎丸！？」
木野「足首をひねったみたいね。」
エミリア姫「選手交代します。染岡さん、行けますか？」
染岡「おう！」
エミリア姫「そしてヒロトさんに代わり壁山さんをＤＦに入れます。」
壁山「はいッス。」
円堂「頼んだぜ、染岡、壁山。」
染岡「おう、必ず点を取るぜ！」
ピエトロ「あの馬の骨に何が出来る。」
染岡「なんだと！」
円堂「染岡」
染岡「大丈夫だ、あんな奴ら俺のシュートでビビらせてやるぜ。」
ピィィィ
エレ「たまのりピエロ！」
佐久間「あぁ！」
壁山「止めるッス、ザ・マウンテンＶ２！」
エレ「うわっ！」
壁山「鬼道さん。」
エミリア姫「壁山さんをＤＦに入れて守りも大丈夫です。」
鬼道「デメテル！」
デメテル「任せろ、行くぜ。リフレクトバスターＶ２！」
ピエトロ「マジックハット！」
スポッ
円堂「まだだ、まだ諦めるな！」
メンバー『おぉ！』
豪炎寺「絶対に点を取る！」
ブラン「行かせるかよ。」
豪炎寺「フッ、行け！染岡。」
ブラン「なに！？」

ピエトロ「そんな馬の骨に打たせても問題ない。」
染岡「ヘッ、いい気になるな！竜の魂よ、俺の右足に集え！
ドラゴンソウル！」
ピエトロ「マジックハット！」
バリーン
ピエトロ「ぐぁ！」
ピィィ
テルリン「やったー！」
風丸「染岡、完成させていたんだな、あの技を。」
木野「完成させていたって？」
風丸「円堂の力になりたくて新技を作っていたんだ。」
円堂「いいぞ染岡！」
染岡「約束どうり点を取ったぜ。」
ピエトロ「バッ、バカな、俺がこんな馬の骨ごときに！」
メロディーヌ「ナイスシュート、染岡くん！」
神無月「残り時間は後少し、円堂くんたちが点を取らないと！」
ムッチ「引き離してやる、ルーレットダーツ！」
円堂「染岡と壁山が頑張ってるんだ、絶対に止める！
真ブレイク・ザ・ハンド！」
バアーン
ムッチ「なに！？ルーレットダーツが！！」
ロディ「ブレイク・ザ・ハンド改が進化した！」
円堂「いっけ～！」
染岡「よし！」
ロン「染岡に渡った！」
源田「チャンスだぜ！」
リング、アクロ『させるか！』
染岡「来たか、行け！豪炎寺！」
豪炎寺「おぉ！
爆炎ハリケーン！」

ピエトロ「マジックハット！」
バリーン
ピエトロ「あぁっ！」
ピィィィ
涼野「よし。」
南雲「勝ち越しだ！」
ピィピィピィィ
円堂「よし、勝った～！」
ピエトロ「そんな、我らが負けるなんて。覚えてろ！」
サーカステントの外
エミリア姫「やりましたね、円堂さん。」
カノン「この調子だぜ！」
円堂「みんな、これが未来を救う一歩だ！」
時の勇者『おぉー』

第２８話　来たぜ未来　相手はピエロ！？（後書き）

次回　ジェネラルの元に向かう俺たち、そこへたどり着いたのはロディの大好きな場所！
第２９話　第２の刺客
チームアンドロイド
イナズマイレブン
今日の格言
円堂「力をあわせれば大切な人も守れる！」
以上

第２９話　第２の刺客チームアンドロイド

未来に来た円堂率いる時の勇者、第１の刺客、サーカス軍団に勝利し次の場所に向かうのだった。
イナズマ別荘地
円堂「いろんな家が有るな。」
神無月「別荘地のようだけど。」
カノン「ここはイナズマ別荘地だよ、ここに来る人は良く海水浴やスポーツをやるんだ。」
エミリア姫「でも随分静かですね、みんな別荘の中に入るのでしょうか？」
カノン「ヒビキ提督達が来てから誰も使わなくなったんだ。」
ロン「あっ！あんな所にサッカー場が！」
ロディ「ん？この海からの潮風、なんか懐かしい。」
カノン「懐かしいも何もここはあのイナズマ港なんだ。」
ロディ「えぇ～！！ここがあのイナズマ港なのか！？」不動「そう悄げるなよ、お前はこの時代にいねーんだし。」
風丸「不動、そんな言い方はないだろ！」
ロディ「まっ、それもそうだな。」
エミリア姫「ロディ、すっかり変わりましたね。」
ロディ「しかしなんか寂しいな、俺の大好きな釣りスポットがこんなに変わっちゃうなんて。」
ロン「本当、こう見ると未来に来たって感じだな。」
吹雪「そうだね。未来だからてっきりタヌキかネコのロボットのような街かと思ってたんだけど。」
？？？「ターゲット確認！」
源田「だれだ！」
？？？「我々はヒビキ提督に送られし第２の刺客、チームアンドロイド。」

エミリア姫「チームアンドロイド。」
マドラ「私がキャプテンのマドラだ。サーカス軍団を倒しいい気になるな！」
イナズマ別荘地スタジアム
エミリア姫「スタメンは大幅に代えていきます。」

ＦＷ
豪炎寺　１０
カノン　２０
ロディ　２３
ＭＦ
ロン　２２
鬼道　１４
不動　８
ＤＦ
風丸　２
吹雪　９
壁山　３
寺門　５
ＧＫ
円堂　１
チームアンドロイド
ＦＷ
マドラ　１１
ギャマン　１０
ルーン　９
トリトン　８
ＭＦ
セレーネ　６
セイブ　７
ＤＦ

ワイト　2
マイン　3
ティル　5
マイティ　4
GK
イージス　1
ピィィィィ
円堂「みんな、攻めてけ！」
鬼道「（おそらく奴らはサーカス軍団と戦った時のデータが入ってるはずだ、だが試合に出てない風丸達なら）ロディ！」
ロディ「任せろ！」
飛鷹「いきなりチャンスだぜ！」
ロディ「いくぜ！グリフォンスピアー改！」
メロディーヌ「先制点ゲット。」
イージス「フッ、カワセミハック！」
ズン
ロディ「なに！？」
神無月「グリフォンスピアー改を止めた！？」
イージス「ぬるすぎる、サーカス軍団はこんな奴らに負けたのか。行け！」
不動「行かせねーよ！」
セイブ「カゲロウ！」
不動「なっ！」
セイブ「マドラ！」
マドラ「くらえ、グラビティードロップ！」
円堂「ゲートガーディアンV3！」
パリーン
円堂「あっ！」
ピィィィィ
音無「先制点取られました！」

円堂「くっ、今度は止めてみせる。」
ピィィィ
不動、鬼道『キラーフィールズＶ２！』
セイブ、マイティ『うわっ！』
不動「豪炎寺！」
豪炎寺「爆炎ハリケーン！」
メロディーヌ「きた！爆炎ハリケーン！」
テルリン「これならいけるかも！」
イージス「カワセミハック！」
ズン
鬼道「あれも止めるのか！？」
イージス「ムダだ。」
エミリア姫「何か攻略法は無いのでしょうか？」
ヒロト「攻略法・・・・」
カノン「まだだ！ゴッドキャノン！」
イージス「無駄だと解らぬか！カワセミハック！！」
ズン
カノン「くっ！」
ヒロト「はっ！もしかしたら！」
佐久間「どうした、ヒロト！」
ヒロト「彼らは同じパターンで動いている。」
鬼道「パターンだと！？」
ヒロト「その鍵はあの三人だ。」
鬼道「アフロディ、南雲、涼野か。」
エミリア姫「わかりました、そうゆうことなら、選手交代です、カノンさん、ロディ、ロンさんに代わってアフロディさん、南雲さん、涼野さん。」
ロン「頼んだぜ！」
ロディ「任せたぞ！」
カノン「後は頼みます。」

マドラ「誰が来ようが同じ事だ。」
南雲「俺たちをなめるなよ！」
涼野「我々の力見せてやろ。」
ピィィィ
マドラ「かかれ！」
セイブ「オラッ！」
鬼道「ぐぁ！」
風丸「もらった。」
セイブ「なに！？」
風丸「アフロディ！」
アフロディ「よし、南雲、涼野いくよ！」
南雲、涼野『オォー！』
アフロディ、南雲、涼野『カオスブレイクＧ５！！』
イージス「カワセミハック！…ぐぁ！」
ピィィィ
神無月「やった！」
マドラ「くっ、やられた。」
ピィピィィィ
エミリア姫「同点に追いつきましたけどまだ油断は出来ません。」
円堂「はい、やっぱり奴らの技を止めるには、ハーミット・ザ・ハンドしかないのか！？」
ロン「しかしまだ完成していない、たがみんなで守れば光が見えるんだぜ！」
円堂「ああ、想う気持ちが俺の新たな力になるんだ！」
ピィィィ
マドラ「同点に追いつかれたが引き離してやる。」
寺門「行かせるか！」
バシッ
マドラ「くっ、なめるなー！！」
ドガッ

寺門「ぐぁぁ！」
鬼道「寺門！」
マドラ「さぁ、いくぜ！グラビティードロップ！」
円堂「俺はジェネラルを倒すんだ！」
カッ
バシッ
円堂「ぐわっ！」
風丸「うぉぉぉ！」
ガン
円堂「助かったぜ、風丸！」
風丸「気にするな、まだまだこれからだぜ！」
ロン「……ロディ、見たか？」
ロディ「あぁ、少しだが見えたぜ
アイツの背中に仙人が、仙人のオーラが」
円堂「次こそ！」
マドラ「オラッ！」
円堂「ハーミット・ザ・ハンド！・・・・ぐぁ！」
ルーン「だぁ！」
円堂「ハーミット・ザ・ハンド！・・・・うぁ！」
メロディーヌ「また失敗だ！」
染岡「だが完成はもう少しかもしれねーな！」
円堂「くそ、成功しない。」
豪炎寺「完成は近いかもしれないが、何かたりないのかもしれない？」
不動「だが、奴らの攻撃パターンじゃ円堂の技も通用しないぜ！」
鬼道「だったら、円堂。」
円堂「わかった！エミリア姫、選手交代させて下さい。」
エミリア姫「えっ！？はい。」
円堂「寺門に代わって源田をゴールキーパーに！」
エミリア姫「えぇ！円堂さんはどうするんですか！？」

円堂「俺はディフェンスに入ります。」
エミリア姫「円堂さんってディフェンダーも出来るんですか！？」
メロディーヌ「ミーも初めて見た！」
木野「性格には円堂くんはリベロなの。」
エミリア姫「リベロ？」
マドラ「誰が入ろうと俺のシュートは止められない！グラビティードロップ！」
源田「俺も円堂のように成長して強くなるんだ！
キング・ザ・ハンド！」
シューッ
マドラ「なに！？グラビティードロップを止めやがった！」
源田「ついに出来たぜ！キング・ザ・ハンドが！！」
円堂「源田！」
源田「おう！いけっ、円堂！」
円堂「鬼道、不動！」
マイン、ワイト『させん！』
鬼道、不動『キラーフィールズＶ３！』
マイン、ワイト『うわっ！！』
鬼道「アフロディ！」
アフロディ「いくよ、僕の新技を。
ゴッドブレイジング！」
イージス「カワセミハック！…ぐぁ！」ピィィィ
テルリン、神無月『やったー！』
夏未「ついに勝ち越したわ！」
ピィピィピィィ
マドラ「敗北、だと、我らにとって敗北は死」
カチカチカチ
鬼道「何の音だ？」
不動「まさか・・・・全員下がれ！」
神無月「え？」

ドカーン
ロディ「ば、爆発しただと！？」
カノン「ヒビキ提督は敗北して使えなくなったら捨てるんだ。他人のことなど気にしないで」
飛鷹「俺たちの時代の響木さんはそんな事しない！！」
ヒビキ提督の基地
（未来のイナズマ王国の城）
部下Ａ「ヒビキ提督！チームアンドロイドが敗北しました！」
ヒビキ提督「フン、使えん奴らだ。ここまで来ようが、こちらにはオーガをも越える最強のチーム、ジェネラルがいるのだからな！」

第２９話　第２の刺客チームアンドロイド（後書き）

ジェネラルに敗北オーガが俺たち協力してくれる。
第３０話　ジェネラル対策、オーガの友情特訓
次回特別企画
オリキャラ募集
イナズマイレブン
今日の格言
円堂「想う気持ちが俺の新たな力になるんだ！」
以上

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6641v/

イナズマ11

2011年12月26日23時54分発行